

秩序ヲ害スル所爲ノ外之ヲ罰スルヲ得ス換言スルハ國ノ安寧秩序ヲ維持スル爲メ必要ナル場合ノ外刑ノ制裁ヲ適用スルヲ得ス是レ刑法ノ性質ヨリ發生スル所ノ原則ニシテ各國立法ノ上ニ於テ悉ク認ムル所ナリ學者刑罰權ノ基礎ヲ論スルニ於テ其說異同アリト雖モ彼ノ道德ト法律トヲ混同セル一種ノ異說ヲ除クノ外ハ此點ニ至テハ逕庭スル所ナク宛モ符節ヲ合シタルカ如シ今夫レ一般ヨリ觀察スル時ハ外國ニ於テ犯シタル罪ハ我國ノ安寧秩序ヲ害セサルモノナリ例ヘハ英國ニ於テ内亂ヲ起シタルモノアリトセンカ又例ヘハ米國ニ於テ人ヲ毆打シタル者アリトセンカ其所爲ハ惡事タルニ相違ナシト雖モ我日本國ノ安寧秩序ヲ害シタルニ非サルコトハ事實上爭フヘカラサルノ事ナリトス此點ニ付テモ各國刑法ノ立法者皆然リトセサルハナシ予以爲ク我刑法ニ於テモ此凜然侵スヘカラサルノ原則ヲ認メタルコト

ハ毫モ疑ヲ存セサル所ナリ既ニ然リ即チ我刑法ハ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ罰セサル原則トナシタルヤ明ナリト謂フヘシ若シ之ニ背反シ我刑法ノ精神ハ實ニ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ罰スルニ在リトセハ我刑法ハ何ノ主義モ無ク何ノ原則モ無ク偶然生成シタルモノニシテ我法學ノ汚辱焉レヨリ甚シキハ勿カル可シ是レ我刑法ハ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ罰セスト論スルノ第一理由ナリ然レモ外國ニ於テ犯シタル罪モ其性質ト情狀ニ依リテハ我國ノ安寧秩序ヲ害スルコトアリ斯ハ如キ場合ニハ我國ノ刑法ハ之ヲ罰セサル可カラズ是レ各國刑法ニ於テ前ニ所謂國ノ安寧秩序ヲ害セサル所爲ハ之ヲ罰セストノ原則ニ例外ヲ設ク罪ノ種類ト條件トヲ定メ外國ニ於テ犯シタル罪ト雖モ之ヲ罰スル場合アルコトヲ明記セシ所以ナリ英佛伊獨等ノ如キ皆然ラサルハナシ而シテ不幸ニモ我現行刑法ハ此例外ノ場合ニ付キ之ヲ規定



一七二  
セ、我刑法ハ已ニ例外ノ規定ナシ故ニ外國ニ於テ犯シタル罪偶日本  
ノ安寧秩序ヲ害スルコトアルモ前ニ所謂一般ヲ支配スル原則ノ爲メニ  
制セラレテ之ヲ罰スルコトヲ得サルハ數ハ尤モ視易キ所ナリ若シ日本  
ノ安寧秩序ヲ害セラレタルヲ慣ルノ餘リ曾テ例外ノ規定ナキニモ拘  
ハラス反對ノ明文ナキヲ幸トシ之ヲ處罰セシカ是レ凜然犯スヘカラ  
サルノ原則ヲ蕪如シ我日本刑法ヲシテ無主義無原則ノ惡法ニ陷ラシ  
ムルモノト謂ハサル可カラス是レ我刑法ハ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ  
罰セスト論スルノ第二理由ナリ、刑事訴訟法第二十九條ハ規定シテ  
曰ク外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷ス可キモノニシテ  
云々ト此條文ニ依レハ我立法者ノ意中ハ已ニ外國ニ於テ犯シタル罪  
ニ付キ罰スルモノト罰セサルモノトハ區別アルコトヲ認メ刑法ニ於テ  
此區別ヲ爲ストテ必要トナスヤ明ナリ之ヲ換言スレハ前ニ所謂例外

ハ規定テ刑法ニ明規スルヲ待ツコト明ニシテ從ヒテ我刑事訴訟法ノ立  
法者ハ外國ニ於テ犯シタル罪ニ付キ其種類輕重ヲ問ハスシテ悉ク之  
ヲ罰スルコトヲ認メサルハ火ヲ賭ルヨリモ明ナリ唯怨ムクラハ我刑法  
ノ改正未タ行ハスシテ此法條ノ盡餅ニ屬スルコト是レ我刑法ハ外  
國ニ於テ犯シタル罪ヲ罰セスト論スルノ第三理由ナリ、或ハ外國ニ  
於テ犯シタル罪ニシテ日本ノ安寧秩序ヲ害シタルコト顯著ナルト例ヘ  
ハ其被害者日本人タル場合ノ如キハ我裁判所ニ於テ其罪ヲ治メ我刑  
法ヲ適用スト雖モ前ニ所謂刑法ハ國ノ安寧秩序ヲ害スル所爲ノ外之  
ヲ罰スルコトヲ得ストノ原則ニ觸ルコトナシト論スル者アリ若シ果シ  
テ此論ノ如クセハ其罰スル罪ト其罰セサル罪トハ裁判官ノ定ムル所  
トナリ從ヒテ其罪ノ種類ニ付テモ裁判官ノ意見ニ因リテ罰スルモノ  
ト罰セサルモノトアルニ至ラシ是レ明ニ裁判官ヲシテ立法者クラシ



一七四  
メ司法權ヲシテ立法權ヲ侵サシムルモノニシテ今日ノ日本ニ在リテハ固ヨリ不通ノ論ナリ故ニ深ク之カ反駁ヲ試ミルニ足ラサル可シ是レ我刑法ハ外國ニ於テ犯シタル所爲ハ總テ之ヲ罰セスト論スルノ第一理由ナリ予ハ此事ニ付キボアソナード氏ニ質問セシト有リ先生モ亦曰ク外國ニ於テノ犯罪ニ付キテハ必ス正條ヲ要シ正條ナクハ之ヲ罰スルヲ得スト以テ予ノ説ノ妄ナラサルヲ知ル可シ但シ予ノ説ニ依ルキハ罰セサル可カラサル犯罪ヲ不問ニ附スルノ不幸ヲ來タストアリ現ニ草按第四條ノ諸罪ノ如キ之ヲ罰セスシテ止ムハ實ニ遺憾ト謂ハサル可カラス然レモ是レ法文ノ缺漏ヨリ出ツル所ナルヲ以テ已ムヘカラサル結果ト謂フヘシ

外國ニ於テノ犯罪ヲ罰スルノ第一第二ノ問題ニ對シテハ已ニ其大要ヲ解説シタリ而シテ此等ノ問題ニ隨伴スル所ノ困難ナル疑問

内國外國ノ解

アリ即チ予カ屢述ヘタル内國ト云ヒ外國ト云フハ如何シテ之カ區別ヲ爲スカト云フト是ナリ此區別ハ一見明晰ニシテ殊ニ説明ヲ要スヘキ程ノモノニ非サルカ如シト雖モ仔細ニ之ヲ味フルハ實ニ困難ナリト謂ハサル可カラス一例ヲ擧クンニ茲ニ日本人ニシテ太平洋上ニ於テ叛逆ヲ爲シタル者アリトセン此犯罪ハ稱シテ内國ニ於テノ犯罪トスルヲ得サルカ如ク又太平洋ナル者ハ何レノ國ニ屬スルカ知り難キカ故ニ稱シテ外國ニ於テノ犯罪ト云フヲ得サルカ如シ然ラハ則チ太平洋上ノ犯罪ハ内外何レノ國ニ於テノ犯罪ト定ムヘキカ是レ即チ本問ノ困難ナル所以ナリトス

内外國ノ區別ニ關シテ我日本國ノ如キ地形ヲ有セル國ニ於テハ之ヲ大陸ハ諸邦ニ比較スル時ハ一層困難ナリ蓋シ大陸諸邦ハ其境界固ヨリ分明ナリト云フニ非サレモ兩土相接スルノ處一線ヲ以テ之ヲ劃ス



ルヲ得ヘシ我國ノ如キハ渺茫タル蒼溟四面ヲ圍繞スルヲ以テ實際  
 陸地ノミヲ内國ト稱スル乎或ハ陸地ヲ距ル海上何里以内ハ内國ト稱  
 スル乎此區別モ亦實ニ困難ナリトス  
 我刑法ニ於テハ本國ノ管内ナル語ヲ記スル處徃々之アリ第三百十條  
 ノ如キ是ナリ所謂本國ノ管内トハ内國ノ内ニシテ我國ノ主權ト所有  
 權ト有スル地球ノ一部分ヲ謂フナリ故ニ我國ニ於テ主權及ヒ所有  
 權ヲ有セサル處アラハ稱シテ本國ノ管内即チ内國ト謂フヘカラス此  
 主權ト所有權トニ關シテハ數多ノ議論有リト雖モ刑法ヲ攻究スルニ  
 當リテハ特ニ主權ニ就キテ辯明セハ則チ足レリ何トナレハ刑法ノ勢  
 力ノ及フヤ否ヤヲ論セントセハ主權ノ及フヤ否ヤヲ見レハ則チ可ナ  
 ルヲ以テナリ乃チ主權ノ及フ所ハ其場所ハ如何ヲ問ハス刑法ハ  
 勢力ノ及フ所ナルヲ以テ主權ノ及フ範圍ヲ確知スルハ眞ニ緊要欠ク

主權ノ及  
フ範圍

大洋上ノ  
犯罪

ヘカテサル條件ナリ而シテ其主權ノ及フ所ハ即チ内國ナリトス請フ  
 以下ニ主權ノ及フ範圍ヲ論究セン  
 日本國ノ陸地内ニハ到ル處トシテ我主權ノ及ハサルハ無シト雖モ我  
 國ハ蒼海中ニ在ル孤島ニシテ東南ニハ太平洋アリ北ニハ日本海アリ  
 而シテ西南ノ一角ニハ支那海アリ沿岸ニハ港灣到ル處トシテ之アラ  
 サルハ無シ故ニ此等ノ大洋沿海若クハ港灣ニ我主權ヲ及ホスヤ否ヤ  
 最モ判明シ難シ是レ解説ヲ要スヘキ點ナリトス予ハ先ツ大洋ヨリ之  
 ヲ辯セン  
 元來大洋ニハ何國ト雖モ唯主權ヲ有スルト無キハミナラス所有權モ  
 亦有スルヲナシ大洋ニ所有權ナシト云フニ付キテハ數多ノ議論アリ  
 ト雖モ現ニ萬國公法ニテハ大洋ニハ何國モ所有權ヲ有セスト爲セリ  
 大平洋印度洋若クハ大西洋等悉ク然ラサルハナシ何故ニ大洋ニハ所



有權ヲ有スルヲ能ハサル乎夫レ大洋ナル者ハ實際上一國ノ威力ノ下ニ於テ他ノ于涉ヲ排除シテ之ヲ所持スルヲ能ハサル者ナリ或ハ數萬ノ軍艦ヲ派遣シテ之ヲ洋上ニ散浮スル時ハ大洋ノ一部ヲ所持スルヲ得ルト想像スル者アラシカ是レ大洋ノ性質ニ於テ爲シ得ヘキ事ニ非サルナリヨシヤ所持スルヲ得ル者トスルモ固ト大洋ハ此國ヨリ彼國ニ通スル航路ニシテ何レノ國ニ於テモ等シク使用スル所ノモノナリ例ヘハ空氣ノ如シ空氣ハ人類ノ共ニ供用シテ生活ヲ遂クル所ノモノナレハ我獨リ取テ以テ有スヘカラス之ニ由テ大洋モ亦獨リ一國ニ於テノミ之ヲ所持スルヲ能ハサルナリ已ニ之ヲ所持スルヲ能ハスレハ所有權ナキトハ理ノ最モ賸易キ所ニシテ萬國公法ニ於テ大洋ニハ何國ト雖モ所有權ナシト爲シタル所以此ニ在リトス

已ニ大洋ニハ所有權ナシ故ニ之ニ對シテ命令スル所アリト雖モ他國

ニ對シテ効カサルトナシ夫レ大洋ハ我國獨リ所有スヘカラス又命令スヘカラス故ニ大洋ニハ我主權ヲ及ホスヲ能ハサル者ナリ然リト雖モ已ニ述ヘシ如ク大洋ハ各國共ニ供用スル所ハ者ナルカ故ニ格段ノ國ニ限リ之ニ對シテ主權ナキモ各國ハ主權ハ共ニ等シク之ニ及フ者トス依テ大洋ニハ各國共ニ警察權ヲ有スル者ト謂フヲ得ヘシ是故ニ我國ノ船艦太平洋ヲ航スル時海賊アリテ之ヲ侵掠スルヲ有レハ我ハ之ヲ逮捕スルノ權アリ已ニ之ヲ逮捕セハ我刑法ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得但シ此海賊英佛魯諸邦ノ如キ我國ニ對シテ治外法權ヲ有スル國ノ人ナル時之ヲ罰スルニハ如何スルカト云フ疑問ハ第三問題即チ外國人日本ニ於テ犯シタル罪ヲ如何ニスルカト云フ場合ヲ説明スルニ當リテ併セ説クヘシ海賊ノ罪ハ草按ニ規定シタリシカ審査修正ノ際之ヲ削除セリ蓋シ此事ハ固ヨリ萬國公法ノ定ムル所ナルヲ以テ之



港灣又ハ  
管内ノ  
犯罪

ヲ削除セサルモハ重複ノ煩アレハナリ  
 以上説ク所ニ由リテ考フル時ハ大洋上ハ犯罪ニ付キテハ各國共ニ之  
 チ管轄シテ罰スルヲ得ル者ナリ故ニ大洋ハ内國ナリヤ將ハ外國ナリ  
 ヤヲ區別スルノ必要ナク即チ大洋ニ於テハ犯罪ハ内國若クハ外國ニ  
 於テハ犯罪ナリヤ否ヤヲ研究スルヲ要セス而シテ彼ノ日本海ト云ヒ  
 支那海ト云フ如キ者ハ大小ノ差ニツアン大洋ト同一ナル理由ニテ解  
 セサル可カラサルナリ  
 然ラハ則チ日本海ノ沿海又ハ港灣ニハ我主權之ニ及フヤ否ヤ曰ク其  
 主權ハ及フハ既ニ萬國公法ノ認めル所ナリ故ニ港灣ノ如キハ大小  
 廣狹ノ差アリト雖モ皆我國ノ管内ナリトス何故ニ港灣又ハ沿海ハ管  
 内ナリヤト云フニ夫ノ大洋ニ與ヘタル理由ノ反對ヨリシテ解スルヲ  
 得ヘシ蓋シ大洋ニハ我主權若クハ所有權ナシ故ニ日本ノ管内ニ非ス

港灣若クハ沿海ニハ我主權若クハ所有權アリ故ニ日本ノ管内ナリ但  
 シ果シテ所有權アルヤ否ヤ理論上疑問ヲ生セサルニ非サルナリ  
 沿海ヲ以テ管内ト爲スニ付キテハ多少ノ困難アリ總テ沿海ハ遠ク大  
 洋ニ联接シテ固ヨリ判然タル經界アルニ非ス故ニ陸地ヲ去ル幾何マ  
 テハ沿海ナリヤ實際上之ヲ區別スルヲ甚々困難ナリトス然レモ之ヲ  
 限制スルヲ能ハサルニ非ス即チ我國ニ於テ陸地ヨリシテ所有スルヲ  
 得ル所ノ處マテ即チ陸地ヨリシテ我主權ヲ及ホシテ我國ヲ支持シ保  
 護シ得ル部分マテヲ限リト爲ス故ニ今日マテハ各國共ニ海岸ヨリ鐵  
 砲ヲ放チ其彈丸ノ到達シ得ル處ヲ以テ限界ト爲シ而シテ其限界内ヲ  
 沿海ト爲シ其國ノ管内ト爲セリ即チ原語ニテ「メル」トリヤ「ル」  
 譯シテ陸海又ハ地海ト云ヒ又「オリ」トリヤ「ル」譯シテ土地ノ水ト  
 云ヒテ萬國公法ニ於テ定ムル所ナリトス



斯ク論シ來レハ港灣又ハ沿海ハ我管内ニ屬スル者ナレハ之ヲ稱シテ日本ノ管内即チ内國ト爲ス故ニ港灣又ハ沿海内ノ犯罪ハ内國ニ於テノ犯罪ナリトス然リト雖モ熟テ考察ヲ下ス時ハ他ニ又一箇ハ原則アリテ前ニ述ヘ來リタル理論ト牴觸ヲ相爲ス即チ主權ト主權トハ衝突ヲ生スル有リ以下之ヲ辯明セン

主權ト主權ノ衝突

國トハ何ソヤ例ヘハ日本ノ如キ廣袤二百餘萬方里ノ土地ヲ指シテ日本國ト稱スヘキカ曰ク否所謂國トハ此ノ如キ有形上ヨリ觀察ヲ下ス者ニ非サルナリ夫レ國トハ人民ハ集合體ハ稱呼ニシテ無形上ヨリ觀察シタル者ニ過キス故ニ土地ト國トハ固ヨリ同一ハ者ニ非スシテ國ハ無形上座テ土地ハ上ニ占ムル者ナリ故ニ今假リニ朝鮮ノ人民ヲシテ悉ク南洋ノ無人島ニ轉移セシムル時ハ朝鮮國ハ爲メニ滅亡セルニ非スシテ南洋ノ無人島ニ一ノ朝鮮國ヲ創成スト謂フヘシ故ニ曰ク國

トハ唯無形上ノ稱呼ナリト茲ニ國ト云ヘハ之ヲ支配スル所ノ主權アリ其主權ノ及ホスヘキ範圍ヲ論スル時ニハ何ソ必スシモ無形ノ集合體カ坐スル土地ト相密着セシメテ之ヨリ外ニ及ハサル者ト限ル可クソヤ故ニ主權ハ無形上何レハ土地マテモ延長セシムルヲ得ルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ我國ノ軍艦ニ數百人ヲ載セテ亞米利加ノ桑港ニ碇泊スル時ハ日本國ノ主權ハ無形ニ桑港マテ延長スト謂フヘシ即チ日本國ノ主權ハ桑港ニ在ル我軍艦内ニ及フト謂フヘシ是ト同シク外國軍艦我港灣若クハ沿海ニ碇泊スル時ハ外國ノ主權カ延長シテ我日本ノ管内ニ及フ者ト謂フヘシ予カ前ニ主權ノ衝突有リト云ヒシハ則チ此點ナリ何トシテハ外國ノ主權我管内即チ我主權ノ在ル處ニ及ヒ我主權ヲ外國管内即チ其國主權ノ在ル處ニ及ホスト有レハナリ然ラハ則チ我沿海ニ碇泊セル外國軍艦内ニ於テハ犯罪ハ我刑法ヲ以テ支



配スルカ將タ外國ノ刑法ニ依リ罰スルカ若シ軍艦内ノ犯罪ニシテ軍法會議ニ關スル罪官吏ノ職務ニ關スル罪又ハ懲戒ニ關スル罪ナルキハ我公安ヲ害スルヲ無キカ故ニ我刑法ヲ以テ支配スルヲ無シ例ヘハ機關手ノ船長ノ命令ニ抵抗スルカ如キハ毫モ我國ノ利害ニ關スルヲ無シ唯通常ノ犯罪ヲ爲ス時例ヘハ外國軍艦品川灣ニ碇泊シ艦中ニ於テ殺人罪ヲ犯スカ或ハ數人嘯集シテ爭鬪ヲ爲ス等ノ事アル時ハ我國ノ公安ヲ害セラレ且我警察ノ保護ノ行届カサルヨリシテ生シタル所爲ナルヲ以テ我國ニテ之ヲ罰シ得ルカ如シト雖モ萬國公法ハ定ムル所ニテハ其國ノ管内ニ碇泊セル船カ外國軍艦ナルカ或ハ外國政府ノ所有スル船舶ナル時ハ其軍艦又ハ船舶ハ治外法權ヲ有スルト爲セリ是レ即チ其國ノ主權カ延長シテ軍艦内ニ及ホシタル者トナシタルニ由ル加之軍艦ナル者ハ事實上ノ城砦ト見ルヲ得サルニ非ス故

ニ外國軍艦内ノ犯罪ハ假令我管内ニ於テスルモ我刑法ノ勢力ヲ及ホス限リニ在ラサルナリ然レモ已ニ艦内ヲ出ツルカ或ハ上陸シテ罪ヲ犯ス時ハ已ニ治外法權アルヲ無シ故ニ其犯人ノ船長タルト水夫機關手タルトヲ問ハス悉ク我刑法ノ支配ヲ受ケサル可カラス但シ此場合モ亦第三問題ニ關スル所アルヲ以テ後ニ至リテ之ヲ説明セン外國軍艦又ハ其政府所有ノ船舶ニ非スシテ外國人ハ已私有ニ歸スル船舶ハ我沿海内ニ在リテ其中ノ犯罪ニ付キテ我刑法ハ勢力之ニ及フヤ否ヤハ議論アリト雖モ此等ノ船舶ニハ固ヨリ刑法ハ勢力ヲ及ホスヘキ者トス蓋シ此等ノ船舶ハ固ヨリ其國ノ法律ヲ遵守セサル可カラスト雖モ其國ノ主權カ此等船舶内ニ延長シ來リタル者ト謂フヘカラス即チ此等船舶ハ治外法權アリト爲スヘカラス故ニ其犯罪ニシテ職務ニ關スル者若クハ懲戒ニ關スル者ノ如キハ之ヲ不問ニ附スルヲ



得ヘシト雖モ我國ノ公安ヲ害スル犯罪ナル時ハ我國ハ我刑法ヲ以テ之ヲ支配スルノ權アリトス又我公安ヲ害セサル罪ト雖モ其船長又ハ被害者ヨリ鎮壓保護ノ處分ヲ請求スル時ハ我國ハ我管内ノ碇泊船ヲ保護スルノ權アルカ故ニ隨ヒテ之ヲ處分スルノ權アル者トス以上二個ノ場合ハ習慣上斯ク處分スル事トナレリ

諸君、予カ屢ニ揭ケタル内外國ノ區別ニ關シタル數多ノ問題ハ以上ノ解説ヲ以テ稍分明ナリト信ス乃チ之ヲ約言シテ止マシ

一、内國ト外國トノ區別ハ其國ハ主權ハ及フト否ヤトニ由リテ之ヲ區別ス

二、大洋ハ何レノ國モ所有權アルトナシ又主權アルトナシ然レモ大洋ハ各國ノ共用物ナルヲ以テ各國等シク警察權アリ故ニ大洋上ハ犯罪人ハ逮捕セラレタル國ノ管轄ニ屬ス

三、軍艦若クハ政府ハ所有ニ係ル船舶ハ何レノ國ニ入ルモ其國ハ主權ヲ延長シタル者ニシテ即チ治外法權ヲ有ス但シ外國人ハ己ハ船舶ナレハ治外法權ヲ有スルト無ク其所在國ハ支配ヲ受クヘキ者トス

以上説ク所ハ海ヲ以テ圍繞スル國ニ通スル所ノ論ナリ若シ夫レ陸地ヲ以テ境域相接スル國モ亦多少ノ困難ヲ生セサルニ非ス例ヘハ一國政府カ他國ヲ攻撃セントシテ或國ヲ通過スルニ當リ途上犯人アル時ハ之ヲ如何ニスルカ此場合ニハ一國ハ或國ニ對シテ其通路ヲ借用スル條約ヲ訂結スルヲ例トスルカ故ニ犯罪者處分ノ事モ亦條約書中ニ規定スル者トス

又予ハ屢ニ沿海又ハ港灣ニ所有權アリヤ否ヤニ付キ議論アリト云ヒタリ乃チ日本ニ於テハ品川灣ニ所有權アリヤ否ヤ若シ之アリトスル



外國人日本  
ニ於テ  
犯罪シタル  
場合

時ハ我國ハ自由ニ外國船ノ通航ヲ妨害スルコトヲ得ル筈ナリ何トナレ  
ハ所有權アレハ隨ヒテ處分スルノ權アレハナリ但シ此等ノ疑問ヲ決  
スルハ刑法講義ノ範圍外ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ今ハ之ヲ略セン  
第三 外國人日本ニ於テ罪ヲ犯シタル時  
予ハ本問ヲ講スルニ當リ先ツ腦裏ニ奇怪ナル疑問ノ浮ヒ來ル者アリ  
即チ外國人日本ニ於テ罪ヲ犯シタル時ハ之ヲ如何ニ處分スルヤノ問  
題ハ何カ故ニ之ヲ掲ケタル乎ト云フコト是ナリ抑日本國ニ於テ日本刑  
法ニ規定シタル罪ヲ犯ス者アル時ハ我刑法ヲ以テ之ヲ罰スルハ毫モ  
疑フヘカラサル事ナリ其之ヲ罰スルニ於テ何ソ犯罪者ノ内國人タルト  
外國人タルトヲ區別スルヲ要センヤ然ルニ刑法ヲ講スルニ當リテ一  
問題トシテ之ヲ考究スルハ我國ヲ除クノ外何國ト雖モ之アルコトナカ  
ラン且ヤ今日更ニ本問題ヲ掲ケテ之ヲ講セサル可カラサルノ必要ア

ルハ抑何ノ故ソヤ  
夫レ刑法ナル者ハ特ニ土地ヲ支配スル法律ニ非サレ一土地ニ在リ  
テ其法律ノ保護ヲ受ケツハアル者ハ何人ト雖モ之ニ服從セサル可カ  
ラス蓋シ日本國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ我刑法ヲ適用スルハ所謂  
社會刑罰權ヨリ出ツル者ニシテ即チ其所爲ノ道德ニ背キ我社會ヲ害  
スルコト有レハナリ已ニ背德加害ノ事ヲ爲ス者ハ刑罰ヲ受ケサル可カ  
ラサルハミナラス我社會ハ保存ヲ圖ルハ必要ヲ生ス然ラハ則チ其犯  
人ハ内國人ヲ區別スルハ必要アラサルナリ若シ之ニ反シテ我刑法  
ハ唯我日本人ノミヲ支配スルカ爲メニ設ケタルモノニシテ外國人ハ  
之ヲ罰スルコトヲ得ストスレハ我刑法ハ何ノ爲メニ存在スルカヲ知ル  
能ハス言テ換ヘテ云ヘハ我刑法ハ背德加害ノ所爲ヲ寬假シ我社會ノ  
安寧ヲ維持スルコトヲ期圖セサル者ナリ若シ又日本ノ裁判所ハ其管内



ニ在ル犯人ヲ罰スルヲ得ストセハ日本ノ裁判權ハ其レ何レノ處ニカ  
 在ル裁判權ナル者ハ主權ノ一大部分ナレハ日本ノ主權ノ一大部分ハ爲  
 メニ侵害セラレタル者ナリ否日本ノ躰面ハ爲メニ毀壞セラレタル者  
 ト謂ハサル可カラサルナリ  
 抑國內ニ於テ一ノ犯罪者アルニ當リ之ニ刑罰ヲ與ヘテ毫モ假ス所ア  
 ルヲ無キハ固ヨリ外國トハ條約アリテ後ニ然ルニ非ス唯之ヲ罰シテ  
 以テ社會ヲ保存スルノ必要アレハナリ故ニ外國人ノ犯罪ニ對シテ其  
 刑法ヲ適用スルト否トハ固ヨリ我ニ屬スル者ナレハ外國ニハ關係ス  
 ル所ナシ或ハ内外兩國ノ刑法ヲ比較スレハ彼ノ刑輕クシテ我ノ刑重  
 ク彼レ之ヲ問ハサルニ我レ之ヲ罰スルヲ有リテ實際上我刑法ヲ以テ  
 外國人ヲ罰スルニハ唯大ナル不權衡ヲ來スノミナラス無罪ヲ罰スル  
 事トナルカ如シト云フ者アレヒ是レ敢テ然ルニ非サルナリ凡ソ犯人

ヲ罰スルノ必要ハ各國同一程度ノ者ニ非ス彼レ之ヲ必要トスルモ我  
 レ之ヲ必要トスルヲ有ル可ク我ノ利益ハ彼ノ不利益タルヲ有ル可  
 シ故ニ我刑法ヲ以テ外人ヲ罰スル時ハ或ハ嚴酷ニ失スルヲ有ル可シ  
 ト雖モ是レ獨リ外人ニ對シテノミ然ルニ非ス我國人ニ對シテモ亦然  
 ルヲニシテ彼我其差違アルニ非ス又偏頗アルニ非サルナリ或ハ外國  
 ノ法律ハ善美ニシテ我國ノ法律ハ不完全ナリ故ニ外人ハ我刑法ニ服  
 從スルヲ得スト謂フ者アレシ然レヒ是レ畢竟兩國法律ノ完不完善  
 不善ヲ論議スル者ニシテ因テ以テ我刑法ノ支配ヲ免レントスルモ能  
 ハサル所ナリ又或ハ唯兩國治罪ノ手續ニ不同アルノミナラス或ハ我  
 治罪手續ニ不完全ナル事アルカ故ニ外國人ヲ支配スヘカラスト云フ  
 者アレシ是レ亦刑法ト同シク内外國人ノ間ニ差違偏頗ナクシテ之ヲ  
 以テ口實ト爲シテ議論スルヲ得ヘカラスナルナリ



是ヲ以テ歐洲大陸ニテハ國內ノ犯罪ニ付キテハ内外國人ヲ區別セズ  
 總テ其法律ノ支配ヲ受クルト爲セリ即チ内人外人ヲ問ハス皆其國  
 ノ法律ニ對シテ責任アルトヲ認ム現ニ獨逸魯西亞白耳義等ノ諸邦ニ  
 テハ刑法ニ正條ヲ掲クテ以テ之ヲ示セリ今之ヲ法理ニ徵シ實際ニ驗  
 スルニ已ニ此ノ如ク毫モ其間ニ疑ヲ懷クヘキ事ナシ奇怪ナル哉獨リ  
 我國ニテハ之ヲ刑事ノ問題トシテ講究スルノ必要アルヲ諸君ヨ諸君  
 ハ予カ以上述ヘタル所ニヨリテ考フレハ外國人ハ我國内ニ在ル時ハ  
 我刑法ノ適用ヲ受クヘキ者ナリト斷言セラルハヤモ計リ難シト雖モ  
 道ハ唯理論上然ルハミニシテ之ヲ實際ニ徵スルニ或ル多クハ外國人  
 ハ我國内ニ於テ治外法權ナル特種ノ權ヲ有スルヲ以テ我刑法ノ適用  
 ヲ免ル即チ或外國人ハ我刑法ニ對シテ刑事ノ責任ナシ是ノ特ニ第三  
 問題ヲ講究スルノ必要アル所以ナリ

治外法權

治外法權ナル文辭ハ其意明晰ヲ缺クト雖モ原語ノ所謂エクス territ  
 リアリテ一ニシテ事實上我ヨリ彼ニ對スル辭ニ非ス彼ヨリ我ニ對ス  
 ル語ナリ即チ外國人ハ我法律ニ對シテ責任ナシト云フニ外ナラス抑  
 此事タル固ト我國ト外國トノ條約ヨリ出ラタル者ナレモ其條約タル  
 實ニ奇怪ノ事ヲ締約シタル者ト謂ハサル可カラズ聞ク其條約ニ據レ  
 ハ外國人日本國ニ在リテ日本人ニ對シ若クハ外國人ニ對シテ罪ヲ犯  
 シタル時ハ外國ノ法律ニ從ヒ我國ニ在ル外國領事廳ニ於テ裁判ス民  
 事ハ日本人原告ニシテ外國人被告ナル場合ニハ外國領事廳ニ訴ヘ之  
 ニ反シテ外國人原告ニシテ日本人被告ナル時ハ日本ノ裁判所ニ訴フ  
 ルト爲セリ此條約ヲ一見シタルノミニテモ我主權ノ一大部分即チ  
 裁判權又ハ日本人ノ自由權ヲ侵害セラレタルヲ知ルヲ得ヘシ民事  
 ニ付キテハ吾人ハ固有ノ裁判所ニ訴ヘサル可カラサル義務ヲ有ス否



訴フヘキ權利ヲ有ス然ルニ茲ニ訴フルヲ得スシテ彼ノ國裁判權ノ支配ヲ受ケサル可カラサルハ實ニ遺憾ノ事ナラスヤ刑事ニ付キテハ外國人ハ已ニ我刑法ニ對シテ責任ナキカ故ニ如何ナル罪ヲ犯スモ我社會ハ之ニ對シテ刑罰ヲ加フルコトヲ得サル可シ然リト雖モ外國人日本ニ在リテ如何ナル重惡ノ罪ヲ犯スモ我國ニテハ之ニ干渉スルヲ得スト云フニ非ス若シ外人ノ犯罪現行ナル場合ニハ直チニ之ヲ逮捕シ以テ其國ノ領事廳ニ送附スヘク又其犯罪非現行ナル場合ニハ外國領事廳ニ告訴發テ爲スコトヲ得ヘキナリ然レモ此干渉ヲ得ルヲ以テ外國人ハ我刑法ニ對シテ責任ナキニ非ストスルコトヲ得ス何トナレハ外國人カ日本人ニ對シテ犯シタル罪ヲ罰スルハ外國刑法ヲ以テシテ我國ノ與リ知ル所ニ非サレハ其犯人ヲ不問ニ附スルヤモ計リ難ク又非常ナル輕キ刑ヲ科スルヤモ知ル可カラサレハナリ乃チ外國人ハ我刑法

ニ對シテ毫モ責任アルコト無シ乃チ我刑法ハ外國人ニ適用スルヲ得サルナリ人或ハ曰ハシ外國人ハ自國ノ刑法ニ依リテ罰セラル、時ハ之ヲ日本刑法ニ比スレハ輕重寬嚴ノ差コソアレ等シク刑罰ヲ受クルヲ以テ實際上不都合ナカル可シト個ハ未タ其一ヲ見テ其二ヲ問ハサルノ說ニシテ實際兩國刑法間ニ於テ驚クヘキ差違アルヲ見ル請フ之ヲ左ニ列擧セン

我刑法ニ於テハ阿片烟ニ關スル罪ヲ規定シテ最モ重ク之ヲ罰セリ然ルニ佛國刑法ニテハ毫モ之ヲ規定セス故ニ佛國人若シ阿片烟ヲ輸入スルカ製造スルカ若クハ之ヲ販賣シ之ヲ吸飲シタル時ハ佛國領事廳ハ何テ以テ之ヲ罰セントスル乎蓋シ律ニ正條ナキヲ以テ無罪ト爲サ

然リト雖モ阿片烟ノ禁令ハ東洋特種ノ法律ニシテ歐洲ニテ唯佛國ノ



ミナラス他ノ諸邦モ悉ク之ヲ罰セザレハ其無罪トナルハ已ムヘカラ  
 サル事ナラン尙ホ一層重悪ナル罪ヲ犯シタル外國人ニシテ無罪トナ  
 ルコアリ即チ日本國內ニ流通スル貨幣ヲ偽造シタル者アル時ハ外國  
 ノ刑法ハ其所爲ヲ罰スルノ正條アリヤ否ヤ例ヲ換ヘテ曰ハハ日本人  
 日本國內ニ通用セサル外國貨幣ヲ偽造スル時ハ我刑法ハ之ヲ罰セス  
 故ロ外國刑法ハ其國人ノ日本國ノ貨幣ヲ偽造シタル者ヲ罰セサルヤ  
 明ナリ又一步ヲ進メテ適例ヲ舉ケンニ外人カ日本國ノ内亂ニ關スル  
 罪若クハ皇室ニ對スル罪ヲ犯ス時ト雖モ外國刑法ハ固ヨリ此罪ヲ問  
 フノ限リニ在ラサル可シ

以上掲ケタル例證ニ據レハ外國人ノ我刑法ニ對シテ責任ナキコ益明  
 瞭ナラン然リト雖モ茲ニ注意スヘキ者アリ諸君ハ刑罰權ヲ行フテ得  
 サル事ト自ラ防衛スルヲ得サル事トヲ混淆スルコ勿レハ外國人ノ犯罪

ニ對シテハ我社會ハ刑罰權ヲ實行スルコヲ得スト雖モ其犯罪カ吾人  
 ニ對シテ避クヘカラサル危害ナルキハ吾人ハ固ヨリ正當防衛權ヲ有  
 スルヲ以テ犯人ヲ殺傷スルコヲ得ヘシ即チ殺傷スト雖モ刑事ノ制裁  
 アルコ無レ諸君請フ留意セザレヨ  
 嗚呼予ハ例證ヲ舉ク理論ニ訴ヘテ此ニ至リ思ハス慷慨ニ勝ヘサル者  
 アリ夫レ治外法權ナル者ハ民事ニ在リテハ我國人ノ權利ヲ蹂躪セラ  
 レ刑事ニ在リテハ我國ノ刑罰權ヲ實行スルコヲ得ス我公安ヲ害セラ  
 レ我組織權ヲ損セラレ我最モ敬戴スル皇族ニ危害又ハ不敬ヲ加ヘラ  
 ル事アリトスルモ其犯人ハ外國人タルカ爲メニ之ヲ必罰スルコヲ  
 得ス知ラス何カ故ニ我社會ハ此悲ムヘク此不幸ナル境遇ニ陥リタル  
 カ苟モ日本人タル者ハ豈一日片時モ早ク治外法權ヲ廢滅セシムルコ  
 ヲ勉メサル可ケンヤ惟フニ治外法權ヲ約シタル當時ニ在リテハ事情



已ハハカラサル者アリタルヤモ知ル可カラサレ今日ノ日本ニ於テハ外人ハ治外法權ヲ保存スルノ理由及ヒ必要アルコトナシ實ニ之ヲ廢滅セシムルハ吾人ノ義務ナリト謂ハサル可カラス然リト雖モ治外法權ヲ廢スルハ實ニ容易ノ業ニ非サルナリ若シ舊時ノ攘夷論ヲ再興シ悉ク我國ニ在留スル若干ノ外國人ヲ放逐スル時ハ直チニ其目的ヲ達スルコトヲ得ヘシト雖モ此ノ如キハ道理ノ許サ、ル所ニシテ亦事實行フテ得サル所ナリ假リニ一步ヲ譲リ此事或ハ爲シ得ヘシトスルモ交通路絶ヘテ文明ノ源泉忽チ遮斷スルニ至ラン故ニ是等ノ手段ハ決シテ實行スヘキ所ノ者ニ非サルナリ

治外法權ヲ維持スル者ハ或ハ曰フ日本ハ刑法ハ不完全ナリ故ニ外國人ハ之ニ服従スルノ義務ナシト是レ今日ニ唱道スヘキノ議論ニ非ス今日ノ刑法ハ昔日ノ刑法ニ非スシテ之ヲ歐洲諸國ノ刑法ニ比較スル

モ優ル所アリテ劣ル所アルコトナシ彼ノ佛國ノ如キモ其刑法ニ至リテハ我ニ劣ルコト數等ナリ故ニ外人ハ我刑法ノ不完全ヲ口實ト爲スコトヲ得サルナリ

彼レ又曰フ日本ノ刑法ハ或ハ完全ナラ、然レモ刑法ヲ適用スルハ人即チ裁判官ハ未タ其人ヲ得スト予ノ思考スル所ニ依レハ何國ノ裁判官ト雖モ彼レ自ラ想像スルカ如ク充分ニ其人ヲ得タル所ナカル可シ彼レ又我治罪ノ手續ヲ以テ不完全ナリト云フカ歐洲諸國ト雖モ亦完全ナルニ非ス彼ノ文明ノ中心ヲ以テ誇稱スル佛國ニ於テスラ尙ホ今ヨリ十數年以前マテハ拷問ノ方實際ニ行ハレタリト云フ故ニ刑事上ニ付キテハ彼我敢テ等ヲ異ニスルニ非サルナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ我國ニ於テ治外法權ノ現存スルハ實ニ何等ノ理由ニ基ク者ナルカ予ハ之ヲ解スルコト能ハサルナリ惟フニ今日ニ至ル



マテ我ヨリ彼ニ向ヒ治外法權ノ廢棄ヲ請求シタルヲ無キニ非ス而シ  
 テ彼レ頭トシテ應スル所ナシ知ラス理ヲ以テ屈服セシムルヲ能ハサ  
 ル歟吾人ハ此ニ至リテ智力ト腕力トノ二者ヲ養成スルヲ勉ムルノ最  
 モ必要ナルヲ感スルナリ  
 治外法權ニ就キテハ此ノ如ク抗環シ來リタリト雖モ別ニ各國ニ於テ  
 一ノ例外トシテ認許スル所ノ治外法權アリ即チ外國公使ハ其駐在ス  
 ル所ノ國ノ刑法ニ服セサルト是ナリ此ハ唯外國ヨリ日本ニ來ル公使  
 ノミ日本刑法ニ對シテ責任ナキニ非ス日本ヨリ外國ニ派遣セラレタ  
 ル公使モ亦外國刑法ニ對シテ責任ナシ抑公使ニ四種類アリト雖モ孰  
 レモ等シク治外法權ヲ有ス且獨リ公使ノミナラス公使ト同一體ヲ成  
 ス家人若クハ公使ニ附屬スル役員ハ皆我刑法ニ責任アルヲナシ是レ  
 即チ萬國公法ニ於テ認ムル所ナリ何故ニ公使ハ駐在國ノ刑法ニ責任

ナキカ換言スレハ何故ニ公使ハ駐在國ニ對シテ治外法權ヲ有スルカ  
 其理由トスル所ハ彼ノ外國人カ我國ニ對シテ治外法權ヲ有スルカ如  
 キ毫モ理由ナキ者トハ日ヲ同シクシテ語ル可キニ非ス即チ是レ公使  
 ノ職務上ヨリ來ル所ノ者ナリ抑公使ナル者ハ國長ノ代表者タル資格  
 ナリテ外國ニ駐在シ彼我ノ紛争ヲ防キ平和ヲ保チ懇親ヲ厚フスルヲ  
 以テ職トスル者ナレハ公使ノ性質上獨立シテ他ヨリ侵犯スヘカラサ  
 ル者ナラサル可カラス若シ然ラスシテ駐在國ノ支配ヲ受ケサル可カ  
 ラサル時ハ焉ソノ國長ノ代表者タルニ在ラシヤ又焉ソノ自國ノ權利  
 ノ保護者タルニ在ラシヤ是レ外國公使ニ治外法權アリト爲シタル所  
 以ナリ然レモ外國公使ハ如何ナル兇惡ノ所爲ヲモ行ヒ得ルト云フニ  
 非ス公使ニシテ罪ヲ犯スカ如キト有ル時ハ駐在國ヨリシテ放逐セラ  
 ルト有ル可シ



土耳其埃及若クハ南米諸邦ハ如キ我國ト條約ナキ外國ノ人民カ我國内ニ至リテ罪ヲ犯シタル時モ亦我刑法ニ對シテ責任ナキカ曰ク責任ヲ有ス何トナンハ治外法權ナル者ハ條約ニ因リテ設ケタル者ナレハ條約ナキ國ニハ之ヲ適用スヘキニ非サレハナリ故ニ土耳其人等ハ我刑法ヲ以テ罰スルヲ得ルナリ

予ハ先キ二三ノ疑問ヲ存シ之ヲ本問題ノ解釋中ニ併論セント言ヒタリ曰ク我港内ニ碇泊セル外國軍艦中ノ犯罪ハ固ヨリ罰スヘカラサレモ乗組員上陸シテ罪ヲ犯ス時ハ如何犯人條約國ノ者ナラハ之ヲ罰スルヲ得スシテ外國領事ニ引致セサル可カラサルナリ又大洋中ニ於テ海賊ニ遇ヒ之ヲ逮捕シタリ其海賊條約國ノ者ナル時ハ之ヲ如何ニスルカ外國人カ我國内ニ至リテ罪ヲ犯シタル時ト同ク我刑法ノ責任ナキカ曰ク大洋中ノ犯罪ニ付キテハ各國等ク刑罰權ヲ有スルヲ以

テ之ヲ罰スルヲ得ルカ如シト雖モ實際上甚タ困難ナリ予ハ大洋中ノ犯罪ト雖モ犯人條約國ノ者ナレハ則チ其國領事廳ニ送附スルヲ以テ至當ナリト思惟ス

本問題ハ場合ハ之ヲ草按ニ徵スルニ第七條ニ掲ケタリ該條ハ日本管内ノ犯罪ハ日本ノ法律ヲ以テ之ヲ罰スト云フニ在リ予ハ我立法者ノ之ヲ削除シタリシハ其當ヲ得タリト信ス何トナレハ日本管内ノ犯罪ハ日本ノ法律ヲ以テ之ヲ罰スト云フハ固ヨリ自然ハ法理ニシテ敢テ明文ヲ要セサレハナリ獨逸等ニテハ其刑法中ニ外國人其國內ニ於テノ犯罪ノ場合ヲ規定セリ是レ予ノ賛成セサル所ナリ若シ本問ノ場合ヲ掲クルノ必要アリトセハ日本國ニ於テ日本人ノ犯罪ハ日本ノ法律ニ依リテ之ヲ罰スト云フヲモ掲ケサル可カラサルノ必要ヲ生スヘシ



以上講説スル所ニテ予カ曾テ掲ケタル第一第二第三ノ問題ハ全ク結了セリ因テ諸君ハ刑法ノ勢力ハ内外國ニ因リテ如何ナル差違アリヤ又内外人ニ因リテ如何ナル區別アリヤテ了解セラレタルナラント信ス

### 第二章 刑例

「刑例」トハ刑罰ニ關係スル一般ノ例則ナリ故ニ本章ニハ犯人ニ科スル刑罰ノ如何ヲ規定シタル者トス爰ニ諸般ノ刑罰ヲ説クニ先チテ所謂刑トハ如何ナル者ナリヤテ定メサル可カラス刑トハ之ヲ文辭上ヨリ解釋スルハ種々ノ意義アリト雖モ文辭ノ解釋ハ姑ク措キ法理上ヨリ刑ノ定解ヲ與ヘント欲セハ社會刑罰權ノ基礎ヲ定ムルノ如何ニヨリテ各異ナラサル可カラス試ミニ之ヲ言ヘハ賠償主義論者ハ曰フ刑トハ賠償ナリト此等ハ固ヨリ予ノ取ラサル所ナリ乃チ我立法者ノ採用

「刑ノ定解」

刑ノ三大區別

シタル折衷主義ヨリ定解ヲ下セハ刑トハ社會ノ公權ヲ以テ犯罪ヲ理由ト爲シ犯人ニ科スル所ノ痛苦ナリ之ヲ略言スルハ刑ハ痛苦ナリト是レ最モ適當ノ定解ナリト云夫レ刑ハ痛苦ナリ而シテ痛苦ヲ人類ニ與フル方法其類少シト爲サス然レ在之ヲ大別スルハ左ノ三個ノ外ニ出テス

- 一、人ノ身體ニ及ホス痛苦
  - 二、人ノ權利ニ及ホス痛苦
  - 三、人ノ心ニ及ホス痛苦
- 故ニ犯人ニ科スル刑罰モ亦此三種ニ止マル者トス即チ身體ニ及フノ刑權利ニ及フノ刑心ニ及フノ刑是ナリ以下簡單ニ此三種ノ解説ヲ爲スヘシ
- 一、身體ニ及フノ刑



身體ニ及フノ刑トハ直接ニ犯人ノ身體ニ痛苦ヲ感セシムル所ノ刑罰ニシテ此種ノ刑ハ多ク之アリ即チ生命ヲ奪フ者身體ヲ毀傷スル者若クハ身體ノ自由ヲ剝奪スル者等アリ其身體ヲ毀傷スル刑ハ今日文明國ノ採用スル所トナラス生命ヲ奪フ者若クハ身體ノ自由ヲ拘束スル者ハ各國多ク之ヲ採用ス我國ニ於テモ亦然リ即チ死刑ハ生命ヲ奪フノ刑ニシテ拘留禁錮禁獄懲役徒流刑ハ身體ノ自由ヲ剝奪スルノ刑ナリ

二、權利ニ及フノ刑

身體ノ自由ヲ剝奪スル刑若クハ生命ヲ奪フ刑ノ如キハ身體ニ及ホス者ナリト雖モ亦同時ニ權利ニ及フノ刑ト謂フヲ得ヘシ何トナレハ生存ノ權若クハ自由ノ權ヲ奪フヲ以テナリ然レモ前ニ所謂身體ニ及フノ刑ハ唯有形上身體ニ直接ナル影響アル刑ヲ一括シタルニ過キス故

ニ此ニ掲クル所ノ權利ニ及フノ刑トハ直接ニ權利ニ影響アル所ノ刑ニシテ即チ無形上ヨリ痛苦ヲ感セシムル所ノ者ナリ我刑法ノ所謂剝奪公權停止公權若クハ禁治産或ハ科料罰金沒收即チ是ナリ

三、心ニ及フノ刑

心ニ及フノ刑トハ直接ニ犯人ノ心情ニ痛苦ヲ感セシムル所ノ者ヲ謂フ總テ刑ハ痛苦ナルヲ以テ一トシテ心情ニ影響セサル者ナシト雖モ夫ノ身體ニ及フ者權利ニ及フ者ノ如キハ唯間接ニ心情ニ影響アル刑タルニ過キス所謂心ニ及フノ刑トハ彼ノ近時ニ至ルマテ行ハレシ呵責ノ如キ類ニシテ身體又ハ權利ニ影響ナクシテ直接ニ心情ニ痛苦ヲ與フル所ノ者ナリ此種ノ刑ハ其類甚ク鮮少ナリ古昔ニ在リテハ頻りに之ヲ採用シテ怪ム所ナシ即チ強迫シテ謝狀ヲ出サシムル刑認廷ニ於テ過ヲ謝セシムル刑又ハ枷示ノ刑異様ノ衣服ヲ着クシムル刑ノ如



キハ皆此種ノ刑ニシテ孰レモ害アリテ益ナキ所ノ者トス即チ唯恐ニ固執スルノ念ヲ誘起シ改過遷善ノ路ヲ絶タシムルノミナラス到底執行シ難キ所ノ刑タルニ過キス例ヘハ訟廷ニ於テ謝狀ヲ作ラシムルカ如キハ若シ犯人執拗ニシテ之ヲ肯セサル時ハ何ヲ以テ強ヒテ之ヲ作ラシムルヲ得ンヤ結局他ノ刑ヲ用非ルカ如キ場合ヲ生スルニ至ル是レ此種ノ刑ノ不正ナル所以ニシテ我刑法ニ於テ之ヲ採用セサルハ此ニ由ル他ノ文明國ニ於テモ亦皆然ラサルハナシ

刑罰ヲ與フル方法ハ犯人ノ身軀ト權利トニ痛苦ヲ與フルニ在ルハ既ニ之ヲ知ル然ラハ則チ刑罰ハ如何ナル目的ヲ有スル者ナルカ又此目的ヲ達スルニハ如何ナル性質ヲ有スル刑ヲ要スルカ此等ノ問題ヲ解スルハ尤モ必要ナリトス

刑ノ目的

書ニ曰ク刑ハ刑ナキニ期スト此語タル往古ヨリ傳フル所ニシテ真正ナル刑ノ目的ハ此一語ニ歸着スヘシ然リト雖モ是レ唯極點ヲ指示シタルニ過キス抑直接ナル刑ノ目的トハ將來ノ犯者ヲ警戒スルト再犯ヲ防遏スルト此二個ノ外ニ出テサルナリ

凡ソ一ノ犯罪アルハ其大小輕重ヲ問ハス必ス多小ノ惡例ヲ遺留スルハ免ル可カラサルナリ然ルテ法律ハ犯人アルニ方リ寛恕シテ以テ刑スルト無クシハ公衆ハ曰フ彼レ此罪ヲ犯シタリト雖モ法律ハ之ヲ罰セス如カス我モ亦罪惡ヲ爲サンニハト此ノ如ク法律ハ犯人ヲ刑セサル時ハ犯人愈増加シテ遂ニ社會ノ秩序ヲ維持スルニ能ハス是ヲ以テ法律ハ犯人アルハ輒チ必ス之ヲ罰シテ假ス所アル可カラス果シテ此ノ如クナレバ即チ一人刑セラレテ萬人ノヲ畏レ將來ノ犯者ヲ警戒シテ復タ罪ヲ犯スル無カラシム故ニ曰ク刑ノ目的ハ將來ノ犯者ヲ警戒



スルニ在リト而シテ此目的ヲ達スルニハ罪惡必罰ノ實ヲ示スニ在リ  
是レ刑ノ目的ノ第一トス

犯人ハ之ニ刑罰ヲ加ヘテ毫モ假ス所アル可カラス然レモ犯人ヲシテ  
前非ヲ悔ヒテ將來之ヲ再ヒスヘカラスト云フノ思想ヲ起サシムルニ  
足ラサルハ即チ刑罰ヲ科スルノ必要ナシ乃チ知ル刑ノ目的ハ再犯ヲ  
防遏スルニ在ルコトヲ之ヲ刑ノ第二ノ目的ト爲ス然シテ其目的ヲ達セ  
ルニハ二個ノ方法アリ其一ハ犯人ヲ拘束シテ復タ動ク能ハサラシム  
ルコト即チ有形上犯人ノ身体ヲ束縛シテ再犯スルヲ得サラシムルニ在  
リ此方法ハ一見スレハ適當ナルカ如シト雖モ言フヘクシテ行フヘカ  
ラサル方法ト謂フヘシ蓋シ終身犯人ヲ幽閉シテ獄ヲ出サ、ルハ爲ス  
ヘカラサル事ナリ去リ迎之ヲ出セハ忽チ再犯スルニ至ル可シ假リニ  
終身幽閉スルヲ得ル者ト爲スモ能ク再犯ヲ防止スルニ足ラス例ヘハ

二一〇

窃盜罪ヲ犯シタル者アリ終身之ヲ禁錮スルモ獄裏尙ホ窃盜ヲ爲スヲ  
得ヘシ且毆打罪殺人罪若クハ官吏侮辱罪ノ如キハ獄裏之ヲ犯スコト固  
ヨリ難キニ非ス侮辱罪ハ平常犯人ノ口ヲ掩フニ非サルハ之ヲシテ犯  
サ、ラシムルヲ得サルナリ故ニ第一ノ方法ハ再犯防遏ノ目的ヲ達ス  
ルニ足ラサルナリ其第二ノ方法ハ犯人ヲシテ過テ悔ヒ善ニ遷ラシム  
ルニ在リ此方法ハ實ニ正當ニシテ兇惡ナル犯人ヲシテ再犯セシメサ  
ルハ之ヲ措キテ他ニ良策アルヲ知ラサルナリ然レモ犯人ニ於テ刑ハ  
自己ノ罪惡ノ應報ナリト悟リシ過テ悔ヒ善ニ遷ルノ心ヲ發揮スレハ  
則チ可ナリト雖モ實驗上其反對ノ結果アルヲ見ル固ヨリ獄舎ハ學校  
ニ非ス即チ唯囚徒ノ教育ノミニ從事スルコトヲ得ス故ニ犯人ヲシテ過  
テ改メ善ニ遷ラシムルコトハ實ニ困難ナル事業ト謂フヘシ蓋シ近時各  
國共ニ監獄制度ノ改良ニ汲々トシ現ニ萬國監獄會議ヲ開キタル如キ



ハ悉ク刑ノ第二ノ目的ヲ達セント欲スルニ在ルナリ我國ニ於テモ亦改良會ヲ開ク者アリ之ニ關スル雜誌ヲ發兌スル者アリ監獄ノ處置ヲ指摘抗蹕スル者アリ感化院ヲ設ケテ惡少年ヲ薰育スル者アリ監獄改良ノ問題ハ已ニ我輿論ト爲リタルカ如シ實ニ欣喜ノ至リナリ夫レ刑ニシテ以上陳述シタル二個ノ目的ヲ達スルヲ得ハ犯罪跡ヲ絶チ刑措キテ用非ルニ處ナク所謂刑ハ刑ナキニ期スル極點ノ目的ニ到達スルヲ得ヘキヤ明ナリ

刑ノ性質

刑罰ヲシテ寛ニ失セス嚴ニ流レズ中道ヲ得テ以テ達セント欲スル目的ヲ達セシムルニハ善良正當ナル刑ヲ科セサル可カラス瞥見スレハ刑ハ有罪人ニ科スル痛苦ニ過キサルヲ以テ別ニ苦心シテ學問上ノ問題ト爲シテ研究スルノ必要ナキカ如シト雖モ是レ未タ考察ヲ爲サ

刑ノ具有  
實スヘキ性質

ルニ坐ス凡ソ刑ハ人ノ最貴重ナル生命自由若クハ財産ニ大關係ヲ有スル者ナレハ之ヲ科スルニ當リテ決シテ輕々ニ附スルコトヲ得ス若シ然ラズシテ不良不當ノ刑ヲ科スル時ハ刑ノ目的其レ何ヲ以テ達スルヲ得ンヤ故ニ予ハ歐洲學者ノ諸説ヲ拔萃シテ以テ刑ノ宜シク具備スヘキ性質ヲ示サシ

第一 刑ハ身體ニ及フヲ要ス

刑ニハ身體ニ及フ者權利ニ及フ者アリト雖モ刑ノ目的ヲ達スルニハ身體ニ及フ者ヲ以テ最モ適當ト爲ス其權利ニ及フ者ハ唯間接ノ効ヲ奏スルニ過キス蓋シ身體ニ及フ者ハ直接ニ身體ニ影響ヲ及ホステ以テ痛苦ヲ感スルノ度最モ強クシテ再犯ヲ防キ他人ヲ懲戒スルニ足ル之ニ反シテ權利ニ及フ者ハ痛苦ヲ感スルノ度強シト謂フヘカラス而シテ財産ニ關スル刑ニ至リテハ刑ニ因リ社會ヲ利スルノ嫌ナキ能ハ



ス是レ刑ハ身軀ニ及フヲ要スル所以ナリ  
 第二、刑ハ一身ニ止マルヲ要ス  
 刑ノ結果ハ宜シク犯者ノ一身ニ止マルヘシ換言スレハ有罪ヲ刑スルニ止マリテ之ヲ不幸ニ及ホスヘカラス古昔ニ在リテハ連坐ト稱シ一家ノ罪惡ハ直接ニ親戚ニ連ナリテ之ヲ罰シタリキ故ニ一人罪ヲ犯シタルカ爲メニ父母妻子兄弟姉妹悉ク首足所ヲ異ニスルカ如キ例少カラス之ヲ追想スレハ實ニ慄然タル者アリ然レモ予ノ茲ニ説明スルハ唯連坐ノ如ク現ニ不幸ヲ罰スルヲ以テ非ト爲スノミナラス間接ニ家人ニ影響アル刑ト雖モ亦之ヲ排斥セントス例スルニ悉ク犯者ノ家屋ヲ沒收スルカ如キハ犯人獨リ痛苦ヲ感スルノミナラス其妻子ヲシテ饑餓ニ陥ラシムル者ナリ故ニ家屋ヲ包括シテ沒收スルノ刑ハ不正ノ刑ニシテ文明國ノ刑法ニ於テ採用セサル所ノ者ナリ其レ然リ然レ

刑ハ到底犯者ノ一身ニ止マルヲ能ハス例ハ一部ノ財産ヲ沒收スルモ爲メニ家人ヲ苦ムヲ無キニ非ス其他貧窮者ニ多額ノ罰金ヲ科スル時ハ悉ク其家産ヲ賣却スルモ尙ホ足ラサル可シ或ハ完納スルヲ能ハスシテ禁錮ニ換ヘラルレハ家業ヲ廢止スルヲ以テ一家ノ活路忽チ絶ユルニ至ルヲ有リ又身軀ニ對スル諸刑ノ如キモ其影響ハ決シテ犯者一人ニ止ラス故ニ刑ノ一身ニ止マル可キハ希フヘシト雖モ之ヲ遂クルヲ甚々難シ強ヒテ之ヲ遂ケント欲セハ刑ヲ全廢セサル可カラサルニ至ル可シ

第三、刑ハ標式トナリ他人ヲ警戒スルニ足ルヲ要ス  
 予ハ刑ノ目的ヲ説クニ當リテ刑ハ他人ヲ警戒シテ罪ヲ犯サ、ラシムルヲ要ス之ヲ犯サ、ラシムルニハ罪惡必罰ノ例即チ標式ヲ示スニ在ルヲ辯セリ然レモ諸種ノ刑必ス此性質ヲ有スルニ非ス財産ニ及フ



ノ刑ハ標式ノ實ヲ見ルト少ク權利ニ及フノ刑ハ無智ノ民ヲ警戒スルニ足ラス但身體ニ及フ者ハ標式ノ實跡ヲ顯ハシテ罪惡ニ感染スルノ憂ヲ撲滅スルニ足ル死刑ノ如キハ最モ然リト爲ス然リト雖モ古昔ノ刑即チ梟首若クハ枷示ノ如キ野蠻ノ刑ハ敢テ標式トナラスシテ却テ嫌惡スヘキ結果ヲ生シタリ

第四、刑ハ犯者ヲ懲戒シテ悔悟セシムルヲ要ス

本題ハ已ニ刑ノ目的ヲ説クニ際シ略之ヲ辯シタシハ茲ニ之ヲ略ス

第五、刑ハ平等不偏ナルヲ要ス

刑ハ犯者ノ男タリ女タリ又ハ貴タリ賤タルヲ問ハス其痛苦ヲ平等不偏ニ感セシムルヲ要ス若シ然ラスシテ同一犯罪ニシテ彼ニ重ク此ニ輕ク又彼此刑ヲ異ニスルカ如キ有レハ刑ノ目的ヲ達スルコト能ハサルナリ然レモ此性質タルヤ之ヲ得ルコト甚ク難シ凡ソ人ニハ強弱智鈍ノ

別アリ貴賤男女ノ差アリ又廉耻ヲ重スル者ト重セサル者ト有リテ同一ノ刑ヲ科セラルト雖モ其痛苦ヲ感スルノ度均一平等ナラス甲者十日ノ苦役乙者ノ一年ヨリ強ク痛苦ヲ感シ丙ノ剝奪公權ハ丁ノ無期徒刑ト同シキカ如キ結果アルハ免ル可カラサルコトナリトス

第六、刑ハ分割ス可キヲ要ス

犯者數人アリテ其罪其刑皆相同シト雖モ其有罪的ノ度必スシモ同一ナラス惡ムヘキ有リ恕スヘキ有リ惡ムヘキハ重クシ恕スヘキハ輕クシ以テ有罪ノ度ニ適應セシメサル可カラス是レ刑ニハ之ヲ分割スルヲ得ヘキ性質ヲ要スル所以ナリ、身體ニ及フ有期ノ刑權利ニ及フノ刑ノ如キハ適宜ニ分割シテ科スルヲ得ルカ故ニ善ク此性質ヲ有スト雖モ死刑又ハ無期ノ刑ノ如キハ此性質ヲ缺ク者トス若シ死刑無期刑ヲ分割スレハ則チ死刑ニ非ス無期刑ニ非サル所ノ特別ノ刑ヲ生スルニ



至ル此點ヨリ論スレハ死刑無期刑ハ排斥スヘキノ刑ナリ而シテ我刑  
 法ノ之ヲ採用シタルハ何ソヤ這ハ後ニ至リテ明了ナラシ  
 第七 刑ハ補償シ取消スコトヲ得ル者ナルヲ要ス  
 裁判官ノ犯罪者ニ刑ヲ適用スルニ當リテハ法律ニ據リ證據ニ徴シテ  
 審定スル者ナリト雖モ人智限り有リ安ソ誤判ナキヲ保センヤ若シ裁  
 判官審理ヲ認リテ無罪者ヲ死刑ニ處シタル事アリトセン死者復タ活  
 カスヘカラス是ニ於テ刑ハ之ヲ取消シ之ヲ補償シ以テ其害ヲ消滅セ  
 シムルノ途ヲ開キテ之ヲ匡濟セサル可カラズ然レモ死刑ハ到底補償  
 スルヲ得ス此點ヨリ論スルモ亦死刑ハ不長ノ刑ト謂ハサル可カラズ  
 但シ他ノ刑罰ト雖モ一旦之ヲ執行シタル者ハ只其誤認アリシヲ取消  
 スニ過キスシテ其損害ニ至リテハ全ク之ヲ補償スルコト能ハズ是ヲ以  
 テ其刑ヲ科スルノ前ニ當リテ鄭重ニ鄭重ヲ加ヘテ審理セサル可カラ

ス  
 以上列擧シタル所ノ者ハ刑ノ具備スヘキ性質ニシテ實ニ緊要缺クヘ  
 カラサルノ條件ナリト雖モ唯何ソノ刑モ全ク此性質ヲ具備スルコト能  
 ハサルノミナラス其一ヲモ有スル能ハス故ニ立法者タル者刑ヲ設ケ  
 ント欲セハ成ル可ク之ニ近接センコトヲ強ムルニ在ルノミ

第一節 刑名

刑名トハ猶ホ刑ノ名類ト曰フカ如シ本節ハ我刑法ニ於テ規定スル刑  
 ノ名類ヲ一括シタル者ナリ

第六條 刑ハ主刑及附加刑ト爲ス  
 主刑ハ之ヲ宣告ス  
 附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

本條ハ刑ニ主刑ト附加刑トノ二類アルヲ示シ併セテ其宣告スル者ト  
 否ラサル者トヲ定メタルナリ



主刑トハ他ノ刑ヲ科スルト否ヤトニ拘ハラス特立シテ科スル所ノ刑ヲ謂ヒ附加刑トハ常に主刑ニ附屬シテ科スル所ノ刑ナリ但シ或ル場合ハ主刑ニ附屬シテ科セサル附加刑アリ之ヲ例外トナス夫レ刑ニ主刑ト附加刑トノ二類アルハ一罪ニ對シ特別ノ二刑アリト謂フニ非ス二者相待テ完全ナル一刑ヲ成ステ謂フ蓋シ主刑ノミヲ科シテ已ム時ハ其刑タル鹵莽ニシテ完全ナラス故ニ附加刑ヲ併科シテ其不足ヲ補充シ始メテ周密ニシテ責罰ノ實アル刑トナル例ヘハ徒刑ニ處セラレシ者カ出獄ノ後直チニ幼者ノ後見人トナリ或ハ國會議員トナルヲ得ルトスルカ如キ社會ノ危險實ニ大ナリ故ニ此等ノ犯人ニ對シテハ危險ヲ豫防スル所ノ附加刑ヲ科シテ以テ刑ノ目的ヲ達スルハ至當ノ事ト謂フヘシ是レ刑ニ主刑ト附加刑トノ二類アル所以ナリ

第二項ニ主刑ハ宣告スルト有リ何故ニ主刑ハ必ス宣告セサル可カラハ

三〇

ルカ曰ク刑法各本條ニハ某々ノ罪ニハ某々ノ刑ヲ科スト規定シタルモ實際犯人ニ其刑ヲ科スルニ當リテハ種々ノ理由ニ因リ長短期多寡數ノ限内ノ斟酌ニ從ヒテ受クル所ノ刑ハ未タ一定セサル者ナレハ若シ宣告セサルニ於テハ何年若クハ何圓ノ刑ヲ受クヘキ者ナリヤチ知ルコト能ハス是レ主刑ハ之ヲ宣告スル所以ナリ

第三項ニ所謂宣告スル者ト宣告セサル者トハ附加刑ハ主刑ト異ニシテ裁判所ニ於テ特ニ宣告スル者ト宣告セスト雖モ法律ヨリシテ自然ニ出ツル者トノ二箇アルコト示シタル者ナリ重罪ノ刑ニ處セラレタル時ハ剝奪公權禁治産監視輕罪ノ刑ニ處セラレタル時ハ停止公權ハ常に宣告ヲナスシテ主刑ノ宣告アレハ當然此等附加刑モ亦附從スルモノナリ然レモ沒收ニ至リテハ主刑ノ輕罪ト重罪トヲ問ハス總テ之ヲ宣告スヘキモノトス又法律ニ規定セル輕罪ノ附加刑即チ監視又



ハ罰金モ之ヲ宣告セサル時ハ其程度ヲ知ルヲ能ハス故ニ是モ亦宣告スヘキ者トス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
  - 二 無期徒刑
  - 三 有期徒刑
  - 四 無期徒刑
  - 五 有期徒刑
  - 六 重懲役
  - 七 輕懲役
  - 八 重禁獄
  - 九 輕禁獄
- 第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
- 一 重禁錮
  - 二 輕禁錮
  - 三 罰金
- 第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ懲罰ノ主刑ト爲ス
- 一 拘留

二科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 褫奪公權
- 二 停止公權
- 三 禁治産
- 四 監視
- 五 罰金
- 六 沒收

以上第七條第八條第九條第十條ハ主刑及ヒ附加刑ノ種類ヲ掲ケタル者ニシテ別ニ説明ヲ要セス其各刑ノ構成若クハ執行ニ關スル事ハ後ニ説明スヘシ

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

刑ノ執行方法若クハ犯人檢束ノ方法ハ細密ナル規則ヲ要スルヲ以テ一々之ヲ刑法ニ規定スル時ハ其煩ニ堪ヘス且此等ノ規則ハ時々變更スル者ナレハ之ヲ刑法ニ規定スル時ハ毎ニ刑法ヲ變更セサル可カラ



サルカ如キニ至ル可シ是レ本條ニ於テ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムト規定シ而シテ刑法附則監獄則監視規則等ノ別則トシテ設ケラレタル所以ナリ

### 第二節 主刑處分

「主刑處分」トハ何ソヤ本節ノ規定スル所ヲ以テ之ヲ觀ル時ハ實ニ解釋ニ苦ム何トナレハ本節ニハ刑ノ構成ノ原素ト執行ノ方法トノ一部ヲ規定シタルハナリ此二者ヲ指シテ處分ト謂ハ、或ハ可ナラン然レモ到底此文辭ハ不穩當タルヲ免レサルナリ

又本節ニハ刑ヲ構成スル原素ト刑ヲ執行スル方法トヲ混淆シテ規定セリ然レモ適用上固ヨリ混淆スヘキ者ニ非ス何トナレハ法律改正ノ際即チ刑法第三條ノ場合ニ於テ之ヲ區別スルノ最モ大ナル關係アルヲ以テナリ例ヘハ本節第十二條ノ絞首ハ死刑構成ノ原素ナリヤ將タ

執行ノ方法ナリヤ若シ之ヲ構成トスル時ハ新法ヲ以テ現行法ノ絞首ヲ改メテ斷首トナス場合ニハ現行法ノ下ニ在リテノ犯罪ニ付キテハ絞首ヲ適用セサル可カラス若シ之ヲ以テ執行方法トスル時ハ其罪ハ疑モ無ク斷首ヲ以テ處分セサル可カラス乃チ知ル刑ノ構成ノ原素ト執行ノ方法トヲ區別スルハ最モ必要ナルコトナリ

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

死刑ハ善  
非ス刑ニ

本條ニ規定スル所ノ主刑ハ刑中最モ重キ者ニシテ即チ死刑ナリ死刑ハ善良ノ刑ニ非ス何トナレハ此刑ハ取消又ハ補償スルコトヲ得サル者ニシテ一旦死刑ヲ行ヒシ後ハ之ヲ取消スハ必要ヲ生スルコトアリト雖モ死者復タ生クヘカラサレハ到底之ヲ如何トモスルコト能ハサレハナリ被刑者ヲ活スノ必要アリトハ則チ裁判ニ誤謬アル場合ヲ想像シタルナリ夫レ裁判官ナル者罪ヲ斷スルニ當リテハ綿密ナル手續ニ依リ



確實ナル證據ヲ蒐集シテ寧嚴重ニ審理スルモ人ノ感想ノ不同ナル其  
 判斷ノ點ヲ誤リテ裁判スルヲ無キヲ保スヘカラスナリ否誤判ハ實  
 際屢見ル所ノ者ナリ已ニ被告人ヲ死刑ニ處シタル後ニ於テ其誤判々  
 ルヲ明瞭ナルニ當リテ之ヲ取消シ若クハ補償スルヲハ決シテ爲シ得  
 ヘキ所ニ非サルナリ今之ヲ實例ニ徵センニ佛國ノ或學者ノ調査ニ據  
 ルニ歐洲各國ニ於テ死刑ノ言渡ニ錯誤アリテ之ヲ取消シタルヲ僅々  
 二十年間ニ於テ六度アリ即チ三年ニ一度強ノ比例ナリ但シ此等ノ被  
 告人ハ已ニ刑ヲ言渡サシタリト雖モ幸ニ特赦等ノ恩典ヲ被リテ無期  
 徒刑若クハ有期徒刑ニ處セラレタル者ナリ是ヲ以テ其親戚故舊等ハ  
 大ニ其裁判ニ疑惑ヲ起シ百方盡カシテ證據ヲ集メ果シテ有罪ナリヤ  
 否ヤヲ調査セシニ何ソ圖ラン眞實ノ有罪人ハ他ヨリ顯レ出テ、終ニ  
 其裁判ヲ取消シタル者ナリト云フ惟フニ此場合ハ被告人未タ死セサ

リシテ以テ幸ニ誤認ノ裁判タルヲ判然タリシト雖モ無辜ノ被告人已  
 ニ死刑ヲ執行セラレテ誤認ノ裁判宛モ眞正ノ如キ觀テ呈シタル者其  
 數少カラサル可シ管々三年一度強ノ比例ノミナラサルナリ況ヤ他ノ  
 無期徒刑有期刑ニ於テヤ其誤判ノ多キ甚クシカル可シ諸君ノ既ニ知  
 ラル、如ク歐洲諸國ニ於テハ重罪ニハ陪審官ヲ置キテ罪ヲ斷ス殊ニ  
 佛國ニ於テハ十二名ノ陪審官アリテ死刑ニ處スヘキ被告人ニハ概テ  
 強ヒテ酌量減輕ヲ爲スヘキヲ決スト云フ然レモ尙ホ誤判アルヲ此  
 ノ如シ人間裁判ノ不完全ナル實ニ已ムヘカラスカ噫  
 死刑ハ取消スヲ得ス又補償スルヲ得ス而シテ裁判ハ誤認アルヲ  
 免レス且曾テ述ヘタル如ク死刑ハ分割スヘカラスナル等多ク不良ハ性  
 質ヲ有スルニヨリ之ヲ廢スヘシト云フ駁論ハ十八世紀ハ半ハヨリ今  
 日ニ至ルマテ非常ニ勢力ヲ得タリ現ニ歐米諸國中大國ハ未タ之ヲ廢



セサルモ數多ノ小國ハ法律ヲ以テ全廢シタル處アリ即チ丁抹和蘭葡  
 荷牙或ハ獨逸聯邦中ノ或ル小國ノ如シ又聞ク所ニ由レハ近年以太利  
 ニ於テハ國會ニ於テ死刑ヲ廢スヘシト議決セリト而シテ大國ニ於テ  
 ハ成文上其刑ヲ設クンモ或ハ裁判官ノ斟酌ヲ以テ之ヲ宣告セサル有  
 リ或ハ特赦ノ恩典ニヨリテ之ヲ行ハサル有リ或ハ法律上ヨリ適用ノ  
 場合ヲ減スル有リ或ハ國事犯ニ就キテハ全ク之ヲ科セサルアリテ實  
 際死刑執行ノ甚々減少シタルヲ見ル斯ノ如ク死刑廢止ノ説ハ今日甚  
 カ勢力ヲ得タルニモ拘ハラズ之ヲ我刑法ニ規定シタルハ抑何ハ故ッ  
 ヤ此疑問ハ曾テ刑ノ性質ヲ講スルニ際シ提出シタルヲ有リキ夫レ死  
 刑ハ唯取消スヲ得ス補償スルヲ得ス又分割スルヲ得スモ得サルノミナ  
 ラス犯人ヲ悔悟セシムルヲ得サルハ固ヨリナリト雖モ其他ニ刑ノ  
 目的ヲ達スルニ必要ナルヲ有リ即チ社會ニ對シテ善惡必罰ノ例ヲ示

シテ無智ノ民ヲ警戒シ犯罪ヲ未行ニ撲滅スルハ死刑ニ若クモハナシ  
 是レ我刑法ニ於テ之ヲ用井タル所以ナリ

然リト雖モ死刑ハ決シテ良質ヲ帶フル者ニ非サレハ我刑法ハ之ヲ採  
 取シタルハ例外ノ刑トシテ用井タルニ過キス故ニ犯罪中ニ於テ單ニ  
 尤モ極端ノ者ニノミ之ヲ科シ又初メヨリ法律ニ規定シタル犯罪ニノ  
 ミ之ヲ科シ決シテ加重ニヨリテ死刑ト爲スヲ得ス或ハ刑法第三百  
 六十二條ヲ引證シテ子孫其祖父母父母ヲ故殺スレハ之ヲ死刑ニ處ス  
 ルハ是レ通常故殺ハ無期徒刑ニ處スルト云フ第二百九十四條ノ罪ヲ  
 加重シタル者ナリト曰フ者アレモ是レ當ラサルノ説ナリ此場合ハ加  
 重シタルニ非スシテ罪其物カ死刑ニ處セラレ可キ價值ヲ有スルカ故  
 ニ通常ノ場合ニ拘ハラズ之ヲ特別ニ規定シタルナリ尙ホ第三編第一  
 章第十三節ノ説明ヲ參照スヘシ以上説ク所ニヨレハ我刑法ニ於テハ



死刑ヲ採用スト雖モ其適用ノ範圍ヲ狹隘ニシテ稀ニ之ヲ用非ルコト  
爲セルヲ見ルニ足ル

死刑ノ方  
法

死刑ハ生命ヲ奪フノ刑ナリ而シテ之ヲ奪フニハ其方少シトナサス古  
昔ハ磔刑火刑又ハ車裂刑等ノ設ケアリシカ此等ハ野蠻時代ノ方ニシ  
テ彼ノ復讐主義ヨリ出テ、唯犯人ヲ苦マシムルヲ以テ單一ノ目的ト  
爲セル者ニ過キス特ニ知ラズ其生命ヲ奪フハ徒ニ犯人ヲ苦マシムル  
ノミニ非スシテ他ヲ警戒畏懼セシムルニ在ルコト是ニ由テ之ヲ觀レ  
ハ死刑ナル者ハ犯人ノ生命ヲ奪ヘハ則チ足レリ何ソ殘忍苛虐ノ方法  
ヲ用非ルヲ要セシヤ故ニ今日ニ於テハ各國共ニ尤モ簡單ニシテ尤モ  
迅速ニ生命ヲ奪ヒ得ル方法ヲ用非サルハナシ即チ斬首ト絞首トノ二  
者是ナリ英國及ヒ米國ハ絞首ヲ用非佛國及ヒ其他歐洲各國ハ斬首ヲ  
用非我國ノ舊法即チ新律綱領ニ於テハ絞ト斬トヲ併用シ斬首ハ之ヲ

重シトシ絞首ハ之ヲ輕シトセリ何故ニ斬絞二者ニ輕重ヲ附シタルカ  
ト云フニ斬ニ處セラレタル者ハ首足處ヲ異ニシ人間自然ノ軀軀ヲ毀  
壞スルヲ以テ之ヲ絞ノ體軀ヲ全クシテ單一生命ヲ奪ハル、ニ過キサ  
ル者ニ比スレハ其間ニ輕重アルカ如キヲ以テナリ此點ヨリ觀來レハ  
絞ト斬トハ幾分カ輕重ノ別ナキニ非サンハ隨ヒテ犯人ニ與フル所ノ  
感覺ニ於テ二者相異ナル所ナクソハアラス蓋シ我立法者モ亦此ニ見  
ルアリテ單一絞首ヲ以テ死刑ト爲シタルナリ然レモ今日ニ至リテハ  
斬ト絞トモ亦野蠻時代ノ方ト云フ議ヲ免レス已ニ米國紐育州立法議  
會ニ於テハ從來採用シタリシ絞首法ヲ廢シ電氣ヲ以テ瞬時ニ生命ヲ  
奪フ所ノ方法ヲ用非ルコトヲ討議シ千八百八十九年一月ヨリ施行シタ  
リト云フ

佛國ニ於テ斬首ヲ用非來リシハ大ニ沿革アルコトニシテ我國ノ如ク必



スシモ輕重ノ點ヨリ生シタル者ニ非サルナリ革命以前ハ死刑ヲ犯人  
ニ科スルニ當リ貴族ハ斬首シ平民ハ絞首セリ故ニ習慣上斬首ヲ受ク  
ルヲ以テ快トナセリ我國尙ホ封建時代ニ士人ノ切腹ヲ以テ快ト爲シ  
打チ首即チ斷首ヲ賤ミタルカ如シ然ルニ革命ニ際シテ貴族ト平民ト  
ノ區別ヲ廢シタルヨリシテ死刑モ亦之ヲ區別スルノ必要ナク平民ニ  
科シタリシ絞首ヲ用非ヨリハ寧ロ貴族ニ科シタル斬首ヲ取リ即チ  
上レルヲ下サンヨリハ下レルヲ上スノ至當ナルニ若カサルナリト云  
フ思考ヨリ出テタル者ナリ之ヲ行フニハ古昔ハ刀ヲ用非シカ屢錯誤  
ヲ來シテ全ク斷首スルヲ得スシテ爲メニ大ニ犯者ヲ苦マシムルノ憂  
アリ且革命ノ時ハ死刑ニ處セラル、者其數ヲ知ラス一々刀ヲ用非ル  
時ハ煩ニ堪ヘサルヲ以テ醫師キヨッタ<sup>ン</sup>氏一ノ斷頭臺ヲ發明シ因リテ  
以テ速ニ頭ヲ斷スルヲ得タリ聞ク此斷頭臺ハ人ヲ臺ノ高處ニ載セ

絞首ノ死  
刑構成ノ  
原素ナリ

之ヲ轉倒セシメ之ト同時ニ其首ヲ斷スルノ方法ナリト此器ハキヨッタ  
ン氏ノ發明ニ出テタルヲ以テ稱シテキヨッタ<sup>ン</sup>氏ト曰フ抑此斷頭臺ハ  
氏ノ發明ニ係リ氏ノ名ヲ附シタルニモ拘ハラス氏自ラ此斷頭臺上ニ  
於テ首足處ヲ異ニスルノ人トナレリ豈ニ奇ナラスヤ  
諸君ヨリハ死刑ノ種類ヲ説クニ當テ覺ヘス前陳ノ如キ談話ニ馳セタ  
リ是レ諸君ノ參考ニ供シタルニ過キス幸ニ之ヲ恕セヨ  
第十二條ニ所謂絞首トハ死刑ヲ構成スル原素ナルカ或ハ執行ノ方法  
ナルカ曰ク絞首ハ死刑構成ノ原素ナリトス何ヲ以テ之ヲ知ル曰ク已  
ニ前ニ述ヘタリシ如ク我舊法ニテハ斬ト絞トニ輕重ヲ爲シテ二個ノ  
死刑ヲ設ケタリ我刑法ハ二者中其一ヲ採用シタル者ナレハ疑モナク  
絞ハ構成ノ原素ナリ故ニ縱令將來新法ノ頒布アリテ斬首ヲ用非ル  
トナルモ之ヲ現行刑法ノ下ニ於テノ犯罪者ニ科スルヲ得サルナリ



本條但書ニ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フト有リ此等ハ死刑ノ構成ナリヤ將テ執行ナリヤ曰ク此等ハ死刑ヲ執行スル手續ニシテ官吏臨檢ノ有無若クハ公行密行共ニ刑ニ輕重ノ差アルトナシ故ニ此等ハ死刑執行ノ方法ナリト云フニ付キテハ疑ヒナシ唯死刑ハ密行スルト公行スルトニ於テ其利害如何ト云フニ付キテハ議論ナキニ非ス刑ハ將來ノ犯人ヲ警戒スルヲ要ストイフ點ヨリ論スル時ハ公行ヲ可ナリト爲シ得ルカ如シト雖モ公行ハ良民ヲシテ惡風ニ感染セシメ兇險ノ感覺ヲ誘起セシメテ其弊害ハ他ヲ警戒スルノ利益ヲ以テ償フコト能ハサルナリ抑他ヲ警戒スルニハ必スシモ其處刑ノ慘狀ヲ見セシムルヲ要セス裁判ヲ公行シ宣告書ヲ公布セハ即チ人民皆罪惡ノ爲スヘカラサルヲ知了スルヲ得ヘシ是ヲ以テ死刑ハ獄内ニ於テ密行スルノ害ナクシテ利アルニ若カスト爲ス佛國ニ於テハ公行スト雖モ大ニ其弊ヲ悟

リ成ル可ク公衆ニ示サ、ルコトニ注意シ其執行ノ日ヲ公告セス其日ハ天未タ明クサル中ニ遠ク郊外ニ於テ之ヲ行フ然レモ其目的ヲ達スルコトヲ得ス即チ公衆ハ早クモ公行ノ日時ヲ聞知シ競ヒテ刑場ニ相集リ宛ナカラ演劇ヲ觀ルカ如ク行厨ヲ提クル者アリ幼ヲ携ヘ老ヲ扶クル者アリ其雜沓甚シ而シテ犯人ノ臺ニ上ルヤ之ヲ罵詈訕之ヲ嘲弄シ甚シキハ刑人ト相爭フニ至ルト云フ嗚呼死刑ヲ公行スル時ハ惡人ハ之ヲ觀テ愉快ト爲シ良民ハ之ヲ觀テ犯人ヲ愛憐スルノ情ヲ發起ス他ヲ警戒スルノ實其ノ何レニカ在ル我立法者ノ殊ニ密行ヲ採用セシハ實ニ至當ト謂フヘシ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非ラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス死刑ヲ執行スルニ司法大臣ノ命令アルヲ要スル所以ハ唯死刑ハ極メテ重大ナル刑ナルカ故ニ最モ慎重ヲ致サ、ル可カラスト云フノミヨ



非ス其裁判確定スト雖モ特赦ノ恩典アルヤモ計ラレザレハナリ乃チ  
裁判確定シタル後檢事ヨリ訴訟書類ヲ司法大臣ニ進達シ其命令ヲ得  
テ後三日内ニ執行スル者ナリ尙ホ特典ニ關シタル須要ノ手續ハ刑事  
訴訟法第八編第三章ニ規定セリ諸君就キテ一讀セヨ

第十四條 大詔令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

本條ハ別ニ説明ヲ要セス一讀シテ了解スルヲ得ヘシ因テ茲ニ之ヲ畧ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩  
後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

懷胎ノ婦女ニ對シテ死刑ノ宣告アリタル時ハ直チニ刑ヲ執行スルヲ  
得サルハ何ノ故ソヤ蓋シ無罪ノ見子ヲ保護スルニ出ツルナリ夫レ懷  
胎ノ婦女ニ對シテ死刑ヲ執行スル時ハ併セテ胎内ノ見子ノ生命ヲ奪  
フニ至ル因リテ刑ハ一身ニ止マルト云フ原則ニ基キテ其刑ノ執行ヲ

猶豫スルナリ然リ而シテ産後モ亦直チニ執行セスシテ尙ホ一百日ノ  
猶豫ヲ與フルハ是レ生子ヲ乳養セシムルカ爲メナリ聞ク通常生子ハ  
出生後一百日間乳養セラル、時ハ哺食續命スルヲ得ト況ヤ産後ノ  
婦人ハ病者ト異ル所ナク病者之ヲ刑スヘキニ非サルヲヤ故ニ分娩後  
生子直チニ死スルカ或ハ一百日間ニ在リテ死去スル時ト雖モ尙ホ一  
百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ執行スルヲ得ス

懷胎ノ婦女ヲ死刑ニ處スルニ要スル手續ハ刑法附則第五條ニ在リ就  
キテ參看セラレヨ

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親族故舊聞フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒ  
テ葬ルコトヲ許サス

昔時ハ死刑ニ處シタル者ノ遺骸ハ或ハ之ヲ棄テ或ハ之ヲ暴スヲ常ト  
シテ之ヲ遺族等ニ下付スルカ如キハ決シテ無キ所ナリ夫レ遺骸ニハ  
罪ナシ故ニ之ヲ刑スヘキニ非ス之ヲ刑スルモ毫絲ノ益アルコト無シ是



テ以テ我刑法ニ於テハ親屬故舊ノ之ヲ請フ者アル時ハ下付スルヲ許ス實ニ至當ノ制度ト謂フヘシ但シ其遺骸ヲ葬ムルニ當リテ儀式ヲ張ルハ許サ、ル所ナリ何トナレハ刑餘ノ遺骸ニシテ儀式ヲ張リテ葬リテ爲スカ如キハ法律ノ尊敬ヲ冒瀆シ公衆ノ感覺ヲ毀損スルノ嫌アル可クレハナリ

本條ニ於テ疑ヲ起スヘキハ式ヲ用ヒテ云々ト云フハ如何ナルヲ指シタルカ彼ノ僧侶ノ引導若クハ讀經ノ如キモ亦之ヲ禁シタルカ此等ハ固ヨリ法律ノ禁スル所ニ非サルナリ蓋シ法律ノ禁スル所ハ裝飾ノ具ヲ用非美觀ヲ極メ壯大ナル儀式ヲ用非ルカ如キニ在リテ引導讀經ノ如キハ敢テ事ニ害ナシ若シ是ヲシモ禁スル者トセハ宗教ノ自由ヲ妨害シテ却テ良民ノ感覺ヲ害スルニ至ル可シ聞ク僧侶ノ引導讀經ハ死者ノ靈魂ヲシテ淨土ニ到ラシムルモノナリト果シテ然ル者トセハ

既ニ正當ノ刑ヲ受ク終リタル者ニ對シテ靈魂ヲシテ歸着スル所ナカラシムルヲ要セス況ヤ死者ノ靈魂ハ地獄ニ行クモ或ハ淨土ニ歸ルモ法律ノ干涉シ得ル所ニ非サルヲヤ故ニ死者ノ親屬故舊カ簡單ナル葬送ヲ執行スルカ如キハ本條規定ノ範圍外ナリトス

然ラハ若シ死者ノ親屬故舊カ儀式ヲ用非テ葬ヲ爲シタル時ハ如何ナル制裁アリヤ曰ク之ニ就キテハ別ニ制裁ナシ唯行政上ヨリ之ヲ妨クテ執行セシメサルヲ得ルニ過キサルノミ

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

本條ニ掲クル所ノ徒刑ヨリ禁錮ニ至ルハ刑ハ所謂身軀ノ自由ヲ剝奪スル所ハ者ナリ我刑法ハ之ヲ以テ刑ノ基本ト爲ス歐米諸國モ亦此種ノ刑ヲ以テ基本トセサルナシ蓋シ此種ノ刑ハ刑トシテハ稍善良ナル性質ヲ有セリ即チ此種ノ刑ハ直接ニ身軀ニ及ヒ標式トナリテ他



テ警戒シ、分割シテ以テ罪度ニ適應スルヲ得、誤謬ノ裁判ヲ取消シ、補償スルヲ得ルノミナラス、長ク獄舎ニ拘束シ、服役セシメテ、間善良ノ教訓ヲ加ヘ、以テ悔悟セシムルヲ得ヘシ、此等ハ曾テ刑ノ目的及ヒ其性質ヲ説クニ當リテ詳カニ辯シタルヲ以テ、今復々此ニ贅セス。

我刑法ハ、身軀ノ自由ヲ剝奪スル刑ヲ基本トナスヲ以テ、彼ノ死刑ノ如キ罰金ノ如キハ之ヲ例外ノ刑トセリ、實テ至當ノ制度ト謂フヘシ、唯此種ノ刑ヲ數個ニ區分シタルニ付キ、大ニ駭愕ヲ受ケタリ、即チ常事犯ニ付キテハ、無期徒刑、有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮、輕禁錮ニ細別シ、國事犯ニ付キテハ、無期流刑、有期流刑、重禁獄、輕禁獄及ヒ輕禁錮ニ小分セリ、論者曰ク、此レ區分多キニ過キテ、諸多ノ弊害ヲ來タスヲ免レンス之ヲ例スルニ、重懲役ニ該當スル罪ニハ、九年以上十一年以下ノ期限ナルカ故ニ、實際裁判官カ刑ヲ適用スルニ當リ、運動シ得ル區域ハ、僅々三年ノ

刑ノ區分  
駁論スル

間ノミ諸種ノ犯罪ニ付キ、其性質コソ同キモノアレ、其所犯情狀ニ至リテハ、千差萬別、同一期限ヲ科スヘキニ非サレバ、僅々三箇年間ハ、期限ヲ以テ満足スルヲ得ス、因テ尙ホ一層長キ期限ヲ要スヘシ、然ルニ我刑法ニ於テハ、裁判官ハ一小區域内ニ局束セラレテ、爲ニ罪刑ヲシテ相應セシムル能ハサルカ、如キ弊ヲ生ス、又尙ホ此細區別アリタルヨリ、大ニ立法者及ヒ裁判官ヲ苦マシムルト有リ、例ヘハ、現行刑法ニテハ、重懲役ハ九年以上十一年以下、有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ナリトス、茲ニ後來ノ立法者ハ、或ル一罪ヲ重懲役ト有期徒刑トノ中間ノ刑ニ該當スヘキ者、即チ十年以上十二年以下、或ハ十年以上十一年半以下ニ處セント思考シタル時、我刑法ノ規定スル中之ヲ何レニ編セントスルカ、若シ之ヲ有期徒刑ト爲サシカ、最長期十五年ナルカ、故ニ重キニ失ス之ヲ重懲役ニ入レンカ、其最短期九年ナルカ、故ニ輕キニ過ク、遂ニ立法者ヲ



シテ其罪ヲ規定スル位置ヲ失ハシムルニ至ル可シ裁判官ニ於テモ亦同シ即チ或ル罪ニ付キ十一年半ニ處スルヲ以テ適當ト斷定スルモ重懲役ニ下ルカ或ハ有期徒刑ニ上ルカ二者其一ヲ擇ハサル可カラズ果シテ然ルルハ罪ト刑ト相適應セサルニ至ル可シ此等ハ皆刑期ヲ小區別スルヨリ生スル弊害ナリトス故ニ身軀ノ自由ヲ剝奪スル刑ニ付キテハ別ニ之ヲ區別スルノ要ナシ例ヘハ我刑法ニ於テ禁錮ハ十一日ヲ最短期トシ有期徒刑ハ十五年ヲ最長期トスルカ故ニ身軀ノ自由ヲ剝奪スルニ係ル有期ノ刑ノ期限ハ之ヲ一括シテ十一日以上十五日以下トスルカ如キハ甚タ當テ得タリト謂フヘシ此ノ如ク長期ト短期トノ間ヲシテ長カラシムル時ハ其間ニ於テ如何ナル罪ニモ適當スル所ノ刑ヲ應用スルヲ得ヘシト是レ之ヲ駁論者ノ説ク所ノ要旨ト爲ス論者ノ言フ所理ナキニ非ス我刑法カ斯ノ如ク刑ヲ細分シタルハ或ハ

立法者裁判官ヲシテ困難ヲ來サシムルヲ有ル可シ然レハ論者ヲシテ此ノ如ク現行ノ制度ニ不滿ヲ懷カシメタルハ審査修正ノ際草案ヲ變改シタルニ由ル草案ニ於テハ身軀ノ自由ヲ剝奪スル刑ノ種類ヲ區別スルハ現行刑法ト同シト雖モ其各刑ノ長期ト短期トノ間甚タ長ク即チ重罪ノ刑ニ付テハ六年ニ起リテ二十年ニ終リ其間ヲ三分セリ故ニ有期徒刑ノ如キハ十六年以上廿年以下ナルヲ以テ其間五年ノ距離アリ乃チ實際之ヲ適用スルニ當リテ斟酌ノ餘地甚タ廣シ是ヲ以テ草案ノ如クナリセハ論者ノ批評ヲ被ラサリシニ現行刑法ノ此ノ如クナラサルハ遺憾ト謂フヘシ然レハ我現行刑法ヲ實際ニ適用スル時ハ論者ハ豫期シタルカ如キ大ナル不都合ヲ生スルヲ無キヲ知ル何ソヤ曰ク我刑法ハ裁判官ニ酌量減輕ノ權ヲ附與シタルヲ即チ是ナリ重罪ノ刑ニ付キテ之ヲ云ハシニ犯人アリ法律上有期徒刑ニ該當スル者ト雖モ



所犯情狀原諒スヘキ者ハ減輕シテ輕懲役ニ處スルヲ得即チ十五年ヨ  
 リ六年マテ十年間ノ區域ニ於テ自由ニ運動スルヲ得ヘシ裁判官ノ  
 得タル權力モ亦大ナラスヤ故ニ各刑ノ期限短縮スレモ彼ノ所謂有期  
 徒刑ト重懲役トノ中間ノ刑即チ十一年半ニ處スルヲ得サル不都合  
 アルノミニシテ其他ニ敢テ議スヘキ點ナシ而シテ又熟思スルモハ實  
 際十一年半ナル刑ニ處スルカ如キ必要ヲ生セサル可シ何トナレハ重  
 罪犯ニ刑ヲ科スルニ當リ十一年半ヲ重クシテ十二年ト爲シ或ハ輕ク  
 シテ十年ト爲スモ其間唯半年ノ差アルニ過キサレハ罪刑相適應セス  
 ト云ヒテ之ヲ議スルヲ要セザレハナリ況ヤ縱令完全ノ刑アルモ人類  
 思想ノ不完全ナル罪ト刑ト相應シテ毫絲ノ差ナカラシムルヲハ決シ  
 テ希圖スヘキニ非サルヲヤ此ニ至リテ論者ノ駁説ハ敢テ至當ト謂フ  
 ヘカラサルヲ知ル可シ且論者ハ刑期ヲ各刑ニ分配セス一括シテ十一

日以上十五年以下ト云フカ如キ宏濶ナル期限ト爲スト雖モ是レ眞ニ  
 破却論ト稱スヘシ何トナレハ尤モ重要ナル罪ノ區別即チ重罪ト輕罪  
 トノ區別ヲ失シ其區別ヨリ生スル數多ノ利益ヲ失スルニ至ル可ケン  
 ハナリ例ヘハ重罪ト輕罪トヲ區別スルヨリシテ各附加刑ヲ異ニスル  
 カ如キ又再犯ノ時ニ重罪ト輕罪トヲ犯スノ前後ニヨリテ加重スルト  
 否ラサルト有ルカ如キ重罪ノ未遂犯ハ常ニ罰スト雖モ輕罪ノ未遂犯  
 ハ各本條別ニ記載アルニ非ザレハ之ヲ罰スルヲ無キカ如キ其他治罪  
 ノ手續ニ於テモ數多ノ區別アリト雖モ駁説ニ從ヘハ此等ノ區別モ亦  
 爲スヲ要セサルナリ予ハ信ス此説ニ從ヒ斷然重罪輕罪ノ區別ヲ爲ス  
 テ要セサル時ハ刑法及ヒ刑事訴訟法ノ大半ハ爲メニ破滅スルヲ故  
 ニ曰ク是レ破却論ナリト然レモ駁論者ハ尙ホ曰ハハ例ヘハ十一日以  
 上十五年以下ノ如キ宏濶ナル刑期ヲ設ケテ重罪輕罪ノ區別ヲ立テサ



ル時ハ實際ノ不便アルヲ固ヨリ熟知スル所ナリ然レモ本説ニ於テモ亦其區別ヲ立テ得サルニ非ス即チ六年以上十五年以下ヲ重罪ハ刑トナシ十一日以上五年以下ヲ輕罪ハ刑ト爲スカ如ク定ムルハ罪ノ區別判然トシテ愈便益ヲ増スヤ必セリト嗚呼論者ハ此ニ至リテ實ニ自家撞着ノ説ヲ爲スモハト謂ハサル可カラズ抑論者ハ疊キニ駁説ヲ爲シテ曰ハスヤ我刑法ニ從フ時ハ十年以上十一年以下ト云フ刑ニ處スル罪アル時ハ有期徒刑重懲役何レニ該當スルカヲ知ル能ハス即チ如何ナル刑ヲ以テ之ニ科セントスル乎ト試ミニ論者ニ問ハノ論者ノ説ニ從ヒテ六年以上ヲ重罪トシ五年以下ヲ輕罪トスル時ハ若シ三年以上十二年以下ノ刑ニ處スヘキ罪アル時ハ其罪ハ重罪ナリヤ將テ輕罪ナリヤ即チ如何シテ其罪ヲ區別セントスルカ一方ニ於テハ三年以上十一年以下ノ刑ニ處スヘキ罪アリトシ他ノ一方ニ於テハ六年以上十

五年以下ヲ以テ重輕罪ヲ區別スルハ抑何ノ故ソヤ若シ立法者ヲシテ此ノ如キ刑法ヲ規定シタラノハ裁判官ニ無限ノ權力ヲ與ヘタル者ト謂フヘシ蓋シ此場合ニ於テ裁判官若シ前ノ罪ニ對シテ四年ノ刑ヲ言渡シタルハ此罪ハ重罪ナリト謂ハサル可カラス若シ八年ノ刑ニ處シタリシ時ハ此罪ハ重罪ナリト謂ハサル可カラス又裁判官五年一日ニ處スレハ重罪トナリ五年ニ處スレハ輕罪トナリ僅々一日ノ差ヲ以テ或ハ重罪トナリ或ハ輕罪トナルト有ル可シ夫レ一罪ノ重罪タリ或ハ輕罪タルヲ區別スルハ固ヨリ立法者ノ職分ニシテ裁判官ニ任スヘキ者ニ非ス若シ之ヲ裁判官ニ任スヘキ者トセハ裁判官ノ多キ人毎ニ輕重ノ感想ヲ異ニスルカ故ニ同一犯罪ニ對シ甲裁判官ハ重罪ト爲シ乙裁判官ハ輕罪ト爲シ以テ各適宜ノ刑ヲ科スルニ至ル可シ是レ裁判官自ラ立法者タルナリ天下ニ數百ノ立法者ヲ生シタル者ナリ奇モ



亦甚シト謂フヘシ且刑ハ何人ニ對シテモ平等不偏ナルヲ要スヘキ者ナルニモ拘ハラズ終ニ各人平等ナラサル刑ヲ科セラルハニ至ル時ハ刑ノ目的何ニ由リテ達スルコトヲ得ンヤ論シテ此ニ至レハ駁論ハ其初メ甚タ可ナルカ如シト雖モ終ニ採用スヘカラサル諸種ノ不便ト弊害トヲ生ズルニ至ル然ラハ則チ現行刑法カ身軀ノ自由ヲ束縛スル刑ヲ細分シタルハ完璧ト謂フコト能スト雖モ然レモ亦刑法ノ組織上宜キヲ得タル制度ト謂フモ敢テ不可ナラサルナリ

本條ハ徒刑ノ構成及ヒ有期徒刑ノ期限ヲ掲クタル者ナリ所謂徒刑ナル刑名ハ古ニ所謂徒刑ニ非ス唐律疏義ニ徒ハ奴ナリ奴シテ辱シムト有リ此等ノ意義ヲ以テ本條ノ徒刑ヲ解スヘカラス抑刑ニハ一定ノ目的理由ノ存スル有ルニモ拘ハラズ徒刑ハ奴シテ辱シムルナリ懲役ハ役シテ懲ラスナリ禁獄ハ堅ク獄舎ニ幽閉シテ苦マシムルナリト解釋

徒刑ノ構成條件

スルルハ各刑相異ナル目的ヲ有スト謂フヘシ故ニ徒刑ト云ヒ又懲役禁獄ト云フハ刑ノ構成ト種類ノ異ナル所ヲ表ハサンカ爲メ與ヘタル名稱ニ過キサシハ名ヲ以テ實ヲ誤ルコト勿ラシクテ希望ス

徒刑ヲ構成スルニハ左ノ二原素ヲ要ス曰ク

第一、島地發遣

第二、服役

是ナリ

島地發遣

一、島地發遣

島地發遣トハ被刑者ヲ内地ノ獄ニ留置セスシテ之ヲ島地ニ送致スルヲ謂フ是レ犯者ニ内地ヲ離レシムルノ苦痛ヲ與フルト内地ヨリ惡人ヲ除去スルト犯人ノ逃走ヲ難カラシムルト犯人ヲ使役シテ殖民地ヲ開クトノ主旨ヨリ出テタル者ナリ



島地發遣ニ就テハ學者ノ議論鮮カラス或ハ是トシ或ハ非トシテ容易ニ決スヘカラス或ハ曰ク島地發遣ハ内地ヨリ惡人ヲ除去スルニ在リト曰フト雖モ是レ不當ノ理ト曰ハサル可カラス蓋シ此ノ如クスルモハ内地ノ人民ハ惡人ト齒スルノ愛ヲ免ル、ト雖モ而モ島地人民ノ不幸ハ果シテ幾何ソヤ一方ノ害惡ヲ防キテ他ノ一方ニ同一ナル害惡ヲ生セシムルハ策ノ得タル者ニ非スト至當ノ論ト謂フヘシ或ハ曰ク島地發遣ハ犯人ヲシテ内地ヲ去ルノ苦痛ヲ受ケシムルニ在ルモ個ハ多少内地ニ關係ヲ有シ且良心ノ存スル者ナラハ或ハ當ニ苦痛ヲ感スヘシト雖モ兇惡無賴ノ犯罪人ニ至リテハ其所爲スラ之ヲ惡事ト思考セサルモノナレハ内地トノ關係絶ヘテ無シ故ニ島地ヲ以テ自由ナル別天地ト爲シ便利ナル安樂園ト思ヒテ却テ其發遣ヲ喜フヘシ犯人刑ヲ喜フキハ刑ノ効絶ヘテ無シト謂フヘシ故ニ島地發遣ヲ廢シ内地ニ於

テ刑ヲ執行スルノ優ルニ若カサルナリト然レモ此ノ如ク一概ニ論シ去ルコト能ハス蓋シ一般ヨリ人情ヲ觀察スルモ何人ト雖モ島地發遣ヲ喜フ者ナカルヘシ況ヤ内地ニ在リテ假出獄ノ恩典ニ浴スル時ハ親愛ナル同族故舊ト相見ルコトヲ得諸種ノ快樂ヲ享クルコトヲ得ルコト有ルヲヤ凡ソ島地ハ瘴烟毒霧充溢シ且惡疫ノ流行スルヲ常トス現ニ佛國ニ於テハ三百個ノ罪人ヲテセアニア州ノスティーニルカンドニ一ニ送致シタルニ僅々五ヶ年間ニ二百餘人ノ死アリト聞キ又然ラハ犯者ハ島地發遣ヲ以テ心ニ快シトスルカ如キト無カルヘシ或ハ犯人中之テ快シトスル者ナキニ非サル可ケレモ是レ實ニ例外ニ屬ス故ニ此ノ如キ理由ノミヲ以テ島地發遣ヲ廢スヘシト斷言スヘカラサルナリ島地發遣ノ利害ニ付キ理論ハ點ハ普ク措キ之ヲ我國今日ノ實際ヨリ極論スル時ハ此制度ヲ設ケタルハ主旨ハ一モ成立セサルニ至ルヘシ



抑島地發遣ハ遠隔ノ地ニ島地ヲ有スル國ニ於テハ利益アルト少カラサル可シト雖モ我國ノ如キ遠隔ノ地ニ島地ヲ有セサル國ニテハ此制度ノ利ヲ見ルヲ能ハス我國ニ於テ徒刑ニ處シタル者ハ之ヲ北海道ニ送致スルヲ例トス然レモ北海道ハ以テ島地ト稱スヘカラス若シ海水ノ四繞スルカ故ニ島地ナリトセハ内地モ亦島地ナリ何トナレハ日本國已ニ一ノ島地ナレハナリ而シテ北海道ト内地トハ僅々一帶海水ヲ隔ツルノミニシテ内地ヨリ北海道ニ至ルモ北海道ヨリ内地ニ來ルモ實ニ容易ナリ故ニ被刑人ヲ北海道ニ送致スルモ内地ヲ離ル、ノ苦痛ヲ與フルト僅少ナル可ク又内地ヨリ犯人ヲ追放スルノ必要アル時ハ北海道ヨリモ亦内地ニ追放スルノ必要アルハ當然ノ理ナリ且兩地ノ距離此ノ如ク近キヨリシテ犯人ノ逃走スルハ實ニ容易ナル可シ故ニ殖民地ヲ開ク點ニ至リテハ到底望ムヘカラサルカ如シ蓋シ被刑人ヲ

服役

北海道ニ發遣シテ開拓ニ從事セシムルニ付テハ莫大ナル費用ヲ要スルコトハ驚クニ勝エタリ聞ク今日ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ北海道ニ送致セスシテ各集治監ニ留置スルコト爲レリト果シテ此事アリトセハ島地發遣ノ制度ヲ設クルノ大旨ニ背反スト謂ハサル可カラス予ハ信ス之ヲ刑法ニ規定セラレタル以上ハ縱令幾何ノ費用ヲ要ストモ必ス之ヲ實行セサル可カラサルコト然レモ之ヲ實行スルハ國力足ラス國力足ラサルモ尙ホ此制度ヲ存セサル可カラサルカ論シテ此ニ至レハ島地發遣ハ我國ノ刑トシテハ採用スヘカラス者トス蓋シ改正スヘキノ制度ト謂フヘシ

二、服役

服役ノ種類時間及ヒ方法ハ固ヨリ被刑者ノ能力等ニ從ヒ常ニ變更スルモノナレハ一々刑法ニ規定スルモ其繁ニ堪ヘス故ニ總テ之ヲ監



獄則ニ讓レリ服役ノ制度ニ付キテモ亦學者間ニ於テ大ニ議論ヲ生セ  
リ予ハ先ツ之ヲ排擧スル者ノ説ヲ掲ケ然ル後其説ノ是非ヲ辯スル  
トセン

服役ノ利  
害ニ關スル  
學說

第一説 犯人アルニ當リ其制裁トシテ身軀ノ自由ヲ剝奪セント欲ス  
ルハ則チ之ヲ獄舎ニ幽閉スルヲ以テ足レリトス何ソ之ヲシテ服役セ  
シムルヲ要センヤ蓋シ犯人ノ身軀ヲ拘束スル所以ノ者ハ再ヒ罪惡ヲ  
犯シテ社會ヲ害スルノ恐レアルヲ以テ已ムヲ得ス之ヲ獄舎ニ幽閉ス  
ルニ過キス是故ニ犯人ヲシテ再犯セシムル能ハサル點マテ拘束スル  
ハ則チ足レリ然ルニ之ヲシテ勞役苦使セシムルハ理ノ當テ得タル者  
ニ非サルナリ因テ犯人ノ身軀ノ自由ヲ拘束スルハ可ナリ之ト同時ニ  
服役セシムルハ必要ナキニ刑ヲ科スルノ嫌ナクシテハアラサルナリト  
第二説 服役ヲ以テ刑ノ一原素ト爲シタルハ大ナル誤見タルヲ免レ

ス何トナレハ服役ハ刑ノ性質ヲ具備セサレハナリ夫レ服役ハ則チ勞  
働ナリ勞働ハ則チ人類ノ發達ニ缺クヘカラサル所爲ナリ換言スルハ  
人類ノ生活ヲ營ムニハ必ス勞働ニ服セサル可カラズ若シ人ニシテ勞  
働スルコトナク空手徒食以テ日月ヲ消スルハ是レ其身ヲ自滅スル者ナ  
リ是レ社會ノ發達ヲ妨害スル者ナリ古人曰ハスヤ爾ハ爾ノ手ニ汗シ  
テ爾ノ食ヲ取ント然ルニ此ノ如ク吾人カ勞働ニ服スルハ自然ニ出ツ  
ル者ナルニモ拘ハラズ之ヲ以テ刑ノ一原素ト爲シテ兇惡無賴ノ犯人  
ニ科スルニ至リテハ貴重ノ義務ニ耻辱ヲ與フル者ト謂フヘシ且夫レ  
吾人ハ自ラ生計ヲ營ムニ付キ營々勞働スル此ノ如シ乃チ吾人ハ生レ  
ナカラニシテ刑ニ處セラレタル者ト謂ハサル可カラサルニ至ル豈復  
タ奇怪ト謂ハサランヤト

第三説 定役ニ服スル者ニハ通常諸種ノ職業ヲ執ラシメ其勞役ヨリ



得タル物品ハ之ヲ販賣スルヲ例トス今犯人ヲシテ職業ニ服セシムルニ當リ其要スル所ノ資本ハ悉ク人民ヨリ徵收シタル者ナリ故ニ此資本金ニハ別ニ利息ヲ生セス又其職業ノ監督者ハ月俸ヲ官ヨリ得ル所ノ官吏ナリ故ニ此監督者ハ別ニ利息ヲ生セサル金ニテ衣食スル者ナリ是ニ依テ囚人ノ製作シタル品物ヲ販賣スルニ當リテ尤モ廉價ニテ供出スルヲ得之ヲ彼ノ利息附キノ金ヲ借リテ僅ニ資本トナシ其金ニテ衣食スル者ノ供出シタル物品ニ比較スル時ハ其價ノ廉ナルヲ固ヨリ言テ待タズ然ラハ則チ各監獄署ヨリ供出スル所ノ物品ハ非常ニ廉價ナルカ爲メニ物價ニ變動ヲ起サシメ遂ニ人民ノ製作シタル物品ハ爲メニ其價ヲ降スカ或ハ其販路ヲ妨害シテ清潔ナル人民ヲシテ生計ノ道ヲ失ハシムルニ至ル一步ヲ譲リ此等製作品ヲシテ斯ノ如ク廉價ニ販賣スルヲ無ク人民ノ製作品ト同價ヲ有セシムル時ハ敢テ以上

ノ如キ不都合ヲ來タサ、ルカ如シト雖モ是レ亦然ラサル所ノ者アリテ存ス蓋シ何人ト雖モ囚人ノ製作品ト通常人民ノ製作品トアリテ其價ヲ同フスルキハ清潔潔白ナル者ノ製作シタル品物ヲ購買スルハ自然ノ勢ナリ此場合ニ於テ購客悉ク人民ノ製作品ヲ購フ時ハ囚人ノ製作品忽チ販路ヲ失シ俄然其價ヲ減セサル可カラサルニ至ル價減スレハ則チ其結果タル通常人民ノ産業ヲ妨害スルニ至ルヲ前ト異ナル所ナシ是ニ由テ之ヲ觀レハ服役ヲ以テ刑ノ一原素ト爲ス時ハ其結果タル人民ノ産業ヲ妨害スルニ至ル是ヲ以テ服役ハ採用スヘカラサル制度ナリトスト

第三説ハ其論據正確ニシテ泛ク社會ハ經濟上ニ注目シタルハ説ナリト謂フヘシ予曾テ石川島ニ行ケリ石川島ハ囚徒ノ労働場ナリ此處ニ於テ製造シタル器具類ノ廉價ナルヲ實ニ驚クニ堪ヘタリ乃チ就キテ



購フ者陸續絶ヘスト云フ既ニ實際上斯ノ如キ狀況ナルヲ以テ論者ノ  
 痛心スル所ハ至當ト謂ハサル可カラス  
 或ハ囚人ノ製造品ハ一切官署ノ需要ニ供スル時ハ稍世上ノ物價ニ影  
 響ヲ及ホスト無キカ如シト雖モ是レ固ヨリ皮想ノ見ハミ何トナレハ  
 官署ノ需要ハ元來悉ク之ヲ人民ニ仰キタルニ今之ヲ仰クヲ爲サス  
 シテ單ニ囚人ノ製造品ノミヲ用井ントスル時ハ人民ノ製造品賣レス  
 賣レサル時ハ活路ヲ失ス其弊害タル鮮少ナラサレハナリ英國ニ於テ  
 ハ服役ヲ以テ刑ト爲スヲ欲セス囚人毎ニ一箇ノ重キ鐵丸ヲ授ケテ終  
 日之ヲ一方ヨリ他ノ一方ニ運搬セシメ又ハ昇降スルニ極メテ困難ナ  
 ル梯子様ノ者ヲ製シ終日之ニ昇降セシムト云フ然レモ此等ハ甚々不  
 良ノ刑ニシテ人間ヲ待遇スルニハ此等苛刻ノ刑ヲ以テスヘカラサル  
 ナリ是レ他ノ弊ヲ除去セントシテ却テ自ラ不良ノ刑ヲ用井ル者ト謂

フヘシ故ニ此等ノ刑ヲ用井ノヨリハ寧ロ勞働ニ服セシムルノ優レル  
 ニ若カサルナリ然レモ勞働ニ服セシムルハ其弊害タル其レ彼ノ如シ  
 去レハ迎之ニ代フルノ良方ヲ見出スニ尤モ困難ナルト此ノ如シ嗚呼  
 服役ノ制度ハ實ニ至難ノ問題ト謂フヘシ  
 然レモ第一說第二說ハ駁論ニ至リテハ其論據薄弱ニシテ之ニ服スル  
 不能ハス第二說ニ所謂貴重スヘキ勞働ヲ以テ刑ト爲スハ勞働ヲ汚辱  
 スル者ナリトハ或ハ然ラン然リト雖モ個ハ服役ヲ制定シタル目的ヲ  
 知ラサルニ坐ス蓋シ罪ヲ犯シテ獄舎ニ入ル者ハ大概無業無賴ノ惡漢  
 ナリ惰夫ナリ故ニ其在獄ノ日之ニ相當ノ職業ヲ與ヘテ知ル者ハ之ニ  
 慣レシメ知ラサル者ハ之ヲ學ハシメ以テ異日社會ニ出ツルノ時ニ當  
 リテ安シテ職業ニ從事シ自活ノ道ヲ立テシムルハ是レ服役ノ目的  
 トス故ニ若シ服役ノ制度ナクハ惡漢惰夫ハ依然タル惡漢惰夫ニシ



テ再ヒ罪ヲ犯スヤ固ヨリ言ヲ待タサルナリ且服役ハ即チ勞働ナリ勞働ハ貴重スヘキ者ニハ相違ナシト雖モ吾人ノ勞働ト囚人ノ勞働トハ其間大ニ逕庭スル所アリ吾人ノ勞働ヲ爲スヤ固ト自由ニシテ勞働ノ種類ヲ撰擇シ及ヒ其起作休憩ノ如キハ他人ノ爲メニ屈役セラレサルニ於テハ毫モ牽束ヲ受クルコトナシ之ニ反シテ囚人苦役ノ状態ヲ觀レハ實ニ慘然タル者アリ囚人ノ習熟シタル職業ト雖モ或ハ之ニ從事スルコト能ハス其厭忌スル工事ト雖モ必ス之ニ服從セサル可カラズ而シテ囚人ニシテ苟モ勞働ニ服セサルカ或ハ怠慢ニ流ル、カ如キコト有レハ叱咤罵詈シテ之ヲ驅使シ甚シキハ脅迫ノ手段ヲ以テ役ニ就カシムル有リ終ニパンシヤメン、コンスタン、氏ノ如キ服役排摯論者ヲシテ服役ノ制度ハ野蠻時代ニ却步スル者ナリ奴隸制度ヲ認可シタル者ナリ人類ノ位置ヲ貶黜スル者ナリト謂ハシムルニ至ル囚人ノ勞働ノ吾人

パンシヤ  
メン、コン  
スタン、氏  
ノ服役

ノ勞働ニ異ナル此ノ如シ然ルニ之ヲ願ミスシテ同一ニ論スルハ予何ノ故タルヲ知ラサルナリ且第一説ノ如キハ既ニ社會刑罰權ノ本旨ニ於テ大ニ誤リタル者ナリ抑社會ノ犯人ヲ罰スルハ唯此社會ノ害惡ヲ除去スルノミニ非スシテ犯人ヲ苦メテ懲戒シ之ヲシテ悔悟セシムルハ尤モ其企望スル所ナリ故ニ犯人アルキハ之ヲシテ再犯セシムルコト能ハサル點マテ拘束スレハ則チ足ル者ニハ非ス若シ此ノミニテ充分ナリトセンカ稱シテ刑罰ヲ施シタリトハ曰フヘカラサルナリ以上説明スル所ニ據レハ服役ノ制度ハ大ニ反對説アリト雖モ之ヲ以テ刑ハ一原素ト爲スモ敢テ社會刑罰權ノ本旨ニ乖戾スルニ非ス却テ大ニ本旨ニ適合スルヲ認ムヘシ之ヲ要スルニ社會ノ刑ヲ用非ルニ當リテハ勉メテ眞實ヲ有スル者ヲ撰ハサル可カラズト雖モ服役ノ如キハ多少ハ弊害アルニ拘ハラズ刑トシテハ利益多キヲ知ル何トナレハ



定規アル勞働ハ能ク放肆懶惰ハ惡習ヲ撲滅シ自働自修ハ良念ヲ發起セシメテ出獄ノ日ハ給與ノ工錢ト定職トアルヲ以テ自ラ犯罪ヲ再ヒスルニ至ラシメサレハナリ是レ我刑法ニ於テハ身體ノ自由ヲ剝奪スルニ係ル刑ニ付キ國事犯ハ刑及ヒ輕禁錮拘留ヲ除クハ外ハ悉ク定役ニ服セシムル所以ナリ

我刑法ハ徒刑ヲ有期無期ニ區別セリ此等身體ノ自由ヲ剝奪スル刑ノ有スル價值ハ已ニ本條ノ講說ニ入ルニ先チ之ヲ簡說セリ予ハ曾テ刑ノ性質ヲ說クニ臨ミテ假令身體ノ自由ヲ剝奪スル刑ナルモ無期ノ刑ハ分割スヘカラサルカ故ニ不長ノ性質ヲ帶フト謂フヘク而シテ我立法者ノ採用スル所トナリシハ如何ナル理由ナリヤト謂フ疑問ヲ存シ置キタリ今之ニ答フルノ機ニ到着セリ抑無期刑ノ弊害ニ付キ分割スヘカラスト云フ點ハ之ヲ再說セス唯前ニ述ヘサル所ノ學者ノ駁說ヲ

無期刑ノ利害

擧ケテ之カ得失ヲ論スルト爲サシ  
我刑法無期ノ刑ハ無期徒刑無期流刑及ヒ剝奪公權ノ三トス(無期刑ニ附加スル禁治産ハ無期タリト雖モ無期刑ノ性質ヲ具備スル者ニ非ス)無期トハ其刑ノ終期無キノ謂ニシテ被刑者ヲシテ畢生之ニ服シ復テ社會ニ齒セシメサル者ナリ此制度ヲ駁撃スル者ハ說ヲ爲シテ曰ク被刑者カ勉メテ情慾ヲ禁制シ惡習ヲ刈除セントスルハ畢竟再ヒ社會ニ出テ人類ニ齒セントスル冀望ノ獎勵スル有レハナリ而ルニ法律ニ於テ終身之ヲ拘束シテ我輩人類ト交通スルヲ許サ、ル時ハ被刑者ハ何ノ望ム所アリテ過ヲ改メ善ニ遷ラシヤ嗚呼無期ノ刑ハ被刑者ノ悔悟ノ情ヲ未ダ萌サ、ルニ破壊シ遷善ノ念ヲ未ダ生セサルニ撲滅スト謂フヘシ無期刑豈之ヲ刑法ニ存シテ可ナラシヤト說ク所務メテ犯罪者ノ爲ニ自新ノ道ヲ開キ惡人ト雖モ之ヲ廢棄スルニ忍ヒス誠ニ人類



ヲ愛惜スルニ割切ナル論ト謂フヘシ然レモ無期刑ナル者ハ假令犯者  
 ナシテ自新ノ念ヲ絶タシムルト有リトスルモ或ハ其他ノ弊害アルニ  
 モセヨ他ニ尤モ莫大ナル利益アルヲ以テ之ヲ廢スルトテ得サルナリ  
 抑刑ノ尤モ緊要ナル目的ハ將來ノ犯者ヲ警戒スルニ在リ無期刑ハ死  
 刑ト共ニ此目的ヲ達スルニ尤モ適當ノ性質ヲ具フルモノトス今之ヲ  
 實際ニ徵スルニ無期ノ刑ノ恐怖スヘキヲ見テ大罪ヲ犯スニ至ラサル  
 者蓋シ少シトセス而シテ被刑者ヲ見レハ凡ソ無期刑ヲ受クルカ如キ  
 者ハ皆是レ極惡ノ犯者ニシテ暴戾不法ノ惡習既ニ骨髓ニ入り再ヒ良  
 民タル能ハサル者ナリ而ルニ若シ此種ノ惡人ヲシテ必ス我々ト齒セ  
 シメサル可カラサル時ハ譬ヘハ奔馬ノ銜ヲ脫スルカ如ク社會ノ危險  
 良民ノ妨害モ亦甚シカラスヤ實ニ無期刑ハ頑迷復々化スヘカラサル  
 惡人ヲ驅リテ共ニ齒セス社會ノ爲メニハ再ヒ其害ヲ受ケサルヲ保シ

本人ノ爲メニハ復々惡ヲ爲スノ路ヲ絶ツト謂フヘシ且近世ニ至リテ  
 ハ死刑ノ良刑ニ非サルヲ覺リ之ヲ刑法ニ規定スルニ當リ尤モ其適用  
 ノ範圍ヲ狹少ニス我刑法ノ如キ是ナリ然レモ全ク無期刑ヲ廢スル如  
 キアラハ爲メニ罪刑ノ不權衡ヲ生シ死刑減少ノ目的ヲ達スル能ハサ  
 ルニ至ル可キヲ奈何セン況ヤ裁判官ノ死刑ニ該當スル犯者ニ對シ其  
 情狀ノ慰藉スヘキ有リテ之ヲ減等セントスルモ有期刑ノ寬ニ過クル  
 ヲ覺リ終ニ酌量減輕ノ權ヲ使用セスシテ死刑ヲ科スルニ至ルコトアル  
 チヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ無期刑ハ廢スヘカラサルノ刑ト謂フヘシ佛  
 國刑法ニ就キテ無期刑ノ沿革ヲ見ルニ千七百九十一年ノ憲法議會ノ  
 論ハ無期刑ヲ以テ死刑ヨリ酷ナリト爲シテ之ヲ廢シタリシカ千八百  
 十年ノ刑法ニ於テ再ヒ之ヲ設ク千八百三十二年ノ改正法ニ於テ之ヲ  
 保存セリ其他獨逸以太利埃太利白耳義等ノ刑法ニ於テモ亦悉ク無期



刑ヲ採用セサルナシ以テ無期刑ノ必要ナルヲ知ル可シ予ハ此ノ如ク  
 無期刑ヲ辯護スト雖モ然レモ被刑者モ亦人ナリ千萬人中豈悔悟改悛  
 善ニ遷ル者ナキヲ保スヘカラザランヤ而ルニ之ニ對シテ密ニ社會ハ  
 門戸ヲ鎖シテ毫モ顧慮スル所ナキハ如何ソ人情ハ忍フ所法理ハ許ス  
 所ナランヤ故ニ苟モ無期刑ヲ採用スルニ於テハ其弊ヲ矯正スルハ手  
 段ヲ求メサル可カラズ人或ハ無期刑ノ弊ヲ矯正スルハ特赦ノ典刑事  
 訴訟法第三百三十一條以下アルヲ以テ足レリト曰フト雖モ是レ誤見  
 タルヲ免レズ特赦ノ典ハ犯罪ノ實ニ憫諒スヘキ者アルニ當リテ之ニ  
 本刑ヲ全科スルノ酷ニ過クルヲ矯正セシカ爲メニ設ケタルモノニシ  
 テ常ニ無ク稀ニ行フ所ノ者ナリトス而ルニ彼ノ犯狀本刑適當ノ者  
 ニ對シ其悔悟改悛ヲ名トシテ之ヲ適用セントスルハ特赦ノ本旨ニ背  
 戾スト謂フヘシ我立法者ハ深ク此ニ見ル所アリテ假出獄ハ制度ヲ設

置セラレタリ誠ニ無期刑ノ弊ヲ補フニ足ル可シ嗚呼無期刑ハ利益此  
 ハ如ク大ナリ而シテ其弊害ヲ消除スルハ制此ハ如ク備ハリ此ニ至リ  
 テ無期刑ハ非議スヘカラザル刑ト謂フヘキナリ  
 本條第二項ハ有期徒刑ノ期限ヲ定メタリ草案ニハ十六年以上二十年  
 以下ノ刑期ナリシカ二十年ノ最長期ハ長キニ失シ被刑者ヲシテ其刑  
 期ヲ了ラスシテ死セシムルカ如キ有ルヲ顧念シ短縮シテ十五年ト爲  
 シタリ此點ヨリ見レハ別ニ不都合ナシト雖モ實際之ヲ適用スルニ當  
 リテハ甚ダ不都合ヲ生セサルヲ得ス抑此刑ノ長期ヲ頓ニ減少シタル  
 ニ由リ從ヒテ其下等有期徒刑ノ長期ヲ短縮シタルヲ以テ各刑長短期ノ  
 間大ニ減縮シ裁判官ヲシテ充分ニ罪ト刑トノ權衡ヲ得ル能ハサラシ  
 ム是レ曾テ述ヘタルカ如ク學者ノ痛論スル所ナリ又二十年ノ長期ヲ  
 減縮シテ十五年ト爲シタルニ由リ有期ト無期トノ間大ニ懸隔シ刑ノ



階級ニ不等ヲ生スルニ至ル從ヒテ裁判官罪ヲ斷スルニ當リテ無期刑ニ處スルハ甚ダ酷ナルヲ感スルト雖モ然レモ之ヲ十五年ノ有期刑ニ下ス時ハ非常ニ寛ニ失スルヲ恐レテ強ヒテ無期刑ニ處スルニ至ルカ如キ諸弊害ヲ讓生スルヲ免レズ予ハ實ニ草案ノ變更ヲ惜マサルヲ得サルナリ

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

我刑法ハ徒刑處分ニ關シテ二個ノ特例ヲ設ケタリ其一ハ即チ本條ニシテ他ノ一ハ即チ第十九條ナリ

何故ニ徒刑ニ處セラレタル婦女ハ島地發遣ヲ免ルハ得ルカ曰ク其理由甚ダ賭易シ蓋シ婦女ハ體質脆弱ニシテ危難ヲ侵スカ如キハ敢テ爲サル所ナリ故ニ之ヲ内地ノ獄ニ置クモ越獄等ノ患自ラ少ナク縱令之ヲ島地ニ發遣スルモ開拓探鑛等ノ苦役堪ユル能ハス又婦女ノ徒

刑ニ處セラル、者ハ之ヲ男子ニ比スレハ實ニ寡少ナリ然レモ之ヲ島地ニ送ルルハ別ニ女檻ヲ構造スル等ノ事ヲ爲サ、ル可カラス隨ヒテ行政上ノ困難ヲ來スコト少カラス寡少ノ囚人ノ爲メニ敢テ此等煩雜ノ手數ヲ爲スノ必要ナシ是レ本條ノ特例アル所以ナリトス論者動モズレハ輒チ曰ク本條ハ主ラ仁慈主義ニ規定シタル者ナリト大ニ誤レリト謂フヘシ

第十九條 徒刑ノ四六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

本條モ亦前條ト同シク敢テ仁慈主義ニ支配セラレテ規定シタルニ非スシテ法理上當ニ然ルヘキニ由ル蓋シ六十歳以上ノ老者ハ概シテ軀軀衰弱シテ通常壯者ノ執ル所ノ役ニ服スルコトヲ得ス若シ之ヲ強ユル時ハ爲メニ健康ヲ害シ生命ヲ損シテ間接ニ死刑ヲ執行スルト同一ニ歸ス是レ法律ハ六十歳ニ滿ル囚人ハ通常ノ定役ヲ免シテ其體力ニ相



當セル定役ニ服セシムル所以ナリトス

囚人已ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル後六十歳ニ至リタル時ハ尙ホ本條ヲ適用スルカ曰ク之ヲ適用スルニ於テ敢テ不都合ナルヲ無カルヘシ

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分ク島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス  
有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

本條ニ規定スル所ノ流刑ハ國事犯人ニ科スル者ニシテ死刑ニ次ク刑ナリトス何故ニ我刑法ハ非國事犯ト國事犯トニ科スル所ハ刑ヲ異ニセルカ曰ク此二犯罪ノ性質大ニ異ナル所ノ者アレハナリ予ハ曾テ國事犯非國事犯ノ區別ヲ説クニ當リテ二犯ノ性質ノ大ニ異ナル所以ヲ詳言シタルヲ以テ此點ニ付キテハ今復タ贅セス唯二犯ノ性質相異ナルニモ拘ハラス之ニ同一ノ刑ヲ科スルルハ如何ナル結果ヲ生スルヤト云フコト一言スヘシ夫レ社會ノ國事犯ニ對スルハ宛モ戰爭ノ時敵陣ニ對スルカ如キ思ナキ能ハス隨ヒテ罪囚ニ對シテハ俘虜ニ於ケル

カ如キ懷ナキ能ハサルナリ故ニ之ニ對スルノ方法ハ謹肅嚴格暴ニ至ラス濫ニ及ハス勉メテ責罰ノ結果ヲシテ肝膽ニ徹セシムルヲ多クシテ支體ニ感セシムルヲ鮮キテ要ス若シ然ラサルルハ社會ハ其仇敵ニ對シテ怨ヲ報ユルニ苟モスルモノニシテ會以テ器宇ノ狹小刑罰ノ偏頗ヲ示ス者ト謂ハサル可カラス且被刑者ニ在リテハ徒ニ汚辱セラルハノ感ヲ起シ社會ヲ怨望スルノ心益鬱結シ終ニ歸順ノ念ヲ生スル莫ラントス加之公衆ハ社會ノ暴虐ニシテ人ニ汚辱ヲ與フルニ愼マサルヲ憤リ反動ノ結果却テ罪人ヲ憫憐愛慕スルノ感覺ヲ惹起スルニ至ラントス又國事犯ニ科スル所ノ刑ヲシテ非國事犯ト同シカラシムルルハ非國事犯ノ位置ヲ高フスルノ嫌ナキ能ハサルナリ此ノ如ク數多ノ結果ヲ生スルヲ以テ國事犯ト非國事犯トノ刑ハ之ヲ區別セスンハアル可カラス是レ實ニ自然ヨリ出ツル所ノ者ト謂フヘシ



流刑ノ  
成條件

我刑法ニ於テ國事犯ト非國事犯トハ刑ハ如何ナル點ニ於テ區別セラ  
ルカ死刑ハ二犯同一ニ之ヲ科スレモ身軀ノ自由ヲ剝奪スルノ刑ニ  
於テハ服役ノ有無ヲ以テ之ヲ區別ス、觀ル可シ流刑以下國事犯ニ科ス  
ル所ノ刑ニ定役ナキヲテ

「流刑」トハ何ソヤ此刑名ハ洋ノ東西ヲ問ハス古來存スル所ニシテ昔時  
我國ニ於テ遠嶋或ハ嶋流シト唱ヘタル者ニシテ罪人ヲ遠隔セル嶋地  
ニ流謫スルヲ即チ是ナリ其構成條件ハ如何曰ク

- 一、嶋地發遣
- 二、幽閉

嶋地發遣ノ事ニ付キテハ徒刑ノ條下ニ於テ多少之ヲ辯明シタリ然レ  
モ國事犯人ヲ嶋地ニ發遣スルニ付キテハ之ヲ非國事犯ニ科スルニ比

國事犯人  
ヲ島地ニ  
發見スル  
理由

スレハ利益ハ大ナル者ナルヲ見ル即チ下ニ説ク所ノ如シ

凡ソ國事犯ヲ爲ス者ハ概シテ本國ニ多少ノ關係ヲ有スル者ナリ朋友  
故舊ノ親父母妻子ノ愛尤モ深厚ニシテ離レ難キノ情アリ黨與同謀ノ  
士諸方ニ伏在シテ尤モ去リ難キノ感アリテ彼ノ毫モ廉恥ヲ知ラサル  
兇惡無頼ノ輩ノ飄然トシテ内地ヲ去ルニ比スレハ霄壤ノ差アリ故ニ  
其一朝島地ニ發遣セラル、時ハ其苦痛ヲ感スルノ深キ果シテ幾何ソ  
ヤ且夫ソ國事犯ヲ爲ス者ハ其犯罪人ノミテ罰スルト雖モ未タ以テ全  
ク其餘黨殘類ヲ驅除スルヲ得サル者ナリ彼ノ政黨ノ争ヨリ生シタ  
ル國事犯ノ如キ其黨援即チ無形ノ同意者ハ其數ノ多キ幾千萬人ナル  
ヲ知ル可カラズ即チ犯罪人ヲ内地ニ置ク時ハ密ニ脱獄セシメント謀  
ル者アル可ク或ハ獄内相通謀シテ再ヒ大事ヲ爲スノ恐レアル可シ要  
スルニ國事犯ニ科スル島地發遣ハ犯者ヲ本國公衆ノ中ヨリ除却シテ



海外ノ遠キニ遷謫シ痛ク本國トノ關係ヲ絶テ全ク黨派ノ勢援ヲ滅シ  
本人ノ爲メニハ非望ヲ覬覦スルノ機ヲ失ハシメ公衆ノ爲メニハ再ヒ  
禍難ニ遇フノ危懼ヲ去ルノ利益アリ唯我國ハ遠隔ノ地ニ島地ヲ有セ  
サルヲ以テ此ニ揭ケタル利益ノ最大部分ヲ滅却スヘシ實ニ遺憾ナリ  
トス

二、幽閉

國事犯者ヲ島地ニ發遣スルモ定役ニ服セシムルヲ無ク之ヲ島地ノ獄  
ニ幽閉スルナリ但シ朝夕之ヲ一室ニ置クニ非ス監獄則ニ依レハ監房  
外ニ於テ運動スルヲ許サル其他幽閉ニ關シタル細則ハ具サニ監獄  
則ニ在リ就キテ一讀セラレヨ

第二十一條 無期流刑四年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免  
シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得  
有期流刑ノ三年ヲ經過スル者亦同シ

免幽閉ヲ  
設ケタル  
目的

本條ニ規定スル所ノ免幽閉ハ單ニ流刑ニ處セラレタル者ニノミ科ス  
ル所ノ者ニシテ彼ノ非國事犯罪ノ刑ニ適用スル假出獄ト其權衡ヲ同  
フスル者ナリ而シテ此制度ヲ設ケタルハ二個ノ目的ヨリ出ツ抑流刑  
ノ囚ハ本人ノ望ミニ由リテ勞役ヲ爲スヲ許可セラル、一ハ監獄則  
ノ規定スル所ナリト雖モ服役ハ人ノ好ミテ爲ス所ニ非ス故ニ囚人永  
ク獄裡ニ幽閉セラレテ天然ノ社交心ヲ拒絕セラル、其ハ爲メニ狂疾  
ヲ發スルニ至ル是レ屢々經驗スル所ナリ況ヤ無期囚ノ如キハ終生出獄  
スルヲ得サルヨリ犯者ヲシテ自暴自棄以テ良民ト爲ルノ念慮ヲ失  
ハシムルニ至ル可キニ於テテヤ是レ即チ流刑ノ囚ニ免幽閉ノ制度ヲ  
行フ所以ノ第一目的ナリ其第二目的ハ囚人ヲシテ島地ニ永住セシメ  
殖民地ヲ開カントスルニ在ルナリ乃チ我刑法ハ有期流刑ノ囚ハ三年  
ヲ經過シ無期流刑ノ囚ハ五年ヲ經過シテ始メテ行政權ノ處分ニ囚リ



幽閉ヲ免ス其期限ノ長短ノ如キハ固ヨリ立法者ノ隨意ニ定メタル所ニシテ他ニ理由ナキカ故ニ敢テ議スヘキノ點ナキカ如シ然レモ適用上如何ナル關係アルヤ請フ之ヲ左ニ辯セシ

免幽閉ノ利益

免幽閉ノ制度タル監獄則ノ規定スル所ニ據レハ囚人ニ於テ配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フキハ之ヲ許容セラル即チ島地ニ於テ一家ヲ成シテ生活スルノ自由ヲ與フルヲ以テ目的ト爲ス故ニ遠隔ナル殖民地ヲ有スル國ニ於テハ唯其目的ヲ達スルヲ得ルノミナラス是ヨリ生スル所ノ利益ヲ收ムルヲ得ヘシト雖モ我國ノ如キ島地ト稱スヘキ者ナキ處ニ於テハ極メテ危險ナリト謂ハサル可カラズ蓋シ流刑ニ處セラレタル犯罪者ヲ僅々五年若クハ三年ニシテ自由ヲ與フルハ甚タ早シ此ノ如クニ早ク自由ヲ與フルモ敢テ妨ク無シトスレハ則チ初ヨリ此刑ヲ置カサルノ優レリト爲スニ若カス即チ未タ罪ヲ犯

シテ數年ナラサルニ突然犯罪人ヲ出獄セシムルハ死灰再ヒ燃エ内  
外相應シ黨援四方ニ起ルハ實際上生スヘキノ危險ナリトス又此制度  
ハ彼ノ禁獄ト比較シテ不權衡ヲ生スルヲ見ル可シ禁獄ハ流刑ニ亞ク  
所ノ刑ナリ然ルニ此刑ニハ所謂免幽閉ナルモノ無クシテ假出獄ノ制  
度ヲ適用ス假出獄ハ囚人獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀アル時ハ其刑期四分  
ノ三ヲ經過スルノ後假リニ出獄ヲ許サル、カ故ニ禁獄ニ處セラレタ  
ル者ハ長キハ七八年少クモ四五年ヲ經過セザレハ假出獄ヲ得ス之ヲ  
流刑ノ三年若クハ五年ニシテ免幽閉ヲ得ル者ニ比較スレハ何ソ不權  
衡ノ甚シキヤ均シク是レ國事犯ニ科スル所ノ刑ナリ重キ者ハ早ク自  
由ヲ與ヘ輕キ者ハ遲ク自由ヲ與フルハ抑何ノ故ソヤ禁獄ハ内地ニ置  
キ流刑ハ島地ニ謫スルノ別ニソアレ畢竟輕重ノ度ニ從ヒテ期限ノ長  
短ヲ定メサルハ批評ヲ免ル、制度ト謂フヲ得サルナリ但シ此不權



衡ヲ來シタルハ草案ノ削除ヨリ生シタル結果ナリ草案ニテハ禁獄ニ  
 モ亦免幽閉ノ制度ヲ設ク重禁獄ハ一年ヲ經過シタル後  
 島地ニ移ラント請フ者ハ幽閉ヲ免シテ其刑期間島地ニ發遣シテ居住  
 セシムルコトナリシカハ禁獄ト流刑トヲシテ能ク其權衡ヲ得セシメタ  
 リ然レモ此削除ハ或ハ偶然實際ニ適當シタルカ如シ何トナレハ禁獄  
 ノ囚ヲシテ一年若クハ二年ニシテ其請ニ應シテ島地ニ發遣セシメサ  
 ル可カラサル時ハ其費用巨額ニ涉リテ之ニ堪ユルコト能ハザレハナリ  
 夫レ然リ削除ハ實際ニ適當ナリト雖モ上ニ論シタル危險ト不權衡ト  
 ハ其レ何ヲ以テ之ヲ償ハントスルカ  
 以上論スル所ニ由リテ考フルハ第二十一條ハ之ヲ廢シ一般ニ假出  
 獄ノ制度ヲ適用スル時ハ各刑ニ通シテ平衡ヲ得ルヤ必セリ然リト雖  
 モ唯是ノ理論上斯ノ如ク云ヒ得ルニ過キスシテ今日本條ノ改正ナキ

免幽閉ニ  
 關スル疑  
 問

以上ハ之ヲ適用セサル可カラサルナリ  
 免幽閉ハ假出獄ノ如ク囚人ハ獄則ヲ遵守シ改悛ハ狀アル者ニ非サル  
 ハ之ヲ許サルヤ免幽閉中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アル時ハ其  
 免幽閉ヲ取消スコトヲ得ルヤ免幽閉ヲ取消スルハ其出獄中ハ日數ヲ  
 刑期ニ算入セサルヤ刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ免幽閉  
 ヲ許サルヤ其數箇ノ問題ハ悉ク假出獄ノ條下ニ於テ單ニ假出獄  
 ニ付キテノミ規定スル所ニシテ免幽閉ノ條下ニハ更ニ其形影ヲモ見  
 ルコトヲ得ス知ラス如何ニ之ヲ論斷スヘキヤ個ハ假出獄ノ條下ニ到着  
 シテ然ル後ニ之ヲ説クヘシ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者  
 ハ第十九條ノ例ニ從フ  
 重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

懲役ハ非國事犯ニ科スル第三級ノ刑ニシテ徒刑ニ次ク所ノ者ナリ之



ヲ分テテ重輕ノ二類ト爲スト雖モ其刑ノ執行方法等敢テ異ル所ノ者  
ナシ唯刑期ニ長短ノ差アルノミ  
本條ニハ別ニ説明スル程ノ問題ナシ唯重懲役ノ期限ハ十一年ニ終リ  
有期徒刑ノ期限ハ十二年ニ始マルヲ以テ二刑ノ間ニ於テ犯人ニ科ス  
ルヲ能ハサル期限アリテ存シ裁判官ヲシテ犯罪ノ輕重ニ應シテ刑期  
ヲ伸縮スルヲ得サラシム例ヘハ裁判官或罪ニ對シ十一年ノ重懲役  
ニ科スレハ寛ニ流シ十二年ノ有期徒刑ニ處スレハ嚴ニ過クルカ故ニ  
十一年半ト云フ刑ヲ適用セント欲スルモ決シテ爲スヘカラサルトト  
爲ス此點ニ付テハ嘗テ辯シタルヲ以テ之ヲ詳説セス  
第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス  
重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス  
禁獄ハ國事犯ニ科スル所ノ刑ニシテ流刑ノ次ニ位ス本條ニ付キテハ  
別ニ説明スルノ點ナシ

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役  
ニ服セス  
禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其  
長短ヲ區別ス

「禁錮」ハ輕罪ノ主刑ニシテ其重輕ヲ分タス皆禁錮場ニ留置スルモノト  
ス抑禁錮ノ刑タル之ヲ統計ニ徵スルニ諸刑中尤モ多ク適用スル所ノ  
者トス蓋シ人ノ最モ犯ス者若クハ犯シ易キ者ハ竊盜又ハ詐欺取財ノ  
罪ニシテ此二罪ハ禁錮ヲ以テ之ヲ罰スルニ因ルナリ故ニ刑罰ノ目的  
タル懲治ノ効ヲ奏スルハ殆ト此刑ニ在リト謂フヘシ此刑ニシテ能ク  
其目的ヲ達センカ再犯者ハ數極メテ少ク從ヒテ社會安靜ノ狀ヲ呈ス  
ルニ至ル可シ嗚呼禁錮ノ刑タル何ソ望ヲ屬セラルハ大ニシテ而シ  
テ其價值ノ貴キヤ然リト雖モ實際上其効ヲ奏スルヲ能ハサル者アリ  
テ却テ反對ノ結果ヲ生スルヲ見ル今試ミニ監獄署ニ就キテ禁錮場内



ノ犯人ヲ見ヨ多クハ是レ再犯ニ非サレハ則チ三犯四犯若クハ五犯ノ多キニ上リ而シテ觀トシテ慙ル所ナキ者ニ非サルハ無シ聞ク或國ニ於テ四十犯ノ多キニ上リタル者アリト此等ハ固ヨリ例外ナリト雖モ假リニ此犯者テ年齢五十歳トスレハ殆ト一年餘ニシテ一回ツ、罪ヲ犯シタル者ト謂フヘシ斯ク再犯者ノ多キハ何レノ國ト雖モ悉ク然ラサルハ無シ願フニ此ノ如キ反對ノ結果ヲ生シタル所以ノ者ハ監獄制度ノ不完全ナルニ出テタル者トス余ハ將ニ言ハントス監獄署ハ犯罪ノ研究場殊ニ竊盜ノ教育所ナリト何トナレハ實際監獄署ノ状態ヲ見ルニ犯者群集シ相淬勵シテ竊盜術ヲ研究シ復タ餘念アルコト無シ故ニ無賴ノ徒益々其術ニ練達シテ出獄ノ後必ス之ヲ實行セントスル念慮ト唯一日モ早ク獄ヲ出テントスル思望トヨリ外アルコト無シ因テ此等犯人ノ一タヒ出獄スルヤ忽チ再ヒ罪ヲ犯スニ至リ其能ク改過遷善良民

英國監獄  
會議ノ決  
定

トナルモノ殆ト之アルコト無シト謂フモ誣言ニ非サル可キヲ以テナリ是レ各國ノ立法者及ヒ學者ヲ苦シムル一大問題即チ監獄制度ノ改良方法ト云フ問題ノ由リテ起ル所以ナリトス現ニ我國ノ如キハ其原因ノ如何ハ未タ知ルコトヲ得サレトモ犯罪者ノ數ハ年々駭々乎トシテ多キヲ加ヘ究極スルコト無キカ如シ若シ此有様ニテ増加シテ止マズンハ全國到ル所トシテ監獄署ナラサル無キニ至ラントス嗚呼吾人ハ舊ヒテ監獄制度ヲ研究シ被刑者ヲシテ過テ改メ善ニ遷ラシムルコトヲ計ラサル可クンヤ

曾テ一言シタルカ如ク監獄制度改良ノ問題ニ付キテハ各國皆之ニ注目シ銳意研究セサル無シ曾テ開設シタル萬國監獄會議ハ其改良方法ヲ議シタル者ナリ今其會議ニ於テ決定シタル囚人監禁方法ノ大略ヲ述ヘン



同室監禁ナル制度アリ是ハ囚人ヲ一室内ニ雜居セシメ同一時ニ服役セシムルノ方法ニシテ此制度ハ尤モ弊害アリ何トナレハ起居進退之ヲ共ニスルヲ以テ諸種ノ奸惡相傳染シテ懲治ノ効ヲ奏スルヲ得サレハナリ故ニ此制度ハ採用スヘカラサルモノトス又別室監禁ナル制度アリ此制度ハ囚徒一人ツ、之ヲ別室ニ置キテ絶エテ他室ト相交通スルヲ得サラシメ其役ニ服スル時モ亦各室ニ於テ爲サシムル所ノ方法ナリ此制度モ亦利益アルヲ無シト云フ蓋シ人間ハ社交動物ナリ然ルニ長時間之ヲ一室ニ禁錮シ唯監吏若クハ宗教徒ノ顔色ヲ窺フヲ得ルノミニテ其固有ノ性情ヲ發揮スルヲ能ハサルヲ以テ幽鬱無聊病ヲ醸スニ至ラサレハ則チ精神忽チ狂ヒテ自殺スルニ至ル可キヲ以テナリ故ニ此制度ハ人間ノ性質上ヨリシテ採用スルヲ得サル方法ナリトス此ニ稍適當ナル方法アリ即チ晝間ハ同室監禁ノ制ヲ採用シ夜間

我國ノ監獄制度

ハ別室監禁ノ方ヲ採用シタル者アリ此方法ハ晝ハ各囚雜居シテ役ニ服スルヲ以テ正當ノ事ニ關シテ交通自由ナリトス故ニ人間固有ノ社交心ヲ蔽遮スルノ憂ナシ而シテ犯罪ヲ傳習スルニ最モ好機ナル夜間ハ各室ニ別居スルヲ以テ奸惡相染ムノ憂ナシ因リテ此方法ハ萬國監獄會議ニ於テ最モ多數ノ賛成ヲ得タリト云フ茲ニ我國監獄ノ制度ハ如何ト云フニ尙ホ夫ハ最モ弊害アル同室監禁ノ方法ヲ採用スト聞ク已ニ善良ナル方法アリ而シテ未ダ實施セラレズ實ニ惜ミテモ尙ホ餘リ有リト謂フ可シ但シ我國監獄内ハ概シテ非常ニ清潔ナリト聞ク予曾テ虎烈拉病流行ノ際石川島監獄署ヲ實視シタルニ其清潔ナルヲ實ニ想像ノ外ニ出テタリ然レモ假令獄内清潔ナルモ又ハ他ノ取締其方ヲ得タルモ依然同室監禁ノ制ヲ採用スルニ至リテハ竊盜學ノ研究日ニ月ニ進歩シテ息マサル可シ慨ハシキヲナスヤ但シ夜間別室ニ



置クニ付キテハ多額ノ費用ヲ要シ今日ノ状態ニ在リテハ堪ヘ得ヘキニ非ス故ニ漸次今日ノ制度ヲ廢シテ良方法ヲ採用スルヲ可ト爲ス禁錮ニハ重輕ノ二種アリ一見スレハ重輕ノ名アルカ故ニ二刑ノ間自ラ輕重ノ差アルカ如シト雖モ敢テ然ルニ非ス其輕ト云ヒ重ト云フハ服役ノ有無ヲ指示シタルニ過キス而シテ服役ノ有無ハ此刑ノ輕重ヲ爲ス者ニ非サルナリ蓋シ夫ノ懲役ノ如キハ其輕重ノ區別ニ因リテ刑ニ輕重アルトハ其刑期ニ長短ノ差アルヲ以テ之ヲ知ルヲ得ヘシト雖モ重輕禁錮ノ刑期ハ同一ナルハ刑期ノ點ニ於テハ輕重ナシ而シテ一方ニ服役アリ一方ニ之ナキハ其科スル所ノ罪ノ性質ニ異ル所ノ者アレハナリ即チ重禁錮ハ通常破廉耻ノ罪即チ道德ニ背キ社會ヲ害スルコト最モ大ナル犯罪ニ科シ輕禁錮ハ國事犯又ハ非國事犯中ニテ道德背戻ノ點ヨリモ重モニ社會ニ害惡ヲ流ス犯罪例ヘハ公選ノ投票ヲ偽造

スル罪傳染病豫防規則ニ關スル罪若クハ官吏濫職ノ罪ノ如キニ科スル所ノ者ナレハ刑期ノ同一ナル場合ニハ決シテ輕重アルト無キナリ尙ホ換言スレハ重禁錮ハ重禁錮ニ相應スヘキ罪ニ科シ輕禁錮ハ輕禁錮ニ適當スヘル罪ニ科スルモノニシテ服役ノ有無ヲ以テ二刑ノ輕重ヲ度ルコトヲ得サルナリ例ヘハ茲ニ五年ノ輕禁錮ニ處セラントタル者アリ又十一日ノ重禁錮ニ處セラントタル者アリトセシニ五年ノ輕禁錮ニハ服役ナキカ故ニ服役ノ有ル十一日ヨリ輕シト爲サ、ル可カラサルカト云フニ決シテ然ラス故ニ重禁錮モ輕禁錮モ其名稱ニ重輕ノ區別アルニモセヨ其刑ノ構成ニ定役有無ノ差違アルニモセヨ二刑ノ間ニハ決シテ輕重アルト無キナリ

本條第二項ニ據ルニ大ニ重罪ノ刑ト異ル所ノ者アリ總テ重罪ノ刑ハ總則ニ於テ定メタル刑期ヲ直チニ適用シ別ニ各本條ニ於テ其刑期間



ニ付キ長短ヲ區別スルヲ無シ然ルニ禁錮若クハ禁錮以下ノ刑ハ已ニ  
 總則ニ於テ一般期限若クハ金額ヲ定メ仍ホ各本條ニ於テ各犯罪ニ應  
 シテ其長短多寡ヲ規定セリ故ニ刑法上ヨリ論スル時ハ禁錮以下ノ刑  
 ニ付キテハ總則ニ定メタル長短多寡ハ全ク無用ニ屬スル者ノ如シ然  
 レモ此ノ如ク規定シタルハ後來ノ立法者ヲシテ總則ノ範圍ヲ超越セ  
 シムヘカヲサルヲ定メタル者ナレハ敢テ無用ノ條文ト謂フヘカラ  
 サルナリ然ラハ何故ニ總則ニ範圍ヲ定メタルニモ拘ハラズ再ヒ各本  
 條ニ規定スルノ必要アリヤ蓋シ輕罪以下ノ罪ハ其種類甚ク多クシテ  
 千差萬別ナリトス故ニ重罪ノ諸刑ノ如ク總則ノ範圍ヲ以テ直チニ適  
 用シ得ル者トセハ茫漠トシテ犯罪者アル毎ニ之ニ適應スル刑ノ長短  
 多寡ヲ定ムルヲ困難ナル可シ立法者此ニ慮ル所アリ各本條ニ就キテ  
 自ラ配劑ヲ行ヒ以テ裁判官ニ便ス注意到レリト云フヘシ故ニ總則ノ

工錢給與ノ利害

範圍ハ後來制定スヘキ法律ニ付キ立法者ノ依從スヘキ定度ニシテ各  
 本條ノ範圍ハ此刑法ノ適用ニ付キ裁判官ノ遵守スヘキ規則ナリトス  
 第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄  
 舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ  
 在ラス  
 本條規定ノ理由如何曰ク囚人ハ總テ犯罪者ナリ一私人及ヒ社會ヲ害  
 シタル者ナリ故ニ制裁トシテ定役ニ服セシム而シテ服役ニ因リテ得  
 タル工錢ヲ囚人ニ與フルハ犯罪者ヲ利益スル者ニシテ刑ハ苦痛ナリ  
 ト云フ主義ニ背戾スルカ如シ然レモ服役ニ因リテ得タル工錢ノ幾分  
 ヲ給スルハ極メテ必要ナルコトス若シ刑ハ苦痛ナリト云フ主義ニ拘  
 泥シテ徒ラニ囚人ヲ苦マシメ勞役ニ疲ラセテ毫モ其勞働ニ報ユル所  
 ナクシハ則チ囚人ハ何ニ由テ勞役ニ勉勵セシヤ勞役ニ勉勵セサレハ  
 則チ勞働ノ習慣ヲ造成スルヲ得ス勞働ノ習慣ヲ得サレハ則チ出獄ノ



後復々生計ノ路ニ彷徨シテ再ヒ罪過ニ陥ルヲ免レズ服役ノ制度此ニ至ルモハ毫モ益ナキ者ト謂ハサル可カラズ是故ニ囚人ノ勞働ヨリ得タル工錢ハ其幾分ヲ給與シテ勞役ヲ獎勵シ或ハ囚人ノ需要ヲ満足セシメ或ハ官ニ於テ之ヲ預リ滿期放免又ハ假出獄免幽閉ノ時之ヲ給與シテ生計ノ資本ト爲サシメ以テ貧困ニシテ再ヒ罪ヲ犯スノ危害ヲ豫防シ又勞働ハ財ヲ得幸ヲ博スルノ資本タルコトヲ知ラシムルハ實ニ法律ノ希望スル所ニシテ本條ノ出ツル所以ナリ此點ヨリ觀察スルキハ工錢給與ノ制度ハ利アリテ害アルコトヲ見サルナリ其給與ニ關スル細則ハ具サニ監獄則第五十一條以下ニ在リ就キテ一讀セハ則チ本條ノ規定ノ實ニ至當ナルコトヲ知了スルコトヲ得ン

工錢ハ現役百日以内ハ之ヲ給與セス是レ何等ノ理由ニ基キタルカ此論題ニ就キテハ往々異論アリ或曰ク百日以内ニ於テ放免セラル、囚

人ハ就役ノ時間甚ク僅少ナルヲ以テ再ヒ生業ニ就クハ困難ナリトセス且百日以内ニ在リテ給與ヲ受クルト雖モ其額僅少ニシテ以テ就業ノ資ト爲スニ足ラス加之該囚ノ勞役ヨリ得タル利益ハ之ヲ就役セシムルニ要シタル出費ヲ償フコトヲ得ス是等ノ理由ヨリシテ「百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス」ト爲シタルナリト至當ノ說ニ庶幾シ

「現役百日」トハ實地百日間役ヲ就キタルヲ云フ但シ令節國祭ノ日父母ノ喪等ハ監獄則ニ於テ服役ヲ免スルノ日ナルカ故ニ此等免役ノ日ハ百日ニ算入セサル可カラズ然レモ疾病等ニヨリテ役ニ服セスシテ現役日數百日ニ滿タサルキハ給與ノ限ニ在ラサルナリ

第二十六條 罰金ハ二圓以上十圓以下爲シ尚ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

罰金ニ二條アリ一ハ輕罪ノ主刑ニシテ一ハ輕罪ノ附加刑ナリ本條ノ罰金ハ即チ主刑ナリ曾テ述ハタルカ如ク我刑法ハ身軀ノ自由ヲ剝奪



罰金ノ有  
スル價値

スル刑ヲ以テ基本ノ刑トナシタルヲ以テ罰金ハ夫ノ死刑ト共ニ例外  
ノ刑トシテ採用シタリ故ニ罰金ヲ主刑トシテ科スルハ實ニ數種ノ罪  
ニ過キス但シ特別法ニハ多ク此刑ヲ採用セリ  
罰金ハ刑法上如何ナル價値ヲ有スルカ曰ク罰金ハ禁錮ト等シク懲治  
ヲ以テ重モナル目的ト爲スト雖モ此ヲ以テ其目的ヲ達セハトスルハ  
甚ク難ク且罪惡必罰ノ例ヲ示スニ於テ尙ホ且其目的ヲ達スルト甚ク  
難カル可シ夫レ罰金ヲ科スルハ唯犯人ニ屬スル財産所有ノ權利ヲ官  
ニ移轉スルニ過キサレハ夫ノ直接ニ身體ニ及フ諸刑ノ如ク罪惡必罰  
ノ例ヲ示スト甚ク大ナラス其懲治ノ功ヲ奏シ犯人ヲシテ改過自ラ悔  
ユルコトアラシムルニハ犯人ヲ獄裡ニ繋留シ或ハ定役ニ服セシメ或ハ  
宗教家ノ力ニ因リテ勸善懲惡ノ説教ヲ聽聞セシムル等ノ手段ヲ假ラ  
スノハアラス然ラサレハ何ヲ以テ犯人ノ惡習ヲ洗滌シテ良心ニ復セ

シムルヲ得ンヤ其適罰金ヲ科セラレテ再犯セサル者ハ惡ヲ爲シ罪ヲ  
犯スハ不正ナルコト悟リテ然ルニ非ス唯巨額ノ罰金ヲ納ムルノ苦痛  
アルヲ以テニ過キサレノミ故ニ罰金ハ以テ懲治ノ目的ヲ達スルニ充  
分ナル刑ニ非サルナリ又罰金ハ不公平ナル刑タルヲ免レハ何トナレ  
ハ受刑者ノ貧富ニ因リテ其心ニ感スル苦痛ノ度甚ク懸隔スル所ノ者  
アレハナリ例ヘハ茲ニ巨萬ノ富ヲ有スル者ニ二三百圓ノ罰金ヲ科ス  
ルモ何ノ苦痛カアル此等些少ノ罰金ニテ事已ムニ於テハ再ヒ罪ヲ犯  
スノ可ナルニ若カスト云フ反動心ヲ惹起スルニ至ル之ニ反シテ眷族  
甚ク多ク仰養俯育一身ニ任シ而シテ其職業ヨリ得ル所ノ利益ハ以テ  
父母妻子ニ給スルニ足ラサルカ如キ者ニ百圓ノ罰金ヲ科スルトセン  
已レノ資産ハ以テ罰金ニ充ツルニ足ラス去レハ逆輕禁錮ニ換ヘテ獄  
ニ入レシカ(第二十七條參看)父母妻子ハ誰レニヨリテ生命ヲ保續スヘ



キ此ノ如キ受刑者ノ苦痛ハ實ニ想像ノ外ニ出ツ是ヲ以テ罰金ハ不公  
平ナル刑ト謂ハサル可カラサルナリ以上説明ハ如クナルヲ以テ罰金  
ハ善良ナル刑ト謂フヘカラス是レ我刑法ハ例外ハ刑トシテ僅ニ數種  
類ハ罪ニ科シタルニ過キサレ所以ナリトス

罰金ノ最  
多額ヲ示  
由サ、ル  
ル示

罰金ノ額ハ二圓以上ニシテ最多額ハ別ニ規定セス是レ此ノ如クセサ  
ル可カラサル必要アルニ由ルナリ第九十三條ノ罪即チ貨幣ヲ取受  
スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者ノ如キ  
ハ其行使シタル價額ノ二倍ニ相當スル罰金ニ處セラル、ヲ以テ犯人  
ノ行使ノ多寡ニ因リテ一萬圓ニ上ルカ百萬圓ニ上ルカ或ハ三圓二圓  
ニ下ルカ豫メ之ヲ知ル丁能ハス故ニ總則ニ於テ其最多額ノ極度ヲ規  
定スルモ無用ニ屬スヘシ而シテ第九十三條ノ如キ規定ハ特別法中  
ニ多キヲ見ル所ノ者トス酒造規則醬油稅則等ニハ檢査ヲ受クシテ

、、、、、賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石稅ノ何倍  
ニ相當スル罰金ヲ科ス下アル類ノ如シ是レ本條ニ於テ特ニ罰金ノ最  
多額ヲ定メサル所以ナリトス

又罰金ハ各本條ニ至リテ其多寡數ヲ定ムル丁禁錮ト異ナル丁無シ此  
理由ハ已ニ禁錮ノ處ニ於テ辯シタルナリ且罰金ニハ最多額ヲ規定セ  
サルカ故ニ各犯罪ニ適當スル多寡額ヲ以テ裁判官ニ一任スル時ハ非  
常ナル多寡ノ罰金ヲ科シ毫モ顧ミル所ナキニ至ルヤモ計ラレサルヲ  
以テナリ

本條ノ講ヲ終ルニ臨ミ罰金ノ徵收方法ニ付キテ一言セン予ハ既ニ論  
シタリ罰金ハ犯人ニ貧富アルヲ以テ不公平ノ刑タルヲ免カレズト然  
ラハ正當ナル方法ニ因テ徵收シタラシニハ其弊ヲ防クヲ得ヘキ乎曰  
ク其弊ヲ防キ得サルニ非サレ到底充分ナリト謂フヲ得ス或ハ曰ク



犯人ノ入額幾日分ヲ徵收スト定ムルハ富者ハ入額多ク貧者ハ入額少シ故ニ其徵收シタル金額ハ富者ニ多クシテ貧者ニ少シ此ノ如クスレハ貧者富者共ニ其苦痛ノ度ヲ同量ニスヘシト此說甚ク不可ナリ夫シ人ノ入額ハ實ニ他ヨリ綿密ニ計算スルヲ得ス近年所得稅ヲ徵收スルノ點ヨリ觀レハ人ノ入額ヲ明亮ニスルヲ得ルカ如シト雖モ所得稅ナル者ハ三百圓以上ノ入額アル者ニ非サレハ徵收セラレサルヲ以テ現行法ニヨリ其入額三百圓ニ滿タサル者ハ何ニ由リテ其入額ヲ査定スヘキヤ且聞ク所ニ據レハ所得稅ニモ亦甚シキ誤謬アリト然ラハ則チ入額幾日分ヲ徵收スト云フハ實際行フヘカラサル事ト爲ス故ニ已ムテ得ス裁判官ヲシテ刑ノ多寡數ノ間ニ於テ各人貧富ノ度ニ應シテ斟酌セシムルヲ以テ當テ得タル者ト爲サ、ル可カラサルナリ

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一回チ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一回ニ滿タル

罰金ヲ納メシムルノ制

者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス  
罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得ス  
若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ  
本條ハ罰金ヲ納メシムル爲メニ規定シタル制裁ノ條文ナリ抑身體ノ自由ヲ剝奪スル刑ハ被刑者ノ身體ヲ獄舎ニ投スレハ其目的ヲ達スベシ罰金ハ財産ニ關スルノ刑ナリ而シテ若シ被刑者無資力ニシテ且他ニ代納スル者ナキヲ以テ漫ニ刑ノ執行ヲ廢スヘキニ非ス又被刑者ニシテ資力充分ナリト雖モ頑然納完スルヲ欲セサル時モ亦漫ニ執行ヲ廢スヘキニ非ス資力ナクハ則チ之ニ換ユルノ方法ナカル可カラズ資力アルハ則チ之ヲ出サシムルノ手段ナカル可カラス本條ハ則チ此等罰金ヲ納完セサル者ノ爲メニ規定セラレタル者ナリトス然ルニ本條ハ草按ノ初メヨリシテ大ニ議論アル條文ニシテ且罰金ヲ納メシ



ムル制裁ノ方法ニ付キテハ各國ノ立法者ヲシテ苦慮セシムル所ナレ  
ハ本條ニ付キテ議論アルハ免ル可カラサルナリ予ハ將ニ詳カニ之ヲ  
説明セントス

第一項 云々

凡ソ刑ハ裁判確定スルハ直チニ執行スルヲ定メ然ルニ第一項ニ  
據ルニ罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム云々ト有リテ刑  
ハ執行期限ヲ猶豫セリ是レ刑ハ一身ニ止マラントテ希望スルニ出テ  
タル者ナリ若シ罰金ノ刑ヲ以テ直チニ執行セサル可カラサル者ト爲  
スルハ貧窮者ハ己レ一人困迫スルノミナラス眷族ヲシテ一時ニ餓死  
セシムルニ至ルモ計ラレス或ハ多少ノ資産家ト雖モ金錢ノ性質トシ  
テ常ニ貯藏シ得ラル、ニ非ス故ニ之ヲ納完センニハ多少ノ猶豫時間  
無クシテハアル可カラス是レ裁判確定後尙ホ三十日ノ猶豫ヲ與ハタル

所以ナリトス然レモ赤貧洗フカ如キ者ニ至リテハ假令幾何日ノ猶豫  
ヲ與アルモ之ヲ納完スルヲ得ス或ハ資力アルモ頑トシテ納完セサル  
者モ亦何程ノ猶豫期限ヲ與アルモ何ノ益アルヲ無シ故ニ第一項ニ於  
テハ若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ輕禁錮ニ換  
ヘ若クハ其幾分ヲ納ムト雖モ殘額アレハ皆一圓ヲ一日ニ折算シテ輕  
禁錮ニ換ヘ一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算スト爲シタリ其  
一圓ヲ一日ニ折算スルハ如何ナル標準ニヨレルカ個ハ唯立法者ノ隨  
意ニ定メタル者ニシテ別ニ法理ニ基キタル者ニ非サルナリ故ニ二十  
錢ヲ一日ニ折算スルモ五十錢ヲ一日ニ折算スルモ或ハ二圓三圓四圓  
五圓ヲ一日ニ折算スルモ取テ不可ナカル可シ要スルニ實際ニ適スル  
ニ在ルノミ然レモ我立法者ノ一圓ヲ一日ニ折算シタルハ大ニ至當ナ  
リト信ス何トナレハ二十錢五十錢ヲ一日ニ折算スルハ換ヘラレタル



輕禁錮ノ期限甚ク長クナリテ爲メニ本刑ノ罰金ト換ヘラレタル禁錮ト甚シキ平衡ヲ失スルニ至ル可ク又二圓三四等ヲ一日ニ折算スレハ輕禁錮ノ期限甚シク短縮シ被刑者ハ皆多額ノ罰金ニ處セラレヨリハ寧ロ短キ禁錮ヲ科セラルノ利益多キニ若カスト爲シ遂ニ罰金ヲ納ムル者ナキニ至ル可シ即チ一圓ハ多カラス少カラス實ニ其中庸ヲ得タルヲ以テナリ

第二項 云々

本項ノ規定スル所ニ據ルニ罰金ノ代リニ科スル輕禁錮ハ別ニ裁判ヲ用井ス夫レ通常禁錮ヲ言渡スニハ必ス適法ノ儀式ニ因ル者ナルニ本項ニ其例外ヲ設ケタルハ是レ本條ノ輕禁錮ハ罰金ノ代リニ命スル者ニシテ罰金ハ刑ノ執行方法ニ過キス即チ新ニ輕禁錮ヲ命スルニ非サレハ別ニ裁判ヲ用井ルハ必要ナクハナリ而シテ之ヲ命スルニ當リ

斷テモ別ニ困難ナルニ非ス百圓ノ罰金ハ百日ニ換ヘ二百圓ノ罰金ハ二百日ニ換フルモノニシテ一見瞭然タリ故ニ檢事ノ請求ニ因リテ裁判官之ヲ命ス檢事ノ請求スル所以ハ檢事ハ公訴ヲ實行スルノ任務ヲ負フ者ナレハナリ  
罰金ニ換ヘタル輕禁錮ハ二年ヲ過クルヲ得サルハ何ハ故ンヤ夫レ罰金ノ最少額ハ二圓ナルカ故ニ之ヲ輕禁錮ニ換フルルハ僅々二日ニ過キスト雖モ其多額ニ至リテハ一定スルヲ無シ故ニ或罪ニヨリテハ數百萬圓ヲ科セラル、有ル可シ例ヘハ偽造貨幣ヲ收受シタル後其偽貨ナルコトヲ發見シタルニ拘ハラス之ヲ行使シテリ而シテ其額一萬圓ナル時ハ二萬圓ノ罰金ニ處セラル可シ之ヲ輕禁錮ニ換フルルハ二萬日即チ五十四年餘ノ輕禁錮ニ處セラル、ニ至ル禁錮ノ最長期ハ僅ニ五年重罪ノ有期刑ト雖モ十五年ヨリ上ルヲナシ然ルニ輕罪ノ刑殊ニ



罰金ノ刑ニ處セラレタル者ヲシテ五十四年餘獄舎ニ在ラシムルハ吾人ノ感覺上大ニ不可ナルヲ認知シ得ルノミナラス刑法上禁錮ノ最長期ハ五年ト規定アルヲ如何センヤ刑法ノ此規定アルヤ唯ニ罰金ヲ納メシムル爲メニ設ケタル手段ニ過キサシハ之ヲシテ數十年ノ長キ時間禁錮ニ處スルハ實ニ穩當ナラサル事ト謂ハサル可カラズ我立法者ハ此ニ憂フル所アリテ二年ヲ過クルヲ得スト規定シタルナリ

第三項 云々

罰金ヲ納完セスシテ輕禁錮ニ換ヘラル、ト雖モ固ト此制度ハ罰金ヲ納メサルニ因リテ設ケラレタル者ナレハ刑期限内ニ於テ罰金ヲ納ムル時ハ其禁錮セラレタル日數ニ相當スル金額ヲ扣除シテ其殘額ヲ徵收シテ禁錮ヲ免ス是レ至當ノ制度ト謂フヘシ此場合ニ際シテ被刑者本人之ヲ納ムルヲ得サルニヨリ親屬及ヒ其他ノ者ニ於テ代納スル時

罰金代納ノ利害

ハ前ト同シク處分セララル人アリ曰ク刑ハ犯罪者其人ニ科スルヲ原則トスルニ罰金ハ一ノ刑タルニモ拘ハラズ他人ノ代納ヲ許可スルハ是レ犯罪者ニ非サル人ヲ刑スル者ニ非サヤト此說一理ナキニ非スト雖モ之ヲ實際上ヨリ論スレハ敢テ然ルニ非サルナリ願フニ縱令法律ニ於テ代納ヲ許サスト規定スルモ其實依然タル代納ニ外ナラサルノ結果ヲ生ス若シ被刑者ニシテ禁錮ニ處セララル、ヲ以テ至極ノ苦痛ト思考スルハ若クハ親屬其他ノ者カ彼ヲシテ獄ニ入ラシムルヲ欲セサル時ハ必ス親屬其他ノ人ヨリ借用若クハ受贈シテ納完スルハ自然ノ結果ナリ其名ハ本人之ヲ納メ其實ハ親屬其他ノ者之ヲ代納スルハ代納ヲ禁スルモ何ノ益アルヤ若カス公然之ヲ許可スルノ勝ルニハ、知ル可シ罰金代納ノ制度ハ敢テ不當トノミ斷言スヘカラサルコト然リト雖モ此ニ區別セサル可カラサル一事アリ即チ被刑者ノ爲メ廣ク公衆



ヨリ義捐金ヲ醜集シ以テ代納スルコト是ナリ此事タル之ヲ爲スモ敢テ不可ナキカ如シト雖モ是レ實ニ禁制スヘキ事ト爲ス然レモ此事タル明クナキカ故ニ久シク人ノ疑フ所ナリシモ明治二十二年二月廿八日勅令第七十五條ノ新聞紙條例ノ頒布アリタルニ因リテ始メテ立法者ノ真意ヲ表出シタリ新聞紙條例第十七條ニ曰ク刑律ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲メニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス下以テ被告人ノ爲メニスル義捐金ヲ募集スルヲ得ザルコト從ヒテ義捐金ヲ以テ罰金ヲ代納スルヲ得サルコトヲ知リ得ヘシ此禁制ハ甚タ至當ノコトニシテ舊新聞紙條例等ニ規定ナキハ欠點ナリトス蓋シ犯罪者ノ爲メニ義捐金ヲ募ル如キハ實ニ法律ノ尊嚴ヲ汚辱スルモノナリ何トナレハ犯罪者ヲ罰スル者ハ社會ニシテ之ヲ救助スルモ亦社會ナリト云フ奇ナル結果ヲ生シ法律ヲ以テ人ヲ罰スルノ實ナキニ

第二十七條ニ對スル批難

歸スルヲ以テナリ

此ノ如ク解説シ來ルルハ第二十七條ニハ困難ナル問題モ無ク又駁撃スヘキ點モ無ク眞ニ明晰解シ易キ法文ノ如シト雖モ是レ唯ニ皮想ノ見ニ過キサルナリ請フ以下之ヲ論ゼン

第一 本條ハ罰金ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス罰金ナル刑ノ本質ハ犯罪人ヲシテ財産上ヨリ苦痛ヲ與フル所ノ者ナルニモ拘ハラズ犯罪者ニシテ若シ罰金ヲ出スヲ欲セス輕禁錮ヲ受クルコトニ斷念スルキハ犯罪者ヲシテ財産上ノ苦痛ヲ感セシムルヲ得サルナリ蓋シ罰金ノ裁判確定シテ後三十日ヲ經過スレハ命令ヲ以テ當然輕禁錮ニ代ヘラルハテ以テ若シ三十日間納完ヲ遲怠スレハ則チ罰金ノ目的ハ消滅スト謂ハサル可カラサルナリ

又他ノ一面ヨリ論スルモ本條ハ罰金ノ目的ヲ達スルヲ得サル所ノ者



アリ凡ソ罰金ノ言渡確定スルモハ政府ハ犯罪人ニ對シテ債權ヲ生シ  
 犯罪人ハ政府ニ對シテ債務ヲ生スルコトハ敢テ通常民事上ノ契約ニ付  
 キ債權ヲ生シ債務ヲ生スル場合ニ異ルコトナシ故ニ債務者タル犯罪人  
 罰金ヲ納メスシテ死去スルモハ政府ハ直チニ相續人ニ對シテ其債權  
 ヲ主張シ罰金ヲ納メシムルコトヲ得ルハ理ノ當然ナリ然ルニ本條ニ據  
 ルモハ犯罪者ノ相續人ニ對シテ罰金ヲ徵收スルコトハ到底爲スヘカラ  
 サルコトナリ何トナレハ本條ニ於テ罰金ヲ納完セザルハ禁錮ニ換フト  
 有ルニ依リ犯罪者死去セサル時ハ輕禁錮ニ換ヘタルヤモ知ル可カラ  
 サルヲ以テ直チニ相續人ニ罰金ヲ科スルコトヲ得ヘカラサレハナリ況  
 ヤ相續人納完セサレハトテ罪ヲ犯サ、リシ者ヲ禁錮ニ處スルノ理ナ  
 キニ於テチヤ

第二 本條ハ犯罪者ニ二刑擇一ハ權ヲ賦與スル者ニシテ實ニ刑法ハ尊

嚴テ缺ク者ナリ二刑擇一ヲ許可シタル刑法ハ歐米各國ニ於テモ亦之  
 チ見ルコト有リト雖モ是レ正理ニ合スル者ニ非サルナリ夫レ社會ノ犯  
 罪人ヲ罰スルヤ犯罪者ニ苦痛ヲ與フルニ在リ然ルニ二刑ノ中ニ就キテ  
 一ヲ擇フコトヲ許可スルモハ犯罪者ハ必ス苦痛ノ最モ少キ刑ヲ擇フヘシ  
 罪其物カ實際重キニモ拘ハラス苦痛ノ少キ刑ヲ科スルモハ刑ノ効甚  
 タ薄弱ナリト謂ハサル可カラス効ノ薄弱ナルヲ知リツ、之ヲ科スル  
 ハ刑法ノ尊嚴ヲ欠ク者ニ非スシテ何ソヤ且之ヲ實際ニ徵スルニ貧困  
 ニシテ而カモ廉耻ヲ知ラサル犯罪者ハ必ス思惟スヘシ我儕一日勞働  
 スルモ一圓ヲ得難シ而シテ禁錮ニ換ヘラル、時ハ二日ノ輕禁錮ハ能  
 ク一圓ノ利益ニ相當シ生命ハ之ヲ繋クコトヲ得ヘク衣食ハ之ヲ買フコ  
 トヲ得ヘク實ニ罰金ヲ納メテ苦マシヨリハ輕禁錮ヲ受クルニ若カサル  
 ナリト此ノ如ク犯罪者ヲ覺悟セシメ入獄セシムルハ必然免ルヘカラサ



ルノ弊ナリトス殊ニ輕禁錮ニハ服役ノ制ナキニヨリ殆ト獄舎ハ窮民ノ救有所ノ觀ヲ呈スヘシ草案ニハ「使役ニ服セサル單一ノ入牢ニ換ヘラル、ヲ得」ト有リ是故ニ裁判官ニ於テ資産アル犯罪者ナリト認ムル時ハ輕禁錮ニ換フルヲ無ク罰金ヲ徵收スヘク若シ應セサル時ハ身代限ノ處分ヲ爲シ飽クマテモ徵收スルヲ得ヘシ又無資力ノ犯罪者ト認ムルトハ之ヲ輕禁錮ニ換フルヲ無ク或ハ漸次ニ返納スルヲ許ス等ノ處分ヲ爲スヲ得サルニ非ス其定ムル所之ヲ現行刑法ニ比スレハ優ルヲ數等ナリト謂フヘシ然レモ近來司法省ニ於テハ第二十七條ノ解釋ヲ一變シタリト聞ク曰ク本條第一項ハ二个月内ニ罰金ヲ納完セサル者ハ輕禁錮ニ換フ「ト有ル」ニ因リ罰金ヲ納完セサル者ハ必ス禁錮ニ換ヘラル、カ如シト雖モ第二項ニ於テ「檢事ノ求メ」ニ因リ「ト有ル」ヲ以テ其求ムルト求メサルトハ檢事ノ掌裡ニ存スト謂ハサル可カラ

ス即チ其法文ハ檢事ノ求メ有リタル時ニ限リテ裁判官之ニ禁錮ヲ科スト云フ「ト」ニ解釋セサル可カラスト故ニ實際上ノ手續ハ之ヲ如何ニスヘキカト云フニ檢事ハ此犯者ハ資産アルニモ拘ハラス故意ニ納完セサル者ト認定スル時ハ民事ノ手續ニ因リ犯者ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ納完セシメ尙ホ納完セサル時ハ身代限ヲ爲シテ納完ヒシム若シ又檢事ニ於テ幾分カ之ヲ納メ得ル者ト認定スルハ其幾分ヲ納メシメ殘額ニ就キテ「ノ」ミ一圓一日ノ比ニテ禁錮ニ換フルヲテ請求シ而シテ到底完納シ難キ無資力者ナレハ直チニ禁錮ニ換ヘン「ト」テ請求シ裁判官之ヲ命スル「ト」爲レリト云フ以上本條第二項ノ解釋ハ或ハ強ヒテ法文ヲ解釋シタルニ非サル無キヤノ疑團アリト雖モ兎ニ角此解釋ヲシテ實行セシムル時ハ予カ是迄本條ヲ駁撃シタル第一、第二ノ場合ハ殆ト消滅シタル者ノ如シ然リト雖モ此解釋アリトスルモ政府カ罰金



不納者ノ相續人ニ對シテ債主權ヲ主張スルコトヲ得スト云フ不都合ハ依然トシテ存在スルモノト謂フヘシ

第三 本條第一項ニ據レハ若シ犯者三十日ノ期限ヲ經過スレハ必ス禁錮ニ換ヘラル、ナリ即チ期限終盡ノ當時ニ於テ金錢ヲ所持セザレハ當然禁錮ニ換ヘラル、者トス此規定ハ果シテ實際ヲ穿テタル者ニ非ス凡ソ金錢ナル者ハ其性質上ヨリシテ此ニ在リト思ヘハ彼ニ在リ轉帳移動シテ常ニ人ノ手ニ存留スル者ニ非ス故ニ昨日マテ大金ヲ所持スト雖モ今日忽チ一錢ノ貯蓄モ無キニ至ルト固ヨリ珍シカラサル事ナリ反之假令今日毫厘ノ貯蓄ナキモ異日數千圓ノ收入ナキニ非ス勞役者ノ如キハ殆ト賃金ヲ得ル希望ヲ異日ニ屬スル者ナリ然ルニ此等ノ者カ期限ニ至リテ納メ難シトテ忽チ禁錮ニ換ヘラル、數日ノ猶豫ヲ得テ勞役セハ罰金ヲ納完スルニ足ラント陳述スルモ固ヨリ及フ所

ニ非ス其既ニ禁錮ニ換ヘラル、者若シ出獄シテ或ル職業ニ從事セハ一攫シテ巨額ノ金ヲ得ル望アリ之ヲ以テ罰金ニ充テント申述スルモ出獄ヲ許可セラル、コトナク必スヤ現金ヲ以テ納完スルニ非スンハ禁錮ヲ免ル、コト能ハス是レ實ニ人間ノ状態ニ適合セサル規定ト謂ハサル可カラサルナリ蓋シ納期ニ至リテ現存ノ所持金チキモ他日ノ收入アルト確實ナル以上ハ其期ヲ定メテ之ヲ猶豫スルカ或ハ入獄中ト雖モ出獄セハ必ス金ヲ獲ルノ目的確實ナル以上ハ其出獄ヲ許可セラル、コト得ハ官ニ於テハ犯人ヲ禁錮スルノ費用ヲ省キ犯者ニ於テハ勞働シテ利ヲ獲ルノミナラス又監禁ヲ免ル即チ官民共ニ相利シテ社會ノ經濟上ニ於テ影響ヲ及ホスト鮮少ナラサルナリ是故ニ新ニ法律ヲ設クルキハ此等便宜法ハ一ニ裁判官ノ意見ニ任セテ處分セシメサル可カラサルナリ



第四 本條ニ所謂罰金ヲ禁錮ニ換フルハ罰金ヲ納完セシムル強迫手段ノ爲メニ規定シタル者ナリヤ將タ罰金ノ代リニ別ニ禁錮ノ刑ヲ科スル者ナリヤ約言スルハ強迫手段カ將タ換刑主義カ我刑法ノ草按ヨリシテ其區別明瞭ナラサルナリ佛國刑法ノ如キハ明ニ罰金ヲ納完セサル者ノ處分法ヲ定ムト雖モ換刑ノ主義ニ出テタルニ非スシテ強迫ノ手段トシテ執行スルノミ然レモ獨逸刑法ノ如キハ純乎タル換刑ノ主義ヲ採用セリ我刑法モ行文上ヨリ解釋スレハ明ニ禁錮ニ換フト有レハ換刑主義ヲ採用シタルニ似タリ實ニ換刑ハ即チ換刑ナリト雖モ強迫手段トシテ換刑スル者ナリト謂フヘキナリ然ラハ即チ我刑法第二十七條ノ輕禁錮ハ特種ノ刑ト謂フヘキノミ若シ單純ナル換刑主義ヲ採用シテ普通ノ輕禁錮ヲ科シタル者トセンカ甚タ奇ナル結果ヲ生スヘシ例スルニ普通ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ其刑期間公權ヲ行フ

トテ停止スルカ故ニ本條ノ禁錮ニ處セラレタル者モ亦停止公權ヲ受クヘキカ罰金ノ刑ニハ固ヨリ停止公權ノ附加スヘキ理由ナキニモ拘ハラズ唯納完セスシテ禁錮ニ換ヘラレタルカ爲メニ忽チ停止公權ヲ受クントスルハ豈不條理ノ事ト謂ハサル可クシヤ又多クノ特別法ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ府縣會議員ト爲ルヲ得ストカ或ハ學校教師ト爲ルヲ得ストカ云フ制裁ヲ附スル者アリ今之ヲ以テ本條ノ禁錮ニ處セラレシ者ニ適用スルカ固ト資力ナクレハコソ禁錮ニ換ヘラレタリ若シ資力アル時ハ決シテ禁錮ニ處セラル、ト無シ然ルニ同一犯罪ニシテ資力ノ有無ニ因リ其受刑ノ結果ニ大差違ヲ生スルハ誰レカ奇ト稱セサランヤ之ヲ要スルニ本條ノ禁錮ハ一種特異ノ禁錮ニシテ其効果ハ罰金ト異ル所ナク即チ停止公權ノ附加刑ヲ受クルト無ク又特別法中ニ所謂禁錮以上ニ處セラレタル者云々ト云フ



制裁ヲモ受ケサル者ナリ、然ラハ本條ノ禁錮ヲ科セラレタル者ニハ假出獄ノ恩典ヲ與フヘキ者ナリヤ曰ク否理論上此ノ如ク決セサル可カラズ何トナレハ犯人ニ害アル結果ヲ生スルキハ普通ノ禁錮ト同一視セスシテ犯人ニ利アル結果ヲ生スル時ノミ同一視セントスルハ許スヘカラサルヲナレハナリ抑假出獄ハ獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル者ニ與フル制度ナリ本條ノ禁錮ハ固ヨリ此等ノ事ヲ生スル者ニ非ス其被刑者ハ固ヨリ普通ノ禁錮ニ處セラレタル者ノ如ク惡人ナルニ非ス故ニ獄則謹守ハ當然生スヘキ事ナリト雖モ改悛シテ善人ト爲ルト云フ事實ノ生スヘキコアルナシ何トナレハ犯人ヲ改悛セシムル爲メニ換刑シタルニ非スシテ罰金納完ヲ強迫スル爲メニ換刑シタル者ナレハナリ是ヲ以テ本條ノ禁錮ニハ假出獄ノ恩典ヲ與ヘスト論結セサル可カラズ

以上縷々本條ヲ駁シ去リ駁シ來リテ此ニ至レハ本條ノ不完全ニシテ困難ナル之ヲ理論ニ訴ヘ實際ニ徴スルモ決シテ批評ヲ免ル、コトヲ得ス蓋シ改正ヲ要スヘキ條文ト爲スヘキナリ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第二十八條第二十九條及ヒ第三十條ハ最モ簡明ナル條文ニシテ別ニ困難ナル疑問アルコト無シ依テ之ヲ合括シテ一言スヘシ

拘留及ヒ科料ハ共ニ違警罪ノ主刑ニシテ拘留ノ刑期ノ十日ニ終リ科料ノ金額ノ一圓九十五錢ニ限ルハ輕罪ノ主刑ニ於テ禁錮ハ十一日ニ始マリ罰金ハ二圓ニ始マルヲ以テ此レト區別ヲ爲サンカ爲メナリ、

(第二十八、九、三十條) 第一編 第二章 第二節 主刑處分 三一五



科料ハ之ヲ拘留ニ比較スレハ稍輕キニ失ス何トナレハ第三十條ニ據ルニ科料ヲ納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ拘留ニ換フルヲ以テ科料ヲ納完セサル者ハ單ニ二日ノ拘留ニ處セラルレハ則チ足ルヲ以テナリ故ニ科料ノ最多額ヲ拘留ノ十日ニ準シテ十圓位ニ増加シタラシムルハ或ハ其權衡ヲ得ン

### 第三節 附加刑處分

本節ハ附加刑ノ構成及ヒ執行方法ヲ規定シタル者ナリ然レハ處分ナル文辭ノ妥當ナラサルコトハ前節ニ於テ辯シタル所ニ同シ

本節ニ記載スル附加刑ハ剝奪公權停止公權監視禁治産罰金沒收ニシテ孰レモ權利ニ及ブノ刑ナリ以下各種ノ附加刑ニ就キテ解説スヘシ

#### 第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記賞賜恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラズ

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ合社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

### 剝奪公權

本條ハ「剝奪公權」ノ構成ヲ示シタル者ナリ剝奪公權ハ附加刑中尤モ重キ刑ニシテ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ科スル所ノ者ナリ  
剝奪公權トハ人ノ身分及ヒ能力ニ關スル公權ヲ奪フ附加刑ナリ故ニ剝奪公權ハ公權ヲ行フコトヲ得セシメサルニ非スシテ全ク之ヲ奪フ者ナリ何故ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテ此刑ヲ科スルカ抑重



罪ノ如キ重大ナル罪惡ヲ犯ス者ハ法律ニ於テ既ニ貴重ノ權利ヲ有ス  
 ヘキ資格ヲ喪失シタル者ト認ム即チ此ノ如キ犯人ハ唯自ラ國民タル  
 ノ地位ヲ辱メタルノミナラス自ラ貴重ナル公權ヲ行フヲ放棄シタ  
 ル者ト謂フヲ得ヘシ又此ノ如キ重大ナル罪ヲ犯シタル者ヲシテ公  
 權ヲ行フヲ得セシメハ忽チ之ヲ濫用シテ恐ル可キ結果ヲ醸成スル  
 ニ至リ其危險ナルコト實ニ想像ノ外ニ出ツル者アル可シ之ヲ要スルニ  
 重罪犯人ハ公權ヲ行フハ資格ヲ失ヒタルト公權ヲ行フキハ危險アル  
 トニヨリテ剝奪公權ナル刑ヲ定ムルニ至リタルナリ

剝奪公權ハ人ノ權利ヲ奪フ所ノ刑ナリ然レモ人ノ權利中ニ法律ヲ以  
 テ奪フヘカラサル者アリテ存ス凡ソ權利ニ二類アリ其一ハ天然ヨリ  
 得ル所ノ者ニシテ人生ト生滅ヲ共ニシ以テ人類ノ人類タル所以ヲ成  
 サシムル者即チ父母ノ權子孫ノ權ノ如キ是ナリ其二ハ同シク天然ヨ

剝奪公權  
ノ利害

リ得ル所ノ者ナリト雖モ社會ノ存在スルニ因テ其成跡ヲ現ハス者即  
 チ社會ノ組織ニ從ヒテ多少ノ伸縮ヲ爲ス者是ナリ即チ一ハ奪フヘカ  
 ラサル權利ニシテ二ハ法律上奪フヲ得ル者ナリ剝奪公權即チ是ナ  
 リトス

剝奪公權ハ第三十二條ノ明言スル如ク終身刑ナリ夫レ終身刑ナリ即  
 チ其終身刑ナルヨリシテ受クヘキ批難ハ決シテ免カルハ下ヲ得ス即  
 チ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑期中若クハ刑ヲ終ヘタル後ニ  
 於テ改悛ノ狀ヲ呈スルモノナキニ非ス既ニ改悛スト雖モ國民ノ特權  
 チ回復シ又ハ官吏トナリ兵員トナリ若クハ學校長トナルコトヲ得スシ  
 テ不具人ト異ル所ナキニ至ル此ノ如ク剝奪公權ハ犯者ノ爲メニ終身  
 社會ノ門戸ヲ開カサルヲ以テ犯者ハ終ニ自暴自棄ノ念ヲ生シ終ニ過  
 テ改メ善ニ遷ルコトナシ然レモ是レ單ニ剝奪公權其物ニ就キテ論シタ



ルノミ我刑法ニハ幸ニ復権ナル制度アリテ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過シタル後若クハ大赦等ニヨリテ公權ヲ回復スルコトヲ得ルコトナシタルヲ以テ無期徒流刑ニ假出獄若クハ免幽閉アルト同シク辛クシテ其弊害ノ幾分ヲ免除スルコトヲ得ヘシ又剝奪公權ハ不公平ハ甚シキ刑ト謂ハサル可カラサル者アリ先ツ婦女女子ハ此刑ヲ受クルモ受ケサルモ殆ト影響アルコトナシ何トナレハ婦女女子ハ撰擧權又ハ被撰擧權ヲ有スルコト無ク又兵員トナル等ノ事ナケレハナリ故ニ男女ノ間ニ於テ已ニ不公平ナリト謂ハサルヲ得ス而シテ又男女中ニ於テモ公權ヲ重ニスル者ト重ンセサル者ト有リテ其公權ヲ重ニスル者ニ對シテハ痛苦ヲ感スルコト施躰ノ刑ヲ受クルヨリモ甚シキ者アリト雖モ公權ノ重ニスヘキヲ知ラサル者ニ對シテハ毫モ痛苦ヲ感スルコト無カル可シ故ニ曰ク剝奪公權ハ不公平ノ甚キ刑ナリト又剝奪公權ハ分割スル

コトヲ得サル刑ト謂ハサル可ラス今重罪ヲ犯シタル者ニ對シテ此等ノ公權ヲ奪フノ必要ヲ生スルコトハ固ヨリ言テ待タスト雖モ犯者ノ種類ニヨリテ公權中奪フノ必要アル者ト無キ者ト有リ例ヘハ殺人罪ヲ犯シタル者ハ重罪ノ刑ニ處セラル、カ故ニ終身公權ヲ剝奪セラルト雖モ此等ノ人ニ對シテ分散者ノ管理人及ヒ後見人トナルノ權利ヲ奪フノ必要アリヤ否ヤ官吏ト爲ルノ權學校長ト爲ルノ權ノ如キハ之ヲ奪フノ必要アリト雖モ管理人後見人ト爲ルノ權ハ此ト同視ス可カラズ國事犯ヲ犯シタル者ニ對シテ國民ノ特權若クハ官吏ト爲ルノ權ヲ剝奪スルカ如キハ或ハ其當ヲ得ヘシト雖モ何故ニ裁判所ニ於テ證人トナルノ權ヲ奪フノ必要アリヤ一見スレハ剝奪公權ノ制度ハ諸種ノ公權ヲ奪ヒテ社會ノ危險ヲ未萌ニ豫防スルコトヲ得ル者ナンハ甚タ良制度ノ如シト雖モ公權ノ各種ニ就キテ之ヲ諦視スルトハ犯罪ノ種類



ニヨリテ剝奪スヘキ者ト然ラサル者ト有ルノミナラス之ヲ剝奪シテ却テ社會ノ害トナルコトアリ夫レ此等各種ノ公權ハ元來分割シ得ヘキ性質ヲ具有スル者ナルニモ拘ハラヌ強ヒテ之ヲ混淆シ一刑ト爲シタルニヨリ終ニ駁撃ヲ免カル、ト能ハサルニ至ル然リト雖モ我立法者ハ之ヲ混淆シテ規定シタルハ故ナキニ非ス若シ裁判官ニ此公權中ニ於テ奪フヘキ者ト奪フヘカラル者トヲ撰擇スルハ權利ヲ與フル者トセハ裁判官ニ與フル權利ノ莫大ニ失スルハミナラス紛雜淆亂ヲ來スノ憂アリ是ヲ以テ我立法者ハ之ヲ割クコトヲ爲サヌ混淆シテ規定セラレタルモノナラン然レモ立法者ハ思慮ハ終ニ予輩カ前ニ詳陳シタル弊ヲ救フニ足ラサルナリ然ラハ則チ剝奪公權ハ廢スヘキ者ナリヤ否ヤト云フニ此制度ヲ廢スルヨリ生スル不利益ハ決シテ之ヲ設クルヨリ生スル利益ノ莫大ナルニ及ハサルナリ其利益ノ莫大ナルトハ本

剝奪公權ノ九種類

條ノ初メニ掲ケタルヲ以テ茲ニ之ヲ復言セス  
以上剝奪公權ノ定解及ヒ利害ヲ述ヘタリ以下本條ニ列擧スル公權ノ種類ニ就キテ講究スルトト爲サン

本條ニハ剝奪スヘキ公權ヲ九種類ニ區別ス即チ左ノ如シ

第一 國民ノ特權

國民ノ特權トハ權利ノ性質ニヨリ又ハ法律ニヨリテ獨リ我國國民ノミ有スル所ノ權利ニシテ外國人ノ有スルコト能ハサル所ノ者ナリ故ニ特權ニ二種アリ曰ク性質上ノ特權及ヒ法律上ノ特權是ナリ性質上ノ特權トハ我國ノ政治上ニ參與スル所ノ權ニシテ例ヘハ府縣會議員衆議院議員ニ撰擧セラル、ノ權若クハ之ヲ撰擧スルノ權ノ如シ又他日陪審官ノ制度ヲ施行セラル、時ハ裁判上ノ陪審官又ハ公用土地買上ニ關スル陪審官トナルノ權ノ如キモ亦性質上國民ノ特權ナリトス法律



上ノ特權トハ法律アリテ始メテ定マル所ノ特權ニシテ例ヘハ代言人トナルノ權ノ如キ是ナリ代言人ハ民事ニ付キテハ國民ノ權利ヲ保護シ刑事ニ付キテハ裁判構成ノ一部ヲ成シ即チ被告人ノ利益ノ爲メニ辯護ヲ爲ス者ニシテ總テ法律ニヨリテ定メラレタル者ナリ

茲ニ一疑問アリ新聞記者ト爲ルハ權又ハ新聞發行ノ權ハ條例ヲ以テ特ニ國民ニ與フル所ノ者ナレハ剝奪セラル可キ公權ナリヤ否ヤ即チ法律上ハ國民ハ特權ト爲ストテ得ヘキヤ否ヤ予ハ斷シテ國民ノ特權ニ非スト言ハントス何トナレハ此等ハ所謂私權ナレハナリ蓋シ新聞記者ノ如キハ公議輿論ノ耳目トナリ手足トナルヲ以テ本分トスル者ナルカ故ニ公事ニ干預スト云フ可ク即チ公權ト稱スルヲ得ヘキカ如シト雖モ記者トナルノ權若クハ發行ノ權其物ニ就キテ之ヲ考フレハ私權ニシテ彼ノ出版權等ト異ル所ナシ條例ニ於テ國字新聞ノ記者

及ヒ發行人ハ日本人ニ非サレハ之ヲ許可セスト明言スルモ條例ヲ以テ公權ヲ剝奪セラレタル者ハ國字新聞記者并ニ發行人トナルヲ得スト特定セラルレハ格別尙クモ然ラサル以上ハ記者トナルノ權又ハ發行權ハ公權ト謂フヘカラサルナリ或ハ以爲ク外國人ニ許サスシテ獨リ日本人ニ與フル權ハ公權ナリ即チ國民ノ特權ナリト是レ必スシモ然リトノミ謂フヘカラサルナリ予惟フニ法律ノ頒布益増加スルニ從ヒテ獨リ日本人ニノミ與ヘテ外國人ニ與ヘサルノ權利益増加スヘク現ニ今日ニ在リテモ數多アリ例ヘハ外國人ハ日本ニ於テ土地ヲ所有スルヲ得ス又外國人ハ特許ヲ得サレハ日本内地ヲ通行スルヲ得ス此等ノ所有權又ハ通行權ハ純然タル私權ナリ假令日本人ノ特有ト爲スモ以テ公權ト稱スヘカラス故ニ剝奪公權ニ處セラル、者ト雖モ土地所有權若クハ土地通行權ヲ奪ハル、ト無カル可シ此ト同シク



記者ト爲ルノ權又ハ發行權ノ如キモ私權ニ屬シ公權ト云フヘカラサ  
 レハ剝奪公權ノ中ニ包含セラレサルナリ由是觀之國民ノ特權トハ外  
 國人ニ與ヘサル所ノ權利ノミテ云フ者ナレモ外國人ニ與ヘサル所ノ  
 權利ハ公權即チ國民ノ特權ナリト云フヘカラサルナリ

第二 官吏ト爲ルノ權

此ニ「官吏ト爲ルノ權」トアレモ官吏ト爲リ得ルハ權利ニ非ス法律語ヲ  
 以テ之ヲ表セハ官吏ト爲ルハ能カト云フヲ以テ至當ト爲ス何トナレ  
 ハ凡ソ權利ト云ハソニハ直チニ自ラ執行スルコトヲ得ル者ナラサル可  
 カラサルニ官吏ハ自ラ任命セラレントスルモ能ハサル所ナレハナリ、  
 重罪ニ處セラレタル者ニ對シテ官吏ト爲ルノ權ヲ剝奪スルハ甚ク  
 至當ノ事ト謂フヘシ故ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ官吏トナルコ  
 トヲ得サルノミナラス假令任命セラレタル時ニテモ之ニ任スルコトヲ得

サル可シ其現任ノ官職ヲ剝奪セラレ、ハ言ヲ待タサルナリ

官吏ハ官等ノ高下俸給ノ多少コソ有レ孰レモ政治ニ關スル者ナレハ  
 官吏ト爲ルノ權即チ能力ハ之ヲ國民ノ特權ノ中ニ包含セシムヘキ者  
 ノ如シト雖モ彼ト此トハ決シテ同一視スルコトヲ得ス國民ノ特權ハ假  
 令日本國人ナルモ老少男女ノ別ナク之ヲ有スルコトヲ得スト雖モ官吏  
 ト爲ルノ能力ハ老少男女ヲ區別セス故ニ丁年未丁年ノ別ナク官吏ト  
 ナルコト有リ婦女ニシテ女官トナリ教員トナル者アリ又國民ノ特權ハ  
 法律ニヨリテ自ラ之ヲ執行スルコトヲ得ヘシト雖モ官吏ト爲ルノ權ハ  
 法律ニ因ルトハイヘ之ヲ任免スルハ一ニ政府ノ手ニ在リ又國民ノ特  
 權ト云ハソニハ外國人ニ許容スルコト無クモ官吏ト爲ルノ權ハ外國  
 人ト日本人トヲ問ハサルカ如シ現ニ我國ニテハ多ク外國人ヲ雇入ル  
 ヲモ官吏トハ爲サ、レモ我國ノ囑托領事ハ果シテ官吏ニ非サルカ囑



托領事トハ我國ト交渉ノ頻繁ナラサル外國ニ領事ヲ置クニ當リテ其國人ニ囑托シテ日本領事ノ任ヲ掌ラシムル者ヲ云フ此領事ハ日本ニ於テコソ官吏ト爲サ、レ外國政府ニ對シテハ純然タル日本國政府ノ官吏ニ非スヤ況ヤ草案ニハ政府ノ官吏及ヒ公クノ使用者云々ト記載アリタルニ因リ若シ現行刑法ハ草案ノ意ヲ變改セサル者ト爲スハ政府ニ雇入レラレタル外國人ヲモ含蓄スルコトヲ知ルニ足ルニ於テチヤ以上ノ解説ニヨレハ國民ノ特權ノ中ニハ官吏ト爲ルノ權ヲ包含セラレサルコトヲ知ルニ足レリ而シテ我立法者ノ之ヲ別項ニ規定シタルハ甚タ至當ノ事ト謂フヘシ

官吏トハ如何ナル者ノ名稱ナリヤ個ハ官制中ニ規定スル職ヲ帶ハル者ヲ謂フ因リテ茲ニ之ヲ詳言セス

第三 勳章、年金、位記、賞號、恩給ヲ有スルノ權

勳章、年金等ハ人ノ榮譽ヲ賞スル爲メニ政府ヨリ賦與スル所ノ者ナレハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ノ如ク自ラ其權利ヲ毀損シ汚辱シタル者ニ對シテ之ヲ有セシムルノ必要ナシ是レ此等ノ公權ヲ剝奪スル所以ナリ

勳章ヲ剝奪スル實際ノ手續ヲ見ルニ其勳狀若クハ賞牌ヲ奪收スルコト爲セリ此實際ノ手續ハ理論ニ適合セサル所ノ者アルヲ見ル予ノ思惟スル所ニテハ賞牌、勳狀其物ハ必スシモ奪收スルヲ要セス蓋シ勳狀ト云ヒ賞牌ト云ヒ其種類形狀ノ如何ヲ問ハス已ニ政府ヨリ人民ニ附與シタル物件ナレハ其人ハ其物件ニ付キ所有權ヲ有ス所有權ヲ有スル物件ハ妄リニ奪收スルコトヲ得ス假令其物件ハ奪收セラル、モ所有權ハ爲メニ消滅シタリト謂フヘカラス法律ノ所謂勳章ヲ有スル權ヲ剝奪スルトハ實際ノ手續ノ如ク有形的ニ賞牌、勳狀ヲ奪收スルノ謂ヒ



ニ非スシテ無形的ニ之ヲ所有スル權利ヲ剝奪スルヲ云フナリ若シ然  
 ラスシテ必ス其物件ヲ奪收セスノハ已マスト爲スルハ奇怪ナル結果  
 ヲ生スヘシ今被刑者ニ於テ幸ニ其賞牌等ヲ差出セハ則チ事茲ニ了ル  
 ヘシト雖モ若シ之ヲ差出スコトヲ肯セサルハ執行官吏ノ手ヲ假リテ  
 之ヲ奪收セサル可カラス然レモ被刑者ニ於テ之ヲ隱匿シテ差出サ、  
 ル時刑法ハ如何シテ奪收スヘキヤ或ハ之ニ對シテ如何ナル制裁アル  
 カ刑事上ニ在リテ勳章ヲ差出サ、ルモ法律上別ニ制裁アルヲ見ス制  
 裁ナキノ處分ヲ施行スルモ將タ何ノ益カアル故ニ曰ク勳章ノ剝奪ハ  
 無形的ニ之ヲ所有スル權利ヲ剝奪スル者ナリト然レモ是レ只予ノ私  
 見ノミ其當否ハ諸君ノ判定ニ任ス

「年金」ニハ種々アリテ勳章ニ附帶シテ給與セラル、有リ又ハ單ニ功勞  
 ノ報酬トシテ給與セラル、有リ其勳章ニ附帶シタル年金ハ既ニ勳章

ヲ有スルノ權ヲ剝奪セラルハ此ト同時ニ其年金モ亦剝奪セラル、  
 者ナリ然レモ單ニ功勞ノ報酬タル年金ハ假令重罪ノ刑ニ處セラル、  
 モ爲メニ剝奪セラル、ノ限リニ在ラサル可シ何トナレハ此等ノ年金  
 ハ功勞ハ報酬トシテ給與セラレタル者ニシテ榮譽ノ爲メニ給與セラ  
 レタル者ニ非サレハナリ草按ニハ年金ヲ有スル權ヲ剝奪スルト云フ  
 コハ之ヲ記載セラレサリシ蓋シ大ニ見ル所アリテ然ル者ナラシカ  
 「位記」トハ正一位從一位ト云フカ如キ位階ヲ謂フナリ

「貴號」トハ皇族華族士族ナル稱號ヲ謂フ貴號ノ剝奪ハ舊法ノ所謂除族  
 ト其規定ノ精神ヲ同フス改定律例第十四條ニハ本犯一人ヲ除シ族ハ  
 子孫ニ襲カシムト有リ現行刑法ニ於テモ亦戶主ハ貴號ヲ剝奪セラル  
 、モ子孫ハ依然トシテ貴號ヲ用井ルコトヲ得ルナリ然レモ所謂貴號ナ  
 ル者ハ戶主ニ與ヘタルモノナリヤ或ハ一家族ニ與ヘタル者ナリヤ若



シ之ヲ戸主ニ與ヘタル者ト爲スルハ戸主ニ於テ重罪ノ刑ニ處セラル  
 レハ其子孫ニ至ルマテ貴號ヲ用非ルヲ得サル可シ予ハ之ヲ一家族  
 ニ與ヘタル者ト爲スノミナラス刑ノ性質ヨリ論スルモ斯ク斷言セザ  
 ル可カラス夫レ刑ノ一身ニ止マラサル可カラサルハ動カスヘカラサ  
 ル原則ナリ然レハ戸主ノ犯罪ノ爲メニ無罪ナル同族ニ至ルマテ刑ヲ  
 受クルヲハ決シテ之ナキノ理ナリ且之ヲ草案ニ徵スルニ佛文草案第  
 三十九條ニ「剝奪公權ハ被刑者ニ對シテ左ノ數件ヲ生ス」云々トアルヲ  
 以テ益明了ナリトス但シ斯ク斷言スル時ハ家族ハ士族若クハ華族タ  
 ルニ拘ハラズ戸主ノミ平民ナルヲ有リ又妻ハ華族ニシテ夫ノ平民ナ  
 ルヲ有ルカ如キ奇ナル結果ヲ生スヘシト雖モ此等ノ理由ヲ以テ刑法  
 ノ精神ヲ變更スヘカラサルナリ茲ニ又奇ナル結果ヲ生スト云フハ華  
 士族ノ貴號ヲ剝奪スレハ常ニ平民ト爲ルカ故ニ日本人民ノ大部分ヲ

占ムル平民ハ常ニ犯罪者ノ觀ヲ呈スルニ至ル實ニ不穩當ノ極ト謂ハ  
 サル可カラズ然レモ是レ皮想ノ見ニ過キス平民ナル名稱ハ日本人民  
 ノ普通名稱ニシテ華族ト云ヒ士族ト云フハ榮譽ノ爲メニ特ニ附與セ  
 ラレタル者ナレハ之ヲ剝奪スルハ其榮譽ノ點ノミ奪フモノニシテ其  
 平民トナルハ本ニ反リタル者ナレハ敢テ奇ト爲スヘカラサルナリ  
 「恩給」トハ恩典ヲ以テ官ヨリ下賜セラル、金ヲ云フ詳細ハ恩給例ニ規  
 定セラレタリ

第四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

外國ノ勳章ハ我政府ノ與ヘタル者ニ非スシテ外國政府ヨリ與ヘタル  
 所ノ者トス故ニ其勳章ヲ有スルノ權利ハ之ヲ剝奪スルヲ得サルナ  
 リ然レモ外國勳章ヲ佩用スルノ權ハ我政府ノ與ヘタル者ナレハ此佩  
 用ノ權利ハ之ヲ剝奪スルヲ得ル者ナリ是レ我政府ヨリ與ヘタル勳



章ト外國ヨリ贈リタル勳章ト其剝奪ノ點ニ於テ差違アル所ナリトス  
第五 兵籍ニ入ルノ權

人民ノ兵籍ニ入ルハ本ト國民タル者ノ必ス服スヘキ一箇ノ義務ニシ  
テ之ヲ權利ト謂フハ殆ト不可ナルカ如シト雖モ自己ノ國ヲ保護シ防  
衛スルハ其權利ト謂フモ取テ不可ナルナシ然レモ權利ト謂ハノヨリ  
ハ能力ト謂フテ以テ最モ至當トテス何トナレハ人民ニ於テ自ラ兵籍  
ニ入ラント欲スルモ必ス入ルヲ得ヘキ者ニ非サレハナリ、何故ニ  
兵籍ニ入ルノ權ヲ剝奪スルカ兵事ハ重大ナル者ニシテ之ニ入籍シテ  
身國家ノ干城トナルハ實ニ國民タル者ノ榮譽トスル所ナリ故ニ之ヲ  
剝奪スルモノトス

第六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但シ單ニ事實ヲ陳述スルハ此限  
ニ在ラス

裁判所ニ於テ證人ト爲ルヲモ亦權利ト謂ハノヨリハ寧ロ義務ト謂フ  
ヲ以テ至當ト爲ス刑法ハ何故ニ此權利ヲ剝奪スルカ是レ立法上學理  
上共ニ議論ノ存スル問題ナリトス夫レ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ  
自ラ信用ヲ棄テ社會モ亦之ヲ信用セサル所ノ者ナレハ假令證人トナ  
リテ認廷ニ出ツルモ其證言スル所ノハ虛偽誣罔ニ屬シ爲メニ有罪  
刑ヲ免レ無辜罪ニ陥ルカ如キ大ナル結果ヲ生スルノ恐ナキニ非ス是  
レ此權ヲ剝奪スル理由ナリト論スル者アリ之ヲ駁撃スル者曰ク刑餘  
ノ人ノ言ハ悉ク信スヘカラサル歟通常人ノ言ハ悉ク信スヘキ歟偽證  
罪ヲ犯ス者ハ必スシモ刑餘ノ人ニ限ラサルナリ證言ノ信偽ハ固ヨリ  
其人ニ存スル者ニシテ之ヲ概論スヘキニ非ス且裁判官ノ罪ヲ斷スル  
ニ當リテハ事實參考人ノ陳述シタル者ト雖モ甚タ信用スヘキ者アル  
トハ探テ以テ心證ヲ構成スルノ材料ト爲シ得ル者ナリ是ヲ以テ當初



ヨリシテ人ニ因リテ陳述ヲ排除スル者ト否ラサル者トテ一定スルハ  
 殆ト無用ト謂ハサル可カラサルナリト是レ大ニ至當ナル理由ト謂フ  
 ヘシ尙ホ又説ヲ爲シテ曰フ者アリ裁判所ハ人ノ是非曲直ヲ判別シ權  
 利ノ伸張ヲ保護スル最モ公明正大ナル場所ナリ已ニ罪ヲ社會ニ得タ  
 ル刑餘ノ人ヲシテ此公明正大ナル場所ニ參加セシメテ是非ヲ辨シ權  
 利ヲ保護スル時ハ裁判ノ尊嚴ヲ墮スコト少カラス裁判ノ尊嚴ヲ墮スハ  
 主權ノ尊嚴ヲ墮スモノナリ故ニ證人ト爲ルノ權ハ之ヲ剝奪スルヲ以  
 テ最モ至當ト爲スト然レモ裁判ノ尊嚴ヲ維持セシメカ爲メニ裁判ニ必  
 要ナル者ヲ排除スヘキニ非ス夫レ真正ナル裁判ヲ爲サシニハ確實ナ  
 ル證據ナカル可カラズ確實ノ證據ハ罪人ヨリ來ルモ又通常人ヨリ來  
 ルモ其確實ノ證據ナルニ至リテハ即チ一ナリ小威嚴ノ墮ツルヲ慥ミ  
 テ大利益ヲ得ルコト禁スルハ策ノ得タル者ト謂フヘカラサルナリバ

ノターム氏放言シテ曰ク法律ハ一犯人ニ一疵ヲ與フルカ爲メニ劊ヲ  
 以テ一不幸ノ身軀ヲ貫ク一個ノ處罰方法アリ裁判所ニ於テ證人ト爲  
 ルハ權利ヲ剝奪スル刑即チ是ナリト盡セル哉言ヤ

以上ハ立法上ヨリ觀察シテ其是非ヲ論シタル者ナリ今又之ヲ實際ニ  
 徴スレハ甚タ奇ナル結果ヲ生ス刑法第二百十八條第二百二十條第二  
 百二十二條等ニ規定スル僞證罪ハ證人タルノ資格ヲ以テ罰セラル、  
 所ノ罪ナリ然ルニ公權ヲ剝奪セラレタル者ハ裁判所ニ於テ證人ト爲  
 ルノ權ヲ失フカ故ニ事實參考ノ爲メ陳述ヲ爲スコト有ルモ證人ニ非ス  
 已ニ證人ニ非サルカ故ニ此等數條ノ適用ヲ免ル然ラハ則チ前ニ罪ヲ  
 犯シタルカ爲メニ新タニ惡事ヲ爲スモ其刑ヲ免ル、ニ非スヤ實ニ奇  
 ナル結果ヲ生スルモノト謂ハサル可カラサルナリ  
 此ノ如ク裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權ヲ剝奪スル制度ハ理論上ヨリ



論スルモ實際上ヨリ觀ルモ至當ノ制度ト謂フヲ得ス故ニ之ヲ解釋スルニ當リテハ最モ謹慎ヲ加ヘテ其範圍ヲ擴張セザランコトヲ力メサル可カラサルナリ

第七 後見人ト爲ルノ權但シ親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

後見人ナル者ハ無能力者ヲ監督スル者ナレハ最モ善良潔白ナル人ニ非サレハ之ニ任スヘカラサルナリ重罪ノ刑ニ處セラレタルカ如キ殘忍兇惡ナル者ヲシテ後見人ヲラシメシメカ無能力者ヲ不良ノ境ニ誘致シ其財産ヲ亡失スルカ如キ危險ナシト謂フヘカラス是レ此制度アル所以ナリ

ハハ後見人ト爲ルハ果シテ公權ナリヤ或ハ之ヲ私權ト爲シテ不可ナルナキカ此點ニ付キテハ疑ヒ無クシテハアラス今或親屬カ幼者ノ爲メ

ニ後見人ト爲リ或ハ父カ子ノ爲メニ後見人ト爲ルハ私權ナルカ如シ然レモ是レ私權ト謂フヘカラサルナリ夫レ幼者ナリ瘋癲者ナリ皆社會ニ於テ最モ憫諒スヘキ位地ニ在ル者ナレハ社會ハ之ニ對シテ充分ナル保護ヲ與ヘサル可カラズ若シ此等ノ者ニ後見人ナク若クハ保管人ナク孤立特存スルキハ社會ハ必ス自ラ之ヲ救助セサル可カラズ是ニ由リテ之ヲ觀レハ後見人ト爲ルハ一私人ノ權利ニ非スシテ公衆ノ爲メニ爲ス所ノ權利ナリ是ヲ以テ後見人トナルハ私權ニ非スシテ公權ト爲ス

公權ヲ剝奪セラレタル者ハ後見人ト爲ルノ權ヲ剝奪セラルハト雖モ子孫ノ爲メニシテ且親屬ノ許可アリタルモハ後見人ト爲ルコトヲ得蓋シ若シ之ヲ禁スル時ハ犯者ヲ罰セント欲シテ不幸ノ子孫ヲ害スルニ至ルヲ以テナリ



第八 分散者ノ管財人トナリ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權  
 分散者ノ管財人又ハ共有財産ヲ管理スル者ハ最モ多クノ財産ヲ支配  
 スル所ノモノナレハ社會ニ信用アル者ニ非サレハ之ニ任セシムル  
 甚タ危險ナリ是レ此等ノ權ヲ剝奪スル所以ナリトス茲ニ注意スヘキ  
 ハ共有財産ノ文辭是ナリ共有財産トハ數人結合シテ有スル所ノ財産  
 ナ謂フ例ヘハ二人三人相協同シテ一箇ノ土地ヲ買ヒタル時ハ此土地ニ  
 付キテハ各人悉ク所有權ヲ有ス即チ共有財産ナリ故ニ單ニ條文ニ依  
 リテ解釋スルキハ此例ニ於テ其土地ヲ管理スヘキ一人ニ委任シ  
 タルニ其人一朝剝奪公權ニ處セラルンハ其管理權ヲ剝奪セラル、者  
 ノ如シ然レモ此等ノ共有財産ノ管理權ハ剝奪セラル、ノ限リニ在ラ  
 サル可シ被刑者ト雖モ他ノ共有人之ヲ信用シテ其財産ヲ管理セシム  
 ルニ於テハ法律ハ何ノ必要アリテ之ニ干渉シテ其權利ヲ剝奪スヘキ

ヤ然レハ所謂共有財産トハ前例ノ如キ普通ニ呼稱スル共有財産即チ  
 佛語ノ「コ、プロプリエテ」ニ非スシテ「アンテレ」コソクチ「フ」即チ近  
 時ノ譯語ニ財團ト稱スル者ニシテ彼ノ私立衛生會ノ如キ集合體ニハ  
 會員ノ出資又ハ寄附等ニヨリテ多少ノ財産ヲ有スル、有リ其財産即  
 チ是ナリ然ラハ所謂財團ト共有財産トコソクチ「フ」ハ如何ナル差違アリヤ共有財  
 産ノ所有權ハ共有人ニ歸シ之ヲ處分スルヲ得ルヲ本質トナスト雖モ  
 財團ハ則チ然ラス所有權ハ會員ニ歸スルニ非ス故ニ又之ヲ處分スル  
 ヲ得ス之ヲ處分スルヲ得ル者ハ會ナル集合體是ナリ之ヲ其區別ト  
 ナス故ニ此ニ所謂共有財産ハ財團ノ「フ」ニシテ此種ノ財産ヲ管理スル  
 ノ權ニアラサレハ剝奪セラレサルナリ

第九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

所謂學校長「教師」等ハ必スシモ官立私立ノ學校ノ職員タルヲ必要トセ



ス私立學校校長、教師又ハ學監ヲモ合蓄スル者トス。此權ヲ剝奪スルノ旨趣ハ略第七等ト相同シケレハ茲ニ詳解スルヲ省ク。以上掲載シタル九種ノ公權ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ剝奪シテ容易ニ回復スルコトヲ得セシメス然レモ固ト無形ノ權利ノ剝奪ニ過キサレハ之ヲ犯スト實ニ易々タリ乃チ私カニ九種中ノ權ヲ行フ時ハ如何ナル制裁アリヤ曰ク刑法第百五十四條ヲ以テ之ヲ處分ス可シ。

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

本條ハ已ニ前條ノ解説ニ於テ略其要領ヲ知ラレタルナラン即チ剝奪公權ハ重罪ノ刑ニ附加スル者ニシテ之ヲ科スルニハ別ニ宣告ヲ用弗ス法律上ヨリシテ當然終身公權ヲ剝奪セラル、ナリ此ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ト有ルニ因リ重罪ヲ犯スモ減輕セラレテ輕罪ノ刑ニ

處セラレタル者ニハ剝奪公權ヲ附加スルノ限ニ在ラサルナリ。死刑ハ重罪ノ刑ナリ乃チ死刑ニ處セラレタル者ハ剝奪公權ハ刑ヲ附加セラル、ハ歟死刑ハ生命ヲ奪フノ刑ニシテ犯者ヲシテ此世ニ存在セシムルコト無ラシムルモノナレハ之ニ對シテ公權ヲ剝奪スルモ剝奪セサルモ何等ノ影響アルコト無ク且終身ノ文辭ヨリ推究スルモ無期徒刑以下ノ刑ヲ想像シタルカ如ク隨ヒテ死刑ニ處セラレタル者ハ剝奪公權ノ刑ヲ附加セラル、コト無キカ如シ是レ大ナル誤謬ノ見ナリ予曰ク剝奪公權ハ他ノ刑ニ於ケルト同シク死刑ニ付キテモ亦附加刑ナリト夫レ死刑ニ處セラレハ生命ヲ絶ツテ以テ權利ノ有無ハ復タ問フコトヲ要セサルカ如シト雖モ死刑ノ宣告確定スルモ直チニ執行スルニ非ス刑事訴訟法第三百十八條ニ據ルニ死刑ノ言渡確定スルモ司法大臣ヨリ死刑ヲ執行スヘキ命令アルニ非サレハ之ヲ執行スルコト得ス故



ニ裁判確定ヨリ執行ニ至ルマテノ日數甚々長キニ涉ルコト有リ又ハ大臣ノ命令アルモ其執行ヲ遁ルコト有リ又ハ刑ノ期滿免除ヲ得ルコト有リ若シ此間公權ヲ執行スルヲ得ル者トセハ實ニ奇怪ト謂ハサル可カラス無期刑以下ノ刑ノ死刑ヨリ輕キハ言テ待タサル所ナルニ無期刑以下ニ對シテハ公權ヲ剝奪シ死刑ニ就キテハ公權ヲ剝奪セスト云フハ實ニ矛盾ノ事ト謂ハサル可カラス所謂終身ノ文辭ハ唯無期ノ意ヲ表彰シタルニ過キスシテ之ヲ以テ無期刑以下ノ刑ヲ想像シタル者ニ非サルナリ實ニ彼ヨリ論シ此ヨリ推スモ死刑モ亦重罪ノ刑云々ノ文辭中ニ包含セラレタルコトヲ知り得ヘシ

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

本條ハ輕罪ノ刑タル禁錮ニ處セラレタル者ニ附加スル刑即チ停止公權ノ期限ヲ規定シタル條文ナリトス

停止公權

停止公權  
ノ性質

所謂公權ヲ停止ストハ如何ナル公權ナリヤ曰ク第三十一條ニ列舉スル所ノ公權ヲ云フナリ果シテ然ラハ本條ニ於テ特ニ現任ノ官職ヲ失ヒタル文辭ヲ挿入スルノ必要ナキカ如シト雖モ敢テ斯ノ如ク速了スヘカラサルナリ抑停止公權ハ單ニ主刑ノ刑期間ノミ公權ヲ停止シ主刑ノ刑期ヲ執行シ終レハ當然其停止ノ消滅ニ歸スル者ナリ之ニ反シテ現任ノ官職ハ一旦之ヲ罷免セラレハ刑期已ニ終ルト雖モ再ヒ之ニ任セラルコト無シ是レ此ニ之ヲ特書シタル所以ナリ

停止公權ハ刑期間公權ノ執行ヲ禁止スル者ナリヤ或ハ刑期間公權其物ヲ剝奪スル者ナリヤ此疑問ヲ決スル如何ニヨリテ其結果ニ大ナル差違ヲ生スルコト有リ今法文上ヨリ觀察スレハ公權ヲ行フコトヲ云々トアルニヨリ又ハ停止ストアルニヨリ疑ヒモ無ク公權ノ執行ヲ禁止スル者ノ如シ予モ亦曾テ停止公權ハ公權ノ執行ヲ禁止スル者ト思考セシ



三十三條  
第一編 第二章 第三節 附加刑處分

カ爾來之ヲ理論ト實際トニ徴シテ其然ラサルヲ發見セリ即チ停止  
 公權トハ剝奪公權ト同シク全ク各種ノ公權ヲ剝奪スルヲニシテ其異  
 ナル所ハ彼ハ終身刑ニシテ此ハ有期刑ナル一點ニ在リトス  
 抑停止公權ハ第三十一條ニ規定セル各種ノ公權ヲ剝奪スル者ナル  
 ハ更ニ疑ナシト雖モ只第三項ノ權即チ勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有ス  
 ルノ權ニ就キテハ聊カ疑ナクンハアラス今勳章、位記、貴號ヲ停止スル  
 實際ノ手續ヲ見ルニ犯人ハ停止間ノミ華士族ト稱シ勳何等ト唱フル  
 ヲ得サル者ノ如ク即チ其主刑期限間ハ平民トナリテ期限後ハ再ヒ  
 華族又ハ士族ト稱スル者ノ如シ榮譽ノ稱號ヲ有スル人ニシテ忽チ之  
 ヲ褫ハレテ復忽チ之ヲ得ルハ甚タ奇怪ナルヲナラスヤ故ニ草案ハ第  
 三項ノ權ハ停止ノ限ニ在ラスト明言セリ然レモ現行刑法ニ於テハ草  
 案ノ如ク例外ヲ設ケサルヲ以テ或ハ現行刑法ハ草案ト異ルヲ無シト

言フコトヲ得スト雖モ實際上草案ト同シク施行スルモ敢テ差支ナカラ  
 シカ故ニ予ハ以爲ク停止公權ニ處セラレタル者ニシテ勳章、位記、貴號  
 ヲ有スル者ハ唯其禮遇セラレハハ榮譽ヲ失ハシムルハミニテ足リ  
 何ソ忽チ奪フテ忽チ與フルカ如キコトヲ爲スヲ要センヤ然レモ年金、恩  
 給ニ至リテハ此ト同一ニ論スルコトヲ得サルナリ或ハ曰ク年金及ヒ恩  
 給ハ停止公權ノ期限間ハ之ヲ與ヘス即チ其間ハ政府ニ於テ之ヲ預リ  
 置キ滿期ノ後之ヲ還與スル者ナリト蓋シ此論ハ停止公權ハ公權ヲ執  
 行スルコトヲ停止スルト云フ詭ノ結果タルニ過キスシテ固ヨリ誤謬タ  
 ルヲ免レサルナリ蓋シ年金ト云ヒ恩給ト云ヒ之ヲ受クルノ權利ハ他  
 人ヲシテ代リテ執行セシムルコトヲ得ル者ナリ故ニ法律ニ於テ被刑者  
 本人ノ執行ヲ停止スルハ則チ可ナリ代理人ノ執行ヲ禁遏スルニ至リ  
 テハ則チ不可ナリ然レモ一方ニ禁遏シテ他ノ一方ニ許容スルハ法律



ノ尊嚴ヲ汚損スルノ嫌アリ是ニ於テ説者又將ニ曰ハントス法律ノ精神ハ唯被刑者本人ノミナラス代理人ト雖モ亦之ヲ執行スルヲ許サ、ル可シト説者ノ精神ヲシテ果シテ此ニ出テシメハ是レ論理ニ適合セサル自家撞着ノ説ト謂ハサル可カラス既ニ停止公權ハ權利ノ執行ヲ停止スル者ナリト云ハ、其代理人ニ於テ執行シ得ル者ハ固ヨリ之ヲ許容セサル可カラサルハ事理ノ明白ナルヲナラスヤ然ルニ之ヲ禁遏スルハ何ノ故ツヤ況ヤ刑期間、年金、恩給ヲ預リ置キテ滿期ノ後之ヲ給與スルカ如キハ刑ノ効力ノ薄弱ナルヲ示ス者ナルヲヤ是故ニ予カ前ニ述ヘシ如ク停止公權ハ公權ノ執行ヲ停止スル者ニ非スシテ全ク之ヲ剝奪シ即チ禁錮ノ刑ニ處セラレタル間ノ剝奪公權ナリト解釋スルルハ此場合ニ於テモ亦敢テ不都合ヲ醸スコト無シ即チ刑期間ハ年金、恩給ヲ有スルノ權利ヲ剝奪スルカ故ニ其刑期間ハ之ヲ給與スルコト無

ク又ハ之ヲ預リ置クト云フカ如キコトモ無クシテ滿期ノ時ヨリ再ヒ舊時ノ如クニ給與スルナリ故ニ刑期間ハ假令代理人ニテモ之ヲ受取ルノ權アルコト無シ何トナシハ剝奪セラレタル權利ハ固ヨリ被刑者ノ有ニ非ス被刑者ノ有セサル權利ヲハ代理人ニ於テ執行スルコト得ルノ理ナクシテハナリ  
 以上解説スル所ヲ要約スレハ停止公權ハ第三十一條ハ公權ヲ剝奪スル者ナリト雖モ勳章、位記、貴號ハ實際上剝奪ハ限ニ在ラサル可シト云フニ在リ

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止ス  
 主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付シタル者亦同シ

本條別ニ困難ナル問題アルコトナシ即チ輕罪ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後監視ニ付セラレタル者若クハ第二百二十六條及ヒ第九十二條等ノ場

(第三十四條) 第一編 第二章 第三節 附加刑處分



合ニ於テ主刑ヲ免シテ止メ監視ノミニ付セラレタル者ハ其監視ノ期限間停止公權ニ處セラル、ナリ若シ監視中公權ヲ行フテ許ス者トセハ犯者ヲ制シテ再犯ヲ豫防スルガ爲メニ設ケタル監視モ其効ヲ生スルヲ無キニ至ル可シ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ス

本條ハ所謂禁治産ナル附加刑ノ期限ヲ規定シタル條文ナリトス禁治産即チ法文ニ所謂自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ストハ財産ニ關スル私權ノ執行ヲ停止スルノ謂ナリ即チ賣買贈與貸借等總テ財産ノ處分ニ關シタル權利ノ執行ハ悉ク之ヲ禁止スルモノナリ何故ニ此ノ如ク重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ限リ財産處分ノ權利ノ執行ヲ停止スルヤ曰ク若シ重罪ヲ犯シタル兇惡人ヲシテ獄裡ニ於テ財産ヲ處分スルコトヲ許容スル時ハ自己ノ財産ヲ利用シテ脱獄ヲ圖リ外人ト交通シテ

禁治産ノ權ハ若クハ公權トシテ奪ハレ得ル

己ノ目的ヲ遂ケ或ハ看守ヲ籠絡シテ自己ノ慾望ヲ逞フスルカ如キ不良ノ結果ヲ生シ遂ニ刑ノ効驗ヲ薄フスルコト少カラズ是レ禁治産ノ制度アル所以ナリ  
本條ハ禁治産ハ之ヲ彼ハ停止公權若クハ剝奪公權ト混ス可カラズ彼等ハ權利ヲ剝奪スル者ナレトモ此ハ唯權利ハ執行ヲ停止スルニ過キス  
コトヲ得サルノミニシテ私權其物ハ依然之ヲ保存ス即チ被刑者ハ所有者ニシテ唯之ヲ處分スルヲ得サルノミ貸與シタル人ニ對シテハ債權者ニシテ之ヲ請求スルコトヲ得サルノミ乃チ此等被刑者ニハ財産管理人アリテ之ヲシテ其財産ニ關スル總テノ支配ヲ爲サシム其方法ハ民法ニ規定スヘキ者ナリ(民法人事編第三百三十六條第三百三十七條我刑法草案ニハ財産管理人ニ關スル一條ヲ挿入シタリシカ現行刑法ニ



ハ之ヲ掲ケス  
 斯ハ如ク禁治産ハ唯公權ノ執行ヲ停止スルニ過キサルヲ以テ代理人  
 ナシテ其權利ノ執行ヲ爲サシムルハ已ニ法律ノ許容スル所ナルハミ  
 ナラス權利ノ種類ニ因リ自己ハ外人ノ代理スルト能ハサル者ハ被  
 刑者ト雖モ尙ホ之ヲ執行スルヲ得ヘシ若シ此種ノ權利ヲモ執行ス  
 ルコトヲ禁スルモノトセハ其結果タル法律ハ人ノ私權ヲ剝奪スルト同  
 一ニ歸シ禁治産ノ目的性質ニ背戾スルニ至ル可シ故ニ婚姻養子遺囑  
 ノ如キハ其結果財産ニ關スル者ト雖モ他人ヲシテ代理セシムルコト能  
 ハサルヲ以テ自ラ之ヲ爲サル可カラサルナリ婚姻又ハ養子ニ就キ  
 テハ別ニ疑ナシ唯遺贈ハ直接ニ財産ニ關スル者ナレハ被刑者ヲシテ  
 之ヲ爲サシムルハ疑ナキ能ハス佛國法律家ノ定説ニ據レハ遺贈ト雖  
 モ婚姻ト同シク之ヲ許容セサル可カラス其理由ハ遺贈ハ直接ニ財産

ノ處分ニ關スト雖モ是レ死後ニ向ヒテノ處分ニ過キサルヲ以テ別ニ  
 危険ナシト云フニ在リ蓋シ至當ノ論ナリ若シ被刑者ニ於テ自ラ財  
 産ヲ治ムルコトヲ禁セラシタルニモ拘ハラズ其財産ヲ處分シタル時ハ  
 如何ナル制裁アリヤ例ヘハ重罪ノ刑ニ處セラレテ獄ニ在ル者ハ他人  
 ト契約スルカ如キコトハ實際甚々稀ナリト雖モ刑期中逃走シテ外ニ在  
 ル者ノ如キハ他人ト契約スルコト少カラス此ノ如キ場合ニ於テ被刑者  
 ニ對シテ如何ナル制裁アル可キカト云フニ刑事上別ニ制裁ナシ其制  
 裁ハ民事上ニ在リ民事上ニテハ無能力者ノ爲シタル合意ハ銷除シ得  
 ヘキヲ元則トス而シテ刑事上ノ被禁治産者ハ則チ合意ヲ爲スノ能力  
 ナキ者ナレハ被禁治産者ノ爲シタル合意ハ之ヲ銷除スルコトヲ得ヘシ  
 但シ其取消スニ付キテ區別セサル可カラサルハ民事上ニテ無能力者  
 ノ爲シタル合意ヲ無効ト爲スニ付キ其銷除訴權ヲ有スル者ハ無能力



者ノ一方ノミナレモ刑事上ノ治産ヲ禁セラレタル無能力者ノ爲シタル合意ニ付キテハ獨リ其無能力者ノミナラス其無能力者ト合意ヲ爲シタル者ヨリモ銷除訴權ヲ主張スルヲ得ヘシ即チ銷除訴權ノ點ニ於テ一種ノ制裁アリト謂フ可シ此種ノ銷除訴權ニ關シタルハ民法財産編人權ノ部ニ詳カナレハ茲ニ喋々セス

本條ニ其主刑ノ終ルマテ云々ト有ルニヨリ此文辭ヨリ推究スレハ死刑ニ處セラレタル者ニ付キテハ禁治産ヲ科セサル者ノ如シ何トナレハ死刑ヲウ主刑ノ終ルハ即チ犯者ノ性命ノ亡失ニ在リ而シテ死者ハ固ヨリ權利ヲ有スル者ニ非ス故ニ死者ニ對シテ禁治産ヲ科スルノ必要ナクシテハナリ然レモ死刑ニ處セラレタル者ニ對シテモ尙ホ禁治産ヲ科スルノ必要アリ個ハ死刑ニ處セラレタル者ニ剝奪公權ナル附加刑ヲ科スルノ必要アルト同一理由ナリ(第三十二條ノ解釋參看)草案ハ

此ニ慮ル所アリ私權ノ禁止ハ死刑ニ就キテ其執行迄ニ存スルヲテ云ヘリ蓋シ現行刑法ノ之ヲ削除シタルハ敢テ無用ノ長文トシテ爲シタルニ非ス主刑ノ終ルマテナル文辭中ニハ此等ノ事ヲ包含セリト思考シタルニ因ルナリ

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得

流刑ニ處セラレタル囚徒ハ有期流刑ハ三年無期流刑ハ五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ニ依リテ幽閉ヲ免シ島地ニ居住セシムルヲ得ル者ナリ既ニ島地ニ居住スルヲ許サル、時ハ一家ヲ成サ、ル可カラズ一家ヲ成スヲ得ルニ尙ホ治産ノ禁アル時ハ免幽閉ヲ設ゲタルノ効何クニ在ルヲ知ラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

本條ハ「監視」ナル附加刑ノ期限ヲ規定シタルノ條文ナリ本刑ノ構成ハ

(第三十六、七條) 第一編 第二章 第三節 附加刑處分 三五五



監視ノ目

監視ノ利

別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム(刑法附則第二章參看)  
 監視ハ主刑ノ滿期出獄ノ後警察上ヨリ犯者ノ行狀ヲ監察シ多少自由  
 ナ制限シ以テ再犯ヲ豫防スルヲ目的ト爲ス者ナリ故ニ刑ト云ハハ  
 リハ寧ロ行政上ノ取締處分ト稱スルノ妥當ナルニ若カサルナリ本刑  
 ノ利害得失ニ付キテハ駁論少カラス學者ノ說ニ曰ク監視ハ本ト主刑  
 ナ受テ終リ社會ニ出テ自活スル者ニ施ス所ノ刑ナレバ之ヲシテ其効  
 アラシメンニハ犯者ノ行狀ヲ監察スル爲メニ多少ノ制裁アル規則ヲ  
 設ケサル可カラズ而シテ其規則ニハ犯人住居ノ地ヲ制限シ或ハ通行  
 券ヲ有セザレハ旅行ヲ爲スヲ禁シ或ハ毎月何回所轄警察署ニ出頭  
 セシメ或ハ酒宴遊興ノ席又ハ群集ノ場合ニ集會スルヲ禁スル等諸種  
 ノ制裁アルカ故ニ監視ニ附セラレタルヲ知ラサル公衆ヲシテ故ラニ  
 之ヲ知ラシムル者ト謂ハサル可カラズ夫レ被刑者ノ屢再犯ニ至ルハ

出獄ノ後自活ノ途ナキニ苦ムニ因ルヲ常トスル者ナルニモ拘ハラズ  
 此ノ如キ制裁ヲ設ケテ公衆ヲシテ刑餘ノ人タルヲ知ラシムル時ハ  
 公衆ハ何ヲ以テ此破廉耻ノ人ヲ信用センヤ此危險ノ人ヲ使用センヤ  
 終ニ社會ノ門戸自ラ閉鎖シテ監視ヲ受ケタル者ヲシテ饑餓凍餒ノ苦  
 境ニ陥ラシメ已ムヲ得ス再ヒ罪ヲ犯スニ至ル者比々皆是ナリ而シテ  
 其再犯ハ之ヲ罰セサル可カラズ即チ多ク再犯者ヲ現出スルニ至ル殊  
 ニ犯罰人ハ無學ノ徒ニ多キヲ以テ目ニ一丁字ヲ解セサル者ノ如キハ  
 監視規則ヲ讀ム能ハス其朗讀ヲ聞クモ耳聞ハ遺忘シ易キ者ナレハ偶  
 然其規則ヲ破ルヲ甚タ多ク一罪ヲ犯シテハ又一罪ヲ重テ再三再四終  
 ニ終身獄ニ在ルカ如キ不幸ニ陥ルヲ無キニ非ス要スルニ監視ハ再犯  
 ナ防カンカ爲メニ設ケタル制度ナリト雖モ其實監視ハ再犯ヲ增加ス  
 ル刑ナリト極言セサル可カラサルニ至ル可シト實際家ハ更ニ監視ヲ



駁撃シテ曰ク刑法附則中ニ監視ニ付スル者住居ナシ及ヒ引取人ナキ  
 時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス  
 住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シト規定セラレタリ此規定  
 カル決シテ善良ノ結果ヲ生スル者ニ非ス即チ禁錮ヲ繼續スル者ト謂  
 フヘシ且此ノ如キ監視人ハ出獄スルコトヲ得サルヨリ大ニ不平ヲ鳴シ  
 亂暴ヲ行ヒテ取締上甚ク困難ナリト此ノ如ク監視ハ學者及ヒ實際家  
 ニ排撃セラル、ヨリ觀察スレハ善良ノ刑ヲサレコト明白ナルカ如シ  
 然レモ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ監視其物ハ敢テ不良ノ刑ニ非スシテ唯其  
 規則ノ嚴ナルヨリ生シタル結果タルニ過キス若シ其規則ヲ寬ニスル  
 時ハ此ノ如キ不良ノ結果ヲ生セサルナリ人或ハ曰ハノ監視規則ヲ寬  
 ニスルモハ行狀ノ監察充分ナラス監察充分ナラザレハ則チ本刑ノ効  
 驗ヲ表ハサス本刑ノ効驗ヲ表ハサ、ルモハ之ヲ廢スルノ勝ルニ若カ

監視ノ性質

サルナリト其レ或ハ然ラシ監視アレハ多少行政上ヨリシテ被  
 刑者ノ行狀ヲ監察スルヲ得故ニ規則ヲ寬ニシテ唯被刑者ヲ束縛シタ  
 ル實アレハ則チ足レリ例ヘハ警察官令狀ヲ携帶セザレハ夜間人家ニ  
 入ルコトヲ得サル者ナルニ監視ニ付セラレタル者ノ家ニハ令狀ナクモ  
 入ルコトヲ得ルカ如クスルモハ敢テ彼カ如ク嚴重ナル規則ヲ設ケスシ  
 テ被刑者ヲシテ罪ヲ再ヒスルカ如キ不良ノ結果ヲ生スルコト莫カラシ  
 ムヘシ實ニ學者及ヒ實際家ハ唯監視規則ノ良否ヲ論スル者ニシテ監  
 視其物ヲ論スルニ非サルナリ監視豈廢スヘケンヤ  
 監視ノ刑ヲ執行スルニ付キ其規則ノ寬ト嚴トヲ論セス本刑ハ即チ權  
 利ニ影響ヲ及ホス所ノ者ナリ監視人ノ住居地ヲ限ルカ如キ或ハ酒宴  
 遊興ノ場所ニ參會スルヲ禁スルカ如キ一見スレハ身體ニ及フノ刑ナ  
 ルカ如シト雖モ是レ皆自由ノ權利ヲ束縛スル者ナリ茲ニハ唯監視ハ



權利ニ及フノ刑ニシテ身體ニ及フノ刑ニ非サルヲ確定シ置クハ則チ足レリ蓋シ之ヲ確定スルハ刑ノ期滿免除ヲ解スルニ當リテ至大ノ關係ヲ生スルヲ有レハナリ諸君請フ之ヲ記憶セラレヨ詳細ハ期滿免除ノ條下ニ至リテ辯スヘシ

我刑法ニ於テ監視ハ如何ナル場合ニ在リテ何程ノ期限間之ヲ犯人ニ科スル者ナリヤ個ハ第三十七條ニ於テ悉ク之ヲ明言セリ本條ニ所謂「本刑ノ短期三分ノ一」トハ之ヲ例スルニ輕懲役ニ處セラレタル者ハ其刑ノ短期ハ六年ナルヲ以テ六年ノ三分ノ一即チ二年ノ監視ニ付スルヲ謂フナリ

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

監視ハ犯人ノ行狀ヲ監察シテ以テ再犯ヲ豫防スルカ爲メニ設ケラレタル附加刑ナルカ故ニ獨リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニノミ科スル

ノ理アラス乃チ本條ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲ監視ニ付スル方法ヲ規定シタル者ニシテ重罪ノ場合ト異ナル所ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑ニ宣告ヲ用井スシテ各本刑ノ短期三分ノ一ニ相當スル期限間監視ニ付セラル之ニ反シテ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ必ず宣告ヲ用井テ之ヲ附加シ及ヒ罪ノ種類ニ因リテ附加スルコトヲ得ル者ト得サル者トアリ之ヲ其區別ト爲ス抑重罪ヲ犯シタル者ハ最モ大ニ道德ヲ破リ社會ヲ害スル者ナルヲ以テ其罪ノ種類ヲ論セス悉ク之ヲ監視ニ付スルノ必要アリ輕罪ハ其罪度至リテ輕ク且罪ノ種類ニ因リテハ毫モ監視ニ付スルノ必要ナキ者アリ是レ特ニ本條ノ規定アル所以ナリ然リト雖モ罪ノ種類ニ因リテ監視ニ付スルノ必要アル者ト無キ者ト有ルハ何ソ獨リ輕罪ノミニ限ランヤ重罪ト雖モ亦此區別アルヤ必然ナリ今人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者即強



盜罪ヲ犯シタル者ノ如キハ假令之ヲ輕懲役ニ處シテ痛苦ヲ與フルモ  
 尙ホ再犯ノ憂アリ然レモ事故アリ人ヲ怨望スルヲ多年一朝邂逅シテ  
 終ニ之ヲ殺戮シタル者ノ如キハ唯目的トスル人ヲ殺セハ則チ足レリ  
 復タ敢テ他ノ惡事ヲ爲サ、ルナリ故ニ一旦之ヲ刑ニ處スルハ更ニ  
 之ヲ監視ニ付シテ以テ再犯ヲ豫防スルノ必要アラサルナリ斯ノ如ク  
 論スルハ我刑法カ重罪ト輕罪トニ因リテ監視ニ差違ヲ爲シタルハ  
 其理由トスル所貫徹セスト謂フヘシ惟フニ我刑法ハ一般ヨリ觀察シ  
 テ重罪ハ其罪重シ輕罪ハ其罪輕シ故ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ  
 悉ク監視ニ付シ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ各本條ニ規定シタル者  
 外ハ監視ニ付スルヲ無シト規定セラレタルナランカ

第三十九條 死刑及七無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒ  
 ス五年間監視ニ付ス  
 死刑ニ處セラレタル者ハ生命ヲ絶タレ無期刑ニ處セラレタル者ハ終

刑ノ期滿  
 免除ノ利  
 害スルヲ  
 監視ノ科

身獄内ニ在ルヲ以テ之ニ監視ヲ附加スルノ必要ナキカ如シト雖モ此  
 等ノ者若シ脱獄スルカ如キヲ有リテ期滿免除ヲ得タル時ハ即チ重罪  
 チ犯シタル資格ニテ世上ニ立ツモノナレハ之ヲ監視ニ付スルノ必要  
 アリ故ニ本條ニ於テ死刑及七無期刑ニ處セラレテ終ニ期滿免除ヲ得  
 タル者ハ別ニ宣告スルヲナクシテ五年間監視ニ付スルヲ規定シタ  
 リ然レモ期滿免除ヲ設ケラレタル精神ヨリシテ本條ヲ觀察スレハ實  
 ニ正當ノ理由ナキ條文ト謂フヘシ夫レ刑ノ期滿免除ヲ得タルハ社會  
 ニ於テ全く其罪ヲ遺忘シ即チ之ニ刑ヲ科スルハ必要ナキカ爲メニ刑  
 罰ヲ免シタル者ナリ其レ然リ本條ノ場合ニ於テハ主刑スラ已ニ之ヲ  
 科スルハ必要ナキ者ナルニ何ソ之ニ附加刑ヲ科スルハ必要アラザヤ  
 或ハ本條ヲ辯護シ全ク主刑ニ服シ終リタル者ニシテ監視ニ付スルノ  
 必要アラハ刑ニ服セスシテ脱走シタル者ノ如キハ假令期滿免除ヲ得



ルモ尙ホ監視ニ付セザレハ兩者ノ權衡ヲ失スル者ニ非スマト云フ者アリト雖モ然レモ期滿免除ナル制度ヲ設ケタル精神ニ背戻スルヲ免ル、能ハス諸君ハ異日期滿免除ノ詳解ヲ聽カシメテハ其理由ヲ發見スルヲ易々タル可シ

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス  
若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

本條ハ監視ノ期限起算點ヲ規定シタル條文ナリトス本條ハ別ニ解釋ニ困難ナラス一讀スレハ之ヲ了スヘシ但シ此ニ於テモ亦期滿免除ノ點ニ付キ疑點ヲ存ス本條ニ於テハ主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ其捕縛セラレタル日ヨリ監視ノ期限ヲ起算スルトナセリ然レモ已ニ期滿免除ヲ得タル者ハ其刑ヲ免カシムル者ナレハ業已ニ裁判所又ハ監獄

署ニハ毫モ關係ナキ人ナリ乃チ之ヲ捕縛スルハ實ニ奇怪ト謂ハサル可カラズ但シ曾テ大罪ヲ犯シタル者ナレハ期滿免除ノ後之ヲ捕縛スルモ敢テ差支ナキ者ノ如シト雖モ社會ハ期滿免除ヲ得タル者ニ付キテハ其罪ヲ遺忘シタル者ナレハ之ヲ捕縛スル必要ノ生スヘキ理ナク之ヲ極言スレハ社會ハ無罪者ヲ捕縛スルニ同シ然ラハ則チ本條モ亦實ニ期滿免除ヲ設ケタル精神ニ背戻シタル規定ナリト謂フヘシ然リト雖モ立法者ハ前條ニ於テ監視ハ期滿免除ヲ得タル者ニモ尙ホ之ヲ科スト規定シタルニ因リ其結果トシテ本條ニ至リ捕縛ノ日ヨリ其刑期ヲ起算スト規定シタルナリ

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得  
第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第一  
二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス



此兩條ハ一讀了解スヘク別ニ説明ヲ要セサルナリ

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ

於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタルモノハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁錮シタル物件ノ刑

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁錮シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒

收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ

又所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

第四十三條及ヒ第四十四條ハ共ニ附加刑タル沒收ノ事ヲ規定シタル

條文ナルヲ以テ説明ノ便ヲ圖リ合括シテ之ヲ講スル事トナサン

沒收トハ如何沒收トハ物件ヲ官庫ニ沒入スル所ノ附加刑ナリ其性質

罰金ト同シク財産權ニ及フハ刑ニシテ唯其異ル所ハ罰金ハ其裁判言

渡確定スルハ政府ハ犯人ニ對シテ債權者ト爲リ沒收ハ其裁判言渡確

沒收ノ性

定スルハ政府ハ物件ハ所有者トナリ即チ一ハ人權ヲ生シ一ハ物權ヲ  
生スルハ差異アルト是ナリ

沒收ハ各國共ニ古昔ヨリ採用シタル刑ニシテ二様ノ區別アリ一般ノ

沒收及ヒ特別ノ沒收トチ是ナリ一般ノ沒收トハ犯人ノ所有ニ屬スル

財産ヲ包括シテ沒收スルヲ謂フ我國ニ於テハ德川政府ニ至ルマテ此

一般ノ沒收ヲ用井タリ西洋ニ於テモ千七百八十九年ノ頃マテハ此種

ノ沒收盛ニ行ハレテ諸種ノ弊害ヲ生シタリト云フ抑一般ノ沒收ハ舉

クテ犯人ノ家産ヲ沒收スルモノナルヲ以テ其苦痛ノ及フ所ハ犯者一

身ニ止マラスシテ一家悉ク窮途ニ泣クノ慘狀ヲ呈シ所謂刑ハ宜ク一

身ニ止マルヘシト云フ一大原則ニ背戾スルノミナラス犯罪ヲ利用シ

テ官庫ヲ富マスノ嫌ナキ能ハス故ニ苟モ今日開明ヲ以テ稱セラルハ

邦國ノ刑法ニ於テハ此種ノ沒收ヲ採用シタル者絶エテ有ルヲ無シ



特別ノ沒收トハ一般ノ沒收ト全ク其性質ヲ異ニシ預メ法律ヲ以テ沒收スヘキ物件ヲ特定スルモノナリ而シテ其之ヲ沒收スルノ理由ハ此物件ヲシテ世ニ存在セシメハ以テ社會ノ安寧ヲ害スヘク以テ危險ヲ生スヘク而シテ犯人ヲシテ不正ノ利ヲ得セシムヘカラサルニ由ル要スルニ沒收ハ之ヲ沒收スルノ必要アルカ爲メニ行フ者ニシテ夫ノ一般ノ沒收ノ如ク沒收スヘキ必要アルト否トヲ問ハス悉ク沒收スルカ如キニ非ス故ニ此種ノ沒收ハ唯他人ニ損害ヲ及ホサルノミナラス社會ノ安寧ヲ支持スルニ必要缺クヘカラサル所ノ刑ナリ是ニ於テ各國刑法ハ皆此種ノ沒收ヲ採用セリ我刑法モ亦斷然舊時ノ弊竇ヲ一洗シテ特別ノ沒收ヲ採用シタリ而シテ此種ノ沒收ハ社會ノ安寧ヲ維持スルノ必要ヨリシテ設ケラレタル者ナルヲ以テ之ヲ刑ト云ハノヨリハ寧ろ行政上ノ取締處分ト云フハ至當ナルニ若カサルナリ

此兩條ハ最モ説明ニ困難ニシテ且立法上ヨリ論スルモ明晰ニ規定スルハ至難ノ事業ナルヲ以テ此兩條ニ對シテ解釋ヲ下スニ區々ニシテ異說紛々底止スル所ナク終ニ人ヲシテ此兩條ヲ以テ刑法上尤モ困難ナル條文ト云フニ至ラシム異說斯ノ如ク多シト雖モ孰レモ予テシテ感服セシムル者ナク予モ亦曾テ解釋ヲ試ミ之ヲ世ニ公ニシタルト有リシカ是レ亦甚タ不完全ニシテ今日ヨリ之ヲ觀レハ笑フニ堪ヘタル者ナキニ非ス是ニ於テ予ハ此條ニ對シテ明晰ナル解釋ヲ得ント欲シテ深く思考ヲ費シ又ボアソナード氏ニ就キテ質問シタリト雖モ予ノ不敏ナル不幸ニモ終ニ釋然タル能ハサリシ夫レ法律ノ解釋ハ實ニ謹慎ヲ加ヘスノハアル可カラス殊ニ刑法ノ如キハ毫厘ノ差以テ千里ノ誤ヲ致ス者ナリ故ニ苟モ法學ニ從事スル者ハ不明瞭ノ條文ナリトシテ迷霧ノ裡ニ放棄スヘキニ非ス因テ予ハ自ら理論ト認メ正理ト信ス